

官報

號外

明治四十一年三月十一日

水曜日

印刷局

第二十四回 帝國議會 衆議院議事速記錄第十三號

明治四十一年三月十日(火曜日)午後一時八分開議

議事日程 第十二號 明治四十一年三月十日

午後一時開議

第一 水利組合法案(政府提出)

第二 裁判所構成法中改正法律案(政第五六號)(政府提出、貴族院送付)

第三 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(政府提出)

第四 災害地租特別處分法案(政府提出)

第五 所得稅法中改正法律案(政府提出)

第六 營業稅法中改正法律案(政府提出)

第七 織物消費稅法案(政府提出)

第八 賣藥稅法中改正法律案(政府提出)

第九 砂金採取地稅法案(政府提出)

第十 鑛業法中改正法律案(政府提出)

第十一 登錄稅法中改正法律案(政府提出)

第十二 取引所稅法中改正法律案(政府提出)

第十三 通行稅法案(政府提出)

第十四 相續稅法中改正法律案(政府提出)

第十五 狩獵法中改正法律案(政府提出)

第十六 印紙稅法中改正法律案(政府提出)

第十七 民事訴訟用印紙法中改正法律案(政府提出)

第十八 商事非訟事件印紙法中改正法律案(政府提出)

第十九 行政訴訟書類印紙貼用廢止ニ關スル法律案(政府提出)

第二十 沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル法律案(政府提出)

第二十一 鐵道買收ニ關スル法律案(請願委員提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會ノ續(委員長報告)

第一讀會

第二十二 質屋取締法中改正法律案(磯部四郎外、十二名提出)

第二十三 市場法案(川島龍藏外、五名提出)

第二十四 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(矢島中外、三名提出)

第二十五 地租條例中改正法律案(佐竹作太郎外、二名提出)

第二十六 普通選舉ニ關スル法律案(松本若平外、二名提出)

第二十七 市制中改正法律案(立川雲平外、一名提出)

第二十八 町村制中改正法律案(一名提出)

第二十九 他人ノ土地ニ於ケル工作物及竹木ノ所有權保護ニ關スル法律案(磯部四郎外、六名提出)

第三十 衆議院議員選舉法中改正法律案(磯部四郎外、二名提出)

第三十一 衆議院議員選舉法中改正法律案(國井庫、一名提出)

第三十二 日本水產銀行法案(川島龍藏外、十名提出)

第三十三 漁業法中改正法律案(川島龍藏外、十一名提出)

○副議長(箕浦勝人君) 今日ハ議長病氣ニテ缺席サレマシタカラ、本席ヲ保チマス

諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

一 政府ニ於テ撤回セラレタル議案左ノ如シ

地租條例中改正法律案

宅地地價修正法案

一 政府ヨリ左ノ質問書ニ對シ答辯書ヲ送付セラレタリ

大藏省證券ニ關スル質問趣意書(松田大藏大臣)

衆議院議員淺野陽吉君提出大藏省證券ニ關スル質問ニ對シ別紙答辯書差進候也

明治四十一年三月二日

內閣總理大臣侯爵西園寺公望

衆議院議長杉田定一殿

衆議院議員淺野陽吉君提出大藏省證券ニ關スル質問ニ對スル答辯書

一大藏省證券ノ發行現在高ハ四千五百六拾萬圓ニシテ之ヲ前數年ニ比較スルトキハ決シテ著シク増加ヲ示サ、ルコト別表ノ如シ

二 大藏省證券ノ發行ニ際シテハ慎重ナル注意ヲ用ユルヲ以テ民間金融界ニ惡影響ヲ及ボスコトナキノミナラス却テ同證券ハ民間短期餘裕金ノ運用ニ多大ノ便宜ヲ與フルノ利益アリト認ム

三 大藏省證券ハ短期ノ融通證券ニシテ公債ト全ク別種ノモノナルヲ以テ其發行ハ公債時價ニ何等ノ影響ヲ與ヘサルナリ

四大藏省證券ハ日本銀行ニ於テ市場ノ需用ニ應ジ賣却スルヲ以テ其市場賣行
キ高ハ即チ市場餘裕金ノ回收トナリ反テ兌換券ノ收縮ヲ見ルコトヲ得ヘキナリ
五十四一年度ニ於ケル大藏省證券ノ最高發行額ハ當該年度豫算ニ定メラレタ
ル金額ナリ

但明治三十八年法律第十七號ニ依ル專賣局及製鐵所据置運轉資本補
足等ノ融通證券ノ發行ハ本文ノ外ニシテ其制限額ハ法律ニ於テ定メアリ
右及答辯候也

明治四十一年二月二十七日

大藏大臣松田正久

大藏省證券發行高比較表

四十一年現在	四十一年二月末	三十九年二月末	四十一年二月末	現在各年ニ比較増減
41,000,000	41,000,000	39,000,000	41,000,000	比増
41,000,000	41,000,000	39,000,000	41,000,000	比増
41,000,000	41,000,000	39,000,000	41,000,000	比増
41,000,000	41,000,000	39,000,000	41,000,000	比増
41,000,000	41,000,000	39,000,000	41,000,000	比増

關東都督府事務官 大内丑之助

外務省所管事務政府委員被仰付

一貴族院ヨリ送付セラレタル政府提出案左ノ如シ

一貴族院ハ本院送付ニ係ル政府提出陸海軍召集諸費繰替支辨ニ關スル法律案

臺灣事業公債法中改正法律案

鐵道敷設法中改正法律案

明治四十一年度歲入歳出總豫算案並明治四十一年度各特別會計歳入歳出
豫算案豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(第一號)

明治四十一年度歲入歳出豫算追加案

沖繩縣及東京府小笠原島伊豆七島ニ於ケル酒造稅ニ關スル法律案

沖繩縣酒類出港稅則中改正法律案

酒母醪及麴取締法中改正法律案

煉乳原料砂糖戻稅法案

日本大博覽會ノ出品ニ對スル發明意匠實用新案及商標保護ニ關スル法律案ヲ
可決シタル旨同院ヨリ通牒ヲ受領セリ

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

大船渡鐵道鐵業ノ利益補給ニ關スル建議案

提出者 阿部 德三郎君

三浦 盛德君

小田 文行君

荒谷 桂吉君

大淵 龍太郎君

金鑛官營ニ關スル建議案

提出者 根本 正君

普通選舉ニ關スル法律案

提出者 松本 君平君

市制中改正法律案

提出者 立川 雲平君

安藤 新太郎君

遊田 研吉君

森本 駿君

齋藤 勤七君

小 河 源一君

近江 谷 榮次君

板倉 中君

三浦 盛德君

日向 輝武君

石井 信君

高橋 金治君

阿部 勇治君

町村制中改正法律案
提出者 立川 雲平君 安藤 新太郎君
他人ノ土地ニ於ケル工作物及竹木ノ所有權保護ニ關スル法律案
提出者 磯部 四郎君 花井 卓藏君 谷澤 龍藏君
立川 雲平君 古賀 庸藏君 阿部 德三郎君
望月 長夫君

陽曆勵行ニ關スル建議案

提出者 山村 豐次郎君

鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 佐竹 作太郎君

選舉權擴張ニ關スル建議案

提出者 吉植 庄一郎君

天鹽北見鐵道速成ニ關スル建議案

提出者 淺 羽 靖君

鑛煙毒豫防ニ關スル建議案

提出者 石 井 信君

鑛業獎勵ニ關スル建議案

提出者 古賀 庸藏君

來遊外客待遇ノ設備ニ關スル建議案

提出者 吉植 庄一郎君

長崎縣下對馬國壹岐國ヲ福島縣ニ編入法律案

提出者 梅野 初實君

家祿賞典祿處分ニ關スル法律案

提出者 森 秀次君

一花井卓藏君ヨリ關東州其他ニ於ケル收入支出ニ關スル質問主意書ヲ提出セラレ
タリ

一加瀬醇逸君ヨリ安奉鐵道改築ニ關スル再質問主意書ヲ提出セラレタリ
(左ノ質問書ハ朝讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

關東州其他ニ於ケル收入支出ニ關スル質問主意書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十一年二月九日

提出者 花井 卓藏

贊成者 大竹 貫一 名

關東州其他ニ於ケル收入支出ニ關スル質問主意書

一政府ハ明治三十八年同三十九年ノ兩年度關東州ニ於テ地方費トシテ金二
百萬餘圓ヲ收入シ金四百四十萬餘圓ヲ支出シタリト云フ信乎

二政府ハ右兩年度營口ニ於テ稅關收入トシテ金三百萬圓以上ヲ收入シ其收入金

外三十一名

ヲ以テ税關其他ノ費用ニ充テ剩餘ハ平和克復後之ヲ清國ニ返付シタリト云フ
信平

三政府ハ右兩年度權太ニ於テ地方費トシテ金百三十萬餘圓ヲ收入シ金六十萬
圓ヲ支出シタリト云フ信平
前項ノ事實ヲ確メタル上更ニ二政府ニ向テ問フ所アラントス
右及質問候也

安奉鐵道改築ニ關スル再質問主意書
右成規ニ據リ提出候也

明治四十一年三月九日
提出者 加瀬 禧逸

贊成者 小川 平吉
外二十九名

安奉鐵道改築ニ關スル再質問主意書
去月十三日奉天安東縣鐵道改築ニ關スル質問趣意書ヲ提出シタルニ政府ハ同月
二十八日安東鐵道ノ改築ハ命令期間内ニ於テ竣功セシメ得ル見込ナリトノ答
辯書ヲ廻付セラレタリ然レトモ從來ノ經過ヲ敘スルコトナク漠然竣功セシメ得ル見込
ナリトノ一言ハ未タ以テ世上ノ憂慮ヲ解クニ足ラス敢テ問フ政府ハ南滿洲鐵道株
式會社開業後一箇年ヲ經タル今日ニ至ルノ間如何ナル處置ヲ爲シツ、アリシヤ
右及質問候也

一委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ
關稅定率法輸入稅表中改正法律案(森木駿君外三名提出)委員會

委員長 山本 幸彦君 理事 田寺 敬信君
明治三十年法律第三十九號中改正法律案委員會

委員長 中西 光三郎君 理事 萩野 左門君
商科大學設立ニ關スル建議案委員會

委員長 根本 正君 理事 鷗飼 退藏君
鐵道特別會計ニ關スル建議案委員會

委員長 佐竹 作太郎君 理事 上埜 安太郎君
田村 惟昌君
大戸 復三郎君
守屋 此助君

北海道國有林中公有林豫定地附與ニ關スル建議案委員會
委員長 宮 古啓三郎君 理事 安島 重三郎君

明治四十年法律第三十一號中改正法律案委員會
委員長 澤田 耕治郎君 理事 宮本 嘉樂君

○副議長(箕浦勝人君) 是ヨリ會議ヲ開キマス、辭表ヲ差出サレタル御方ガアリマス
カラ、ソレヲ書記ヲシテ朗讀致サセマス
(書記朗讀)

辭職願

拙者儘今般都合有之衆議院議員辭職仕度候間御聽許被下度此段願上候也
明治四十一年三月四日

衆議院議長杉田定一殿
衆議院議員 武藤 金吉

官報號外 明治四十一年三月十一日

衆議院議事速記録第十三號 武藤金吉君辭職ノ件

○副議長(箕浦勝人君) 唯今朗讀致シマシタ武藤君ノ辭表ハ許可シテ差支アリマセ
ヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 差支ナシト認メマス
(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(箕浦勝人君) 唯今朗讀致シマシタ武藤君ノ辭表ハ許可シテ差支アリマセ
ヌカ
(「聽ニマセヌ」ト呼フ者アリ)

○花井卓藏君 唯今御諮リナリマシタルハ武藤金吉君ノ辭職願ニ關スル件デアルト
心得テ居リマスガ、本員ハ此辭職願ト云フモノハ當院ニ於テ審議スベキ性質ノモノニア
ラズト信ズルノデアリマス衆議院規則ノ規定スルところニ依リマスレバ議員ノ辭職ハ討論ヲ
須井ズシテ直ニ採決スルト云フコトニ相成テ居リマスカラ、本員ハ其辭職ノ許否ニ付テ
意見ヲ述ベルノデアリナ、此辭職願ト云フモノハ、本院ノ受理スベキモノナリヤ否ヤト云フ
問題ニ付テ、先決ヲ望ムノデアアル、既ニ辭職ト申シマス以上ハ、議員タルノ資格ヲ有ス
ルト云フコトヲ前提シナケレバナラヌト思ヒマス、而シテ武藤金吉君ノ明治四十一年三
月四日、即チ辭表ヲ提出セラレマシタルキ、資格ト云フモノハ、依然タル議員ナリヤ否
ヤト云フコトハ法律上大ナル問題デアルデアアル、衆議院議員選舉法第十一條ノ規定
ニ依リマスレバ「左ニ掲クルモノハ選舉權及被選舉權ヲ有セス」トアル、其第四號ノ所ニ
「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其裁判確定スルニ至ルマデ」トスアリマス、
サスレバ武藤君ハ東京控訴院ニ於テ有罪ノ裁判ヲ受ケマシテ、而シテ其裁判未ダ確定ス
ルニ至ラザルノ間ニアリシトコロノモノト申サネバナラス、三月四日ノ當日ハ東京控訴院
ニ於テ判決ノ言渡ヲ受ケラレマスレバ、其瞬間ニ選舉法ノ規定ニ依ッテ議員タルノ資格ヲ
來スノデアアル(「ノウ」ト呼フ者アリ)ソレ故ニ私ノ見ルトコロハ議員タルノ資格ヲ有セ
ザル人ノ提出セシ辭職願ト云フモノヲ、當院ニ受取ッテ審議スルト云フコトハ違法デア
ルト信ズルノデアリマス、此點ニ關シマシテ當院ノ先例ガ當院ニ貽ッテ居ルカト思フノデア
ル其先例ハ當院ニ斯ル境遇ニアル人ヲ議員ノ一人ト認メテ入院ヲ許サレタト云フ事實ニ
基イテ居ルノデアアル、併ナガラカ此先例ハ確カニ間違ッテ居ルノデアリマス、其次ニ起
リマシタル此問題ニ關シテハ、當院ノ全體ハ選舉法第十一條ヲ正シク解シテ此
如キ場合ニ於ケル資格ト云フモノハ、全然認メナイト云フ方針ニ向ハントシツ、アル際
ニ於テ、解散ニテタルデアアル、私ハ武藤君ノ不慮ノ災難ニ罹ラレテ、刑罰ニ觸レラレシコ
トニ於キマシテハ、多大ノ同情ヲ表スルノデアアル、敢テ武藤君ニ向ッテ云々スルノデアリナ、議
院法選舉法ノ神聖ヲ保ツタメニ、議員ニアラザル人ノ辭表ヲ當院ニ於テ審議ヲスルト云
フコトハ、不法ナリト信ジマシテ、此辭表ニ付テハ討論ヲスベキ議院ノ權能モナケレバ
任モナイ、又此ノ如キ辭表ヲ提出スベキ當人ニ權能モ責任モナイト私ハ信ジマス、故ニ
此辭表ハ本院ニ於テ否認セラレンコトヲ希望スルノデアリマス

(「贊成」ト呼フ者アリ)

○元田肇君 何カ議長カラ御意見トシテアリマスガ、ナケレバ自分ハ一言此際……
○副議長(箕浦勝人君) チョット唯今花井君ノ說ニ贊成ガアリマスガ

(「贊成」ト呼フ者アリ)
○副議長(箕浦勝人君) ソレハ元田君

(「元田肇君登壇」)

○元田肇君 此問題ハ臨時ニ花井君ヨリ御發議デゴザイマシタガ、極メテ吾々議員ニ
取ッテ重大ナル問題デアリマスカラシテ、私カ茲ニ一言諸君ノ御參考ニ供シ、且十分
ナル御熟慮ヲ煩ハシタイト思ヒマス、當テ資格審査ノコトガゴザイマシテ、其餘本員ハ資

格審査ノ體カ委員長デアツカト記憶致シマス、唯今花井君ノ述べラレマシタ如キ問題ガアリマシテ、種々研究致シマシタコトヲ、唯今此選舉法ト云フモノニ依リマス、稍々曖昧ニ疑問ノ起ル點ガアリマスガ、此選舉法ナルモノハ、議院法ト相俟ッテ活動スベキモノデアリマス、所へ此議院法ハ、曩ニ始メテ制定セラレテ以來今日ニ至ルマデアルノデゴザイマシテ、衆議院議員ノ選舉法其後改正ニナリマシテ、各案ノ條章等ノ組替ガアリ或ハ其章ノ標題ガ變リ内容ノ組替ヲ致シマシタコトヨリ、最初ノ議員選舉法ニ於キマシテハ、明カニ議員ノ資格ニ付テハ、規定ガアル例ハ、年令ニ於ケル、或ハ納稅資格ニ於ケルト云フコトガ區別致シテゴザイマシテ、唯今花井君カラ援引セラレタコトモ條章ト云フモノハ全ク別ニナリ居タノデアリマス、故ニ議院法ニ於ケル其議員ノ資格ヲ、喪失シタ退格者ニモ、例ヘバ花井君ノ述べラレタル如キコトハ、入ッテ居ラヌコトハ明瞭デアリマス、其後改正ニナリマシテ、選舉被選舉ノ資格モ何モ斯モ一緒ニ折込シタ、所へ茲ニ疑問ヲ生ズルニ至ッタト云フノハ、當時委員會ノ調ノ節ニモ、當時此法文ノ意思ハ、何處マデ意旨ハ定メラレタト云フ法意カラ、汲シテ議員ニ一度選舉サレテ、當院ニ列席シテ居ル者ハ不幸ニシテ、刑事訴追ヲ受ケテ被告ニナリ、其被告ガ一審ニ於テ有罪トナリ、二審ニ於テ有罪トナリ、致シマシテモ、此裁判ノ確定ニ至ルマデハ決シテ唯今援引セラレタ項目ニ依リマシテ、議員ノ資格ヲ失フコトニナラヌト云フ決定ヲ當時審査ノ上告タタノデアリマス、本頁等ハ、此解釋ヲ以テ至當ナリト信シテ居タ、未ダ當ア此先例ヲ變更シタコトハナインデアアル、資格審査委員會ノミナラズ、本會ニ於テモ此解釋ヲ執ラシテ、即チ今日ノ當院ノ慣例——諸君モ是認シテ當院ノ慣例ニナッテ居ルノデアリマス、故ニ私ハ衆議院議員ニ當選シテ列席シテ居ル者ガ、嫌疑ヲ受ケテ刑事ノ被告トナリ、不幸ニシテ地方裁判所ニ有罪トナツタ、先ニハ、無罪トナルカモ分ラヌ者ガ、直チニ衆議院議員タル資格ヲ失フ當院ヨリ除却サレナケレバナラヌ危險ヲ法律ハ、決シテ容レルコトハ出來ヌト確信致シテ居ルノデアリマス、而シテ此確信ハ先刻來述べタコトヨリ、尙詳シク申シマスレバ、當年ノ委員會ニ於ケル速記録並ニ決議錄、本院ニ於ケル諸君ノ贊成セラレタコトヨリ慣例モアルノデアリマス、假リニ一步譲リマシテ、花井君ノ言フ如ク理論上ニハ論ゼラレルコトモアル、又慣例アルトコロノ議論ノヤウニモ讀マル、兩様ニ解釋サル、曖昧ノ文章デア假リニアルト假定致シマシテモ、吾々ハ不幸ニシテ刑事ノ訴追ヲ受ケタ者ガ、其裁判ガ果シテ有罪デアルト確定シナイ前ニ於テ、本院ニ列席スルトコロカラ除却スルト云フ危險ナル解釋ヲ執ルコトハ斷ジテ諸君ハ解釋セラレヌコトヲ切望ニ堪エヌノデアリマス、萬一多數ガ花井君ノ解釋ノ如クナリマスレバ、唯一席ノ是ニ於テ討論終結ヲ告ゲルト云フコトハ、甚ダ前途ノタメ恐レベキコト、信シマスガ、私ハ滿場ノ諸君ガ必ズヤ先例ヲ重シセラレ、又花井君ノ折角ノ御議論ガアリマスケレドモ、ソレニハ反對セラレルコト、信ジテ居ル、若シ反對セラレヌヤウナコトデアリマスレバ、特ニ審査委員會ヲ命ジテ十分探究スル必要ガアル、容易ク此先例ヲ破却スルト云フコトハナイト信シマスガ、諸君ハ先例ニ從ハレルコト、信ジラレマスガ故ニ、何卒諸君ニ於テモ此先例ヲ重シセラレ、各自ノ議員タル權利ヲ尊重セラレンコトヲ切望ニ堪エザル次第デアリマス

○花井卓藏君 元田君ニ質問ガアリマス、此問題ハ感情ノ問題デモ何デモナイノデス、元來此選舉法ノ十一條ノ規定而モ第四項ノ規定ハ宜シクナイ規定デアルト、實ハ信シ

テ居ル、併ナガラ法文ニ明確ニ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其裁判確定スルニ至ルマデモノトアル以上ハ斯ノ如キモノハ選舉權、被選舉權ヲ有セズト文字ノ上ニ現ハサレテ居リマス以上ハ、元田君ノ折角ノ御議論デアリマスケレドモ、此十一條ノ文字ヲドウ云フ理由ノ下ニ元田君ハ其結論ノ如ク解釋セラレルノデアルカ、私ニハ全ク分ラナイ、勿論此規程ハ選舉法ノ出來損ヒデアル、出來損ヒデアル法律ハ修正スルガ宜イ、危險ナリト云フ理由ノ下ニ、法文ヲ文字以外ニ比附援引シテ解釋スルト云フコトハ宜クナイノミナラズ、此程危險ナコトハナイン、感情デアリテ目的トシテ爭フ議論デモ何デモナクシテ、法文ガ惡イカラ、此機會ヲ利用シテ之ニ修正シテ金デル材料ニ供セシガタメニ、私ハ此意見ヲ出シタノデアル、何ゾ知ラン元田君ハ恰モ人ニ對スル感情問題デアルカノ如ク信セラレテ、而シテ私ガ恰モ法文ノ解釋ヲ誤リタルガ如ク認メラレテ、議論セラレタト云フコトハ、元田君ノタメ甚ダ惜ムノデアル、ソレノミナラズ元田君ハ先例アリト申サレテ、資格審査ノ舊例ナドヲ御報告ニナリマシタガ、是モ大ナル間違デアル、元田君ノ申サレタ通り、舊選舉法時代ニハ元田君ガ今日夢ニ見ラレタ議論モ迎ヘラレテ、審査委員會ニ於テ決定ニナツタヤウナコトモアツタト覺エテ居ルケレドモ、新選舉法ニナリマシテ、此新選舉法ニナツテ、元田君ノ申サレタヤウナル先例ハ、當院ニ現ハレタコトハアリマセヌ、更ニ進ンテ御調査ニナツタラ宜カラウ、法文ノ文字ヲ自ラ誤解セラレ、先例ノアルトコロヲ自ラ誤解セラレ、而シテ其責任ヲ人ニ嫁シテ一條ノ活路ヲ開カントセラレル如キコトハ政治家ノ議論トシテナラバ格別デアルガ、法律家トシテノ議論トシテハ元田君ノタメニ惜マザルヲ得ヌ、將來ノタメニ甚ダ御氣ノ毒ニ存ズル、本案ノ如キモノハ極ク冷靜ニ見テ貴ヒタイ、私ハ議員選舉法ノ規定ガ惡イト思フカラ申スノデアル、武藤君ノ如キ場合ノ問題ガアツタナラバ、裁判確定ニ至ルマデ議論ヲ保ツコトニシタイノデアル、然ルニ保タレヌト云フコトニ法文ガ出來テ居リマスカラ、如何ニモ不都合デアルト云フ感情ヲ起シテ論ジタノデアル、故ニ之ヲ特別審査委員會ニ付セラレタル上、愈々仕方ナイ場合ニハ、諸君等ノ力デ、元田君ノ關係ヲ有スル大政黨ノ力デ、其修正案ヲ出サル、コトヲ望ムノデアル、出タナラバ之ニ依ッテ始メテ議員ノ地位權利ノ大切ナルコトヲ保證シタイト云フノデ、實ニ好意——親切ヲ以テ申上ゲタ次第デアリマス、併ナガラ理義ノ爭ハ此場ニ於テ勝敗ヲ決スル必要ハナイン、多數デ以テ法文ニ此ノ如キ明白ナル規定アルニ拘ハラズ、元田君ノ演說ノタメニ没却セラレ、ト云フコトデアラナラバ、ソレデモ宜シイ、理義ノ爭ハ長ク理義ノ爭トシテ爭フノ外ハアリマセヌ、元田君ガ晩ニ家ニ歸ッテ能ク熟考サレタナラバ、私ノ議論ニ敬服セラレ、ト云フコトモ決シテ遠イコトデハナイン、近ク今タニアラウト思ヒマス

○元田肇君 唯今花井君カラ私ニ質問ト云フコトヲ御述ベニナリマシタ、私モ唯今ノ問題ヲ唯一場ノ感情ニ訴ヘヤウトハ思ヒマセヌ、又平生花井君ノ高論卓說ニハ服シテ居ルノデアリマス、花井君ノ言ハル、如キ疑義ト云フモノガ生ゼヌデハナイン、生ズルト云フコトヲ申シタ、花井君モ唯今述べラレマシタ通りニ、以前ノ選舉法ノトキデアツタナラバハノ字ナリニモ元田ノ言フガ如キ解釋ガ付イタガ、選舉法ガ改正ニナツテ今ノ新選舉法デハ明カニイケナイト云ハレル、此處ガ見解ノ岐レルトコロデアリマス、以前ノ選舉法デハ議院法ニ相對照致シマシテモ、議院法ノ條項ハ忘レマシタケレドモ、議員ノ資格ヲ喪失シタルモノハ退職者ト看做スト云フコトニナッテ居ッテ、資格ヲ失ツタコトハ同シコトニナッテ居リマ

ス所テ其資格ト云フコトハ先ノ選舉法ニ於キマシテハ、納税ガ幾ラ、年齡ガ幾ラト云フ資格ヲズツ摘ヘマシテ、唯今引合ニナツテ居ル條項ノ如キハ、議員ノ資格ト云フ中ニハ書イテナイノデアリマス、故ニ此出來タトキノ法律ノ精神カラ見マスレバ、ヤハリ退職者ト看做スト云フ議院法ノ意思ハドレダケカ、資格ノ範圍ヲ言ウタモノト本員ハ解釋シテ苦シカラスト信ズルノデアリマス、然ルニ現ニ行ハレツ、アリマス改正選舉法ヲ見ルト、議員ノ資格ト云フ文字ハナクシテ、議員ノ資格ヲ選舉權被選舉權ト云フ一緒ノ條章ニ打込シテシマツテ、選舉權被選舉權ノ文字中ニ唯今ノ第四項ノ裁判確定ニ至ルマデノ字ガアルノデアリマス、故ニ吾々ハ之ヲ解釋シテ以前カラノ歴史ヲ重シ、議院法ハ其儘アルノデアリマスカラ、議院法ニ所謂議員ノ資格ヲ喪失サル、資格ト云フモノハ、當時ハ資格ト同ジモノデアツテ、選舉權被選舉權ノ間ニ之ヲ入レタノハ、始メテ議員候補者トナツテ選舉ヲ受ケルトキノ資格ヲ言ウタノデ、一旦議員ニ當選シテ既ニ既得權ヲ得テ居ル吾々議員ニ對スル資格ノ部分ニ入ルベキ法文ノ精神デナイト云フコトヲ吾々ハ信ズルノデアリマス、決シテ花井君ノ言ハル、ガ如クニ、吾々ハ感情ニ訴ヘテ法律上ノ大問題、而モ吾々議員ノ進退ニ係ル大問題ヲ唯徒ラニ一時ノ感情ニ訴ヘテ決シヤウト云フコトバハ呉々モ思ウテ居リマセヌ、唯之ヲ咄嗟ノ間ニ決シテ、吾々殆ド二十三年以來執テ居ル解釋ニ變更更ラ來スガ如キコトノ無カラシコトヲ希望シマスカラ、諸君ニ於テ十分御考慮ヲ煩シタイト云フコトヲ申シタノデアリマス、敢テ感情ヲ以テ法律問題ヲ決シヤウト云フコトハ吾々ノ心中ニハゴザイマセヌ、花井君モ其點ハ十分御諒承下スツテ、吾々ノ議論モ花井君ニハ御分リデアリマセウ、以前ノ選舉法ナラバヘノ字ナリニモ元田ノ言フ通りナツタガ、今ノ選舉法デハイケナイ、唯法文ノ正條ニ選舉權被選舉權ノ中ニ打込シデカラ、部分ケラシタノハ、其物ノ性質ニ依ツタ區別デアリマスカラ、新選舉法ニ在ッテ此ノ如クナツテ居ルノハ、是カラ議員ノ選舉ヲ受ケルモノ、資格ニ付テハ權利ニ付テ被選舉權が無イト云フコトニナツタノデアリマス、既ニ議員ニナツテ居ルモノガ偶々訴追ガ起ツテ、其結果第一審デ有罪ノ判決ヲ受ケタ、未ダ裁判確定ニ至ラヌノニ、直チニ其資格ヲ消滅スル如キ法文ノ意思デハナイト思フノデアリマス、ソレ故ニ之ヲ諸君ニ訴ヘタ次第デアリマスカラ、宜シク御審議下サルヤウニ願ヒマス、決シテ感情若クハ花井君ノ御演說ノ如ク、多數ヲ以テドウスルナド、云フヤウナ不埒ナル根性ハ萬々持ツテ居リマセヌト云フコトヲ申シテ置キマス

テ議院法トノ對照ニ稍々慎重ヲ缺イタガタメ、唯今ノ如キ疑ヲ生ズルノデアリマスケレドモ、元田君ノ言ハル、如ク立法ノ歴史ヨリ考ヘ又議員ノ既得權ヲ重シモ、議員ノ發言、議列ノ權利ヲ重シズベキ憲法ノ趣意ヨリ解釋致シマシテモ、議員ガ一害ノ判決ニ於テ有罪ノ決定ヲ受ケタルガタメニ、直チニ議列發言ノ權利ヲ失フ如キ大改正ヲ、後ノ衆議院議員選舉法ニ加エタモノト解釋スルコトハ穩當デナイト信ズル、ソレ故ニ現行衆議院選舉法ト現行ノ議院法トノ文字ノミヲ對照シマスレバ、花井君ノ如キ疑ガ生ジマスケレドモ、今申スガ如キ一方ノ順序ナリ事實カラ考ヘマスレバ、此問題ハ衆議院ニ於テハヤハリ元田君ノ取ラレル解釋ヲ執ルガ最モ適當ト信ジマスカラ、私ハ花井君ノ動議ヲ採用スル必要ハナイ、直チニ此職ヲ解カレテ相當デアルト信ジマス

○谷澤龍藏君 本員ハ此問題ニ付テハ武藤君ノ犯罪ノコトハ餘程同情ヲ置ク方デアリマスカ、唯今資格ヲ直チニ失フカ、又花井君ノ說ノ如クナルカ、元田君ノ說ノ如クナルカ、或ハ今望月君ノ御說ガアリマシタケレドモ、是ハ議員ニ付テ隨分重大ナ問題デアル、又法律上ノ解釋トシテ重大ナ問題デアル、故ニ武藤君ニ付テモ餘程考ヘルコトモアリ、又議員ノ將來ヲ考ヘルコトモアリマスカラ、此際此ノ如キモノヲマダ十分ノ調査モシナクシテ、即決スルト云フコトハ遺憾デアルト思ヒマス、故ニ九名ノ委員ヲ拵ヘテ、十分審議ヲ盡シタイト思ヒマス

誠ニ希望致シマスガ、此際ニ委員ヲ設ケ能ク調上ゲテ明白ナ文句ニスルヤウナ法文ノ改正デモスト云フヤウナコトハ、此許否ヲ決スルダケノ問題ニ付テハ其當ヲ得マイト思ヒマス、今日ハ本員ノ説明ニ依テ立法ノ精神ハ此ノ如キモノデアルト決定シテ、他日疑ガアルト云フコトデアレバ、更ニ改正案ヲ提出スルヤウニ致シタイト思ヒマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○花井卓藏君 一言ノ御許ヲ願ヒマス、私ハ議論トシテハ元田君ノ説モ一應ノ條理ガアルカトモ思フ、又望月君ノ議論モ一應ノ條理ガアルカトモ思フ、併ナガラ選舉法ノ文理解釋トシテハ、ドウシテモ本員ノ見ルトコロノ如クセザルヲ得ヌデアル、望月君ノ如キ議論ハ十一條ダケヲ見ラレテ、十二條十三條ヲ見ラレヌトコロノ議論デアル、之ヲ唯一言申シテ正シテ置キマス、立法ノ沿革、立法ノ歴史、ソレハ法文解釋ノ理由ニハナラヌデアル、立法ノ沿革ガ如何様デアラウトモ、立法ノ歴史ガ如何様デアラウトモ、法文ノ解釋ヲ左右スル力ニハナリマセヌ、縱シ此議場デ解釋シタニシテモ、理義ガ許シマセヌ、現ニ府縣會議員選舉法ナドハ本員ノ見ルトコロノ通りニ實行シテ失格ニシテ居ル、今日ノ裁判例デゴザイマスカラシテ、議院内ニ於テノミ法律ヲ勝手ニ解釋シテモ、何ノ役ニモ立チマセヌ以上ハ、諸君ハ法律ノ威信ヲ失フトコロノ曲論ヲ爲スモノタルコトヲ記憶セラレシコトヲ望ムデアリマス、論ノ成立スルト成立セザルト、敗ル、ト勝ツトハ私ノ眼中ニナインデアル、法律ハ理義通り文理通りニ解釋スル方ガ宜カラウト云フ一ノ老婆心ニ外ナラヌデアリマス

○副議長(箕浦勝人君) 森田君ニ御諮リシマスガ、谷澤君ノ委員説ニ贊成デアリマス、別ニ資格審査ノ委員ヲ設ケルト云フ御話デアリマス

○森田卓爾君 贊成デス、此問題ノ範圍ヲ限ッテ受理不受理ヲ決スルタメニ委員ヲ設ケタイト言フデス

〔採決々々ト呼フ者アリ〕

○副議長(箕浦勝人君) 採決致シマス、花井君カラ武藤君ノ辭職願ハ本院ニ於テ受理スベキモノデアイト云フ意見ガ出デ居リマスガ、是ニ對シテ谷澤君カラ委員付託説ガ起ッテ居リマス、先ツ委員説カラ採決致シマス、谷澤君ノ九名ノ委員ニ付託スルト云フ説ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○副議長(箕浦勝人君) 少數ト認メマス、委員説ハ消滅シマシタカラ、其次ニハ花井君ノ武藤君ノ辭職願ハ本院ニ於テ受理スベカラスト云フ説ニ付テ採決致シマス、花井君ノ説ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○副議長(箕浦勝人君) 少數ト認メマス、ソレデハ此辭職願ノ許否ニ付テ採決致シマス、武藤君ノ辭職願ヲ許可スルトニ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ハナイト認メマス

〔花井卓藏君「受理スベキモノニアラズ」ト呼フ〕

○副議長(箕浦勝人君) 武藤君ハ第三部ヨリ選出セラレタル請願委員デアリマスガ

ラ、第三部ニ屬スル諸君ハ補缺選舉ヲ行ハレンコトヲ望ミマス、又同君ハ衆議院議員選舉法改正法案ノ特別委員デアリマス、此特別委員ハ議長指名デアリマスカラ、更ニ此補缺トシテ宮部襄君ヲ指名致シマス、尙御諮リシマスガ豫算委員菊池武徳君病氣ニ付辭任ノ申出ガアリマシタガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ナイト認メテ許可スルトニ致シマス、同君ハ第五部選出ノ豫算委員デアリマスカラ、五部所屬ノ議員諸君ハ同君ノ補缺選舉ヲ行ハレンコトヲ希望致シマス、尙御諮リシマスガ、關稅定率法輸入稅表中改正法律案委員永見寛二君ヨリ病氣ニ付、辭退ノ申出ガアリマス、許可シテ差支アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナケレバ許可スルトニ決シマス、同君ハ議長指名ニナッテ居リマスカラ、其補缺トシテ東一左右君ヲ指名致シマス、尙非常特別稅法中改正法律案外一併ノ委員三輪傳七君病氣ニ付、辭任ノ申出ガアリマスガ、許可シテ差支アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ナケレバ許可スルトニ致シマス、同君ハ議長指名ノ委員デアリマスカラ、其補缺トシテ横井時雄君ヲ指名致シマス、尙諸君ノ件ヲ御諮リマス、國公享君ヨリ去ル二日ヨリ一週間高梨哲四郎君ヨリ去六日ヨリ一週間田中藤次郎君ヨリ去六日ヨリ二週間、佐治幸平君ヨリ去七日ヨリ一週間、永見寛二君ヨリ去九日ヨリ二週間、森久保作藏君ヨリ去九日ヨリ二週間ノ請願ノ申出ガアリマスガ許可シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ異議ナシト聲起ル〕

○副議長(箕浦勝人君) 何レモ御異議ナシトシテ許可スルトニ致シマス——加瀬禮逸君

〔居リマセヌト呼フ者アリ〕

○副議長(箕浦勝人君) 議事日程第一、水利組合法案第一讀會ノ續ヲ開キマス——委員長竹越與三郎君

第一 水利組合法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長)

〔竹越與三郎君登壇〕

○竹越與三郎君 水利組合法案ノ委員會ノ經過ヲ御報告致シマス、此前ノ水利組合法ハ——現行ノモノハ明治二十二年ニ制定セラレマシタモノデ、此法律ニ依ッテ現ニ存在シテ居ル組合ガ、水利組合ハ二千二百六十八、水害組合ハ九百四十八、合セテ三千二百六十ノ組合ガアル、併シ此ノ如キ多數ノ組合ガ出來マス、其間ニハ種々事情ノ變遷ガアリマシテ、十八年前ノ法律ハ以テ目下ノ急務ニ應ズルニ足ラヌト云フコトデ、此法案ガ出マシタ譯デ、委員ハ慎重ニ審議ヲ致シマシタガ、極メテ此法案ガ完全ニ近イ、即チ平生望ムトコロニ近イモノデアルト云フコトデ、悉ク歡迎シマシタ、而シテ其中尙二三修正シタイトコロガアリマシテ、政府ノ同意ニ依ッテ之ヲ修正シマシタ、其修正ハ第二十五條二三項ヲ加ヘタ、此三項ハ組合會ハ組合ノ區域數市町村ニ涉ルモノニ在リテハ

組合規約ヲ以テ議員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選舉スルコトヲ得此場合ニ於テ議長
故障アルトキハ副議長之三代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ前項ノ例ニ依ル「前
項選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ」議員中ヨリ議長ヲ選舉ヘル組合
ニ在リテハ議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ管理者ニ報告スヘシ」又第二十七條第
四項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ「組合會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス、
一管理者ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ、二議長ニ於テ傍聴禁止ノ必要アリト認メ
タルトキ、三議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ」前項第三號ニ依ル
發議ハ討論ヲ須ス其可否ヲ決スヘシ第三十四條ノ一項ノ文字ヲ直シ、第二項「前項
會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ府縣知事ノ認可ヲ受ケヘシ」トアル、此府縣知事ト云フ
ヲ、第一次監督官廳ト改メ、斯ウ云フ譯テ委員ハ至極ノ満足ヲ以テ此案ヲ修正可
決ヲ致シタ次第アリマス、ドウゾ満場諸君ノ御同意ヲ願ヒタイ

○副議長(笑浦勝人君) チョット此場合ニ御諮リ致シマスガ、神社財産ニ關スル法律
案ノ委員會ヲ開キタイト云フ委員長ヨリ申出ガアリマスガ、許可シテ御異議ハアリマセ
ヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(笑浦勝人君) 御異議ハナイト認メマス、許可スルコトニ致シマス、明治三十
四年法律第三十九號中改正法律案、委員會ヲ開キタイト云フ委員長ヨリ申出ガアリ
マス、許可シテ御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(笑浦勝人君) 御異議ハナイト認メマス
○副議長(笑浦勝人君) 御異議ハナイト認メマス
○副議長(笑浦勝人君) 恒松君動議ノ通り、直チニ二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマ
セヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(笑浦勝人君) 御異議ハナイト認メマス、其通り決シマス、直チニ第二讀會
ヲ開キマス

水利組合法案

第二讀會

○恒松隆慶君 全部ヲ議題トセラレンコトヲ望ミマス
○副議長(笑浦勝人君) 全部ヲ議題ト致シマス——神前修三君

〔神前修三君登壇〕

○神前修三君 私ハ此案ノ五十一條ニ一項ヲ加ヘタイト云フ修正動議ヲ提出致
シマス「舊慣アルモノハ組合規約ヲ以テ特別ノ賦課方法ヲ定ムルコトヲ得」ト云フ此二

十九字ヲ原案五十一條ノ二項ニ加ヘタイト云フ修正アリマス、就キマシテハ、此修
正ヲ要シマスル理由ヲ聊カ申上ゲヤウト存シマス、原案五十一條ノ規定ニ依リマス
「組合内ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組
合内ノ一部ニ對シテ賦課スルコトヲ得」ト云フ法文デゴザイマス此法文ノ規定ニ依リ
マスルト、組合内ニ於キマシテ、利益ガ均一ナル場合ニ於キマシテハ、特別賦課ハ出來
ナイト云フコトニナルデアリマス、然ルニ私ノ修正致サント欲シマスルハ、此原案ニ修正
ヲ加ヘマシテ、組合中ニ於キマシテ、縱令利益ノ平等均一ノモノト雖モ特別賦課ヲ
サシメタイト云フデアリマス、諸君ノ御承知ノ如ク我國ニ五千万石ノ產米ヲ作出シ
マスノニ、灌溉水害ト云フコトハ極メテ重大ナル事業デアリマス、此重大ナル事業ニ對
シマシテ、一ツノ法文ノ規定モアリマセヌ、唯舊慣ノ力ニ依リマシテ一般ノ農業界ノ平
和ヲ保タレテ居ルノデアリマス、故ニ水利組合ノ事業ニ於キマシテ、舊慣ヲ例ナルモノハ
誠ニ尊重セラレテ居ルノデアリマス、水害豫防組合ニ致シマシテモ、其組合内ニ於キマ
シテ、利益ノ厚薄ト云フコトハ容易ニ區別ガ立タヌノデアリマス、故ニ專ラ土地ノ狀勢
ト事情トニ依リマシテ、特別賦課方法ヲ設ケマシテ、漸ク平和ヲ維持セラレテ居ルノデ
アリマス、故ニ現行水利組合條例ノ三十六條ニ於キマシテ、斯様ナ規定ガアルノデアリ
マス、「組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年據置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得」
此規定ニ依リマシテ舊慣ガ長ク存續致サレテ來タノデアリマス、然ルニ今突然此原案ニ
於キマシテ、組合内ニ於キマシテ組合内中ノ利益ノアルモノニアラザレバ、特ニ賦課ガ出
來ナイト云フコトニナルト、事實ノ上ニ於テ舊慣ニ背キ、不公平ノ賦課ヲスルコトニ陷
リマス、又現在特別ノ賦課ヲナシツ、アル幾多ノ組合ニ於テハ多年ノ舊慣ヲ破壞サ
レ、組合内ノ平和ヲ破ツテ、農業界ニ一大變動ヲ起スノ恐レガアリマス、故ニ從來ノ
如ク舊慣アルモノハ、組合ノ規約ヲ以テ特別ノ賦課徵收ヲ得セシムルト云フコトニシ
タイト云フ趣意デ、此修正案動議ヲ提出シタ次第デアリマス、ドウゾ満場ノ諸君此實際
ノ狀況、關係ヲ御諒察トスツテ、御賛成アラレンコトヲ希望致シマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕
○副議長(笑浦勝人君) 神前君ノ動議ニ制規ノ賛成ガアリマスカラ、採決致シマ
ス、先ツ神前君ノ修正說ニ付テ決ヲ採リマス、此修正說ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマ
ス

起立者 多數
○副議長(笑浦勝人君) 多數デアリマス、修正通りニ決シマシタ
○恒松隆慶君 他ハ委員長報告通り異議ナシ

○副議長(笑浦勝人君) 其他ハ委員長報告ニ付テ、御異議アリマセヌカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○副議長(笑浦勝人君) 御異議ガナケレバ、委員長報告通り決シマス

○恒松隆慶君 第三讀會ヲ開イテ確定セラレンコトヲ望ミマス
〔贊成々々ト呼フ者アリ〕
○副議長(笑浦勝人君) 恒松君發議ノ如クニ直チニ三讀會ヲ開イテ、確定スルコト
ニ御異議アリマセヌカ

水利組合法案 第一讀會ノ續 第二讀會

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ナシモノト認メ、直チニ三讀會ヲ開キ、全部ヲ議題ニ供シマス

水利組合法案

第三讀會

○副議長(箕浦勝人君) 二讀會決議通り御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 二讀會決議通り御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 二讀會決議通り御異議アリマセヌカ、是デ本案ハ確定致シマシタ、日程第二、裁判所構成法中改正法律案第一讀會ノ續、委員長報告——磯部四郎君

第二 裁判所構成法中改正法律案(政府)

第一讀會ノ續(委員長報告)

○磯部四郎君登壇

○磯部四郎君 委員會ノ經過ヲ報告致シマス此法案ハ御承知ノ通り裁判所構成法第五十八條中ニ判檢事司法官候補トシテ判檢事ノ職務修習時期ヲ二箇年ニ法律ニ定メタル、從來ノ法律ニ、然ルトコロニ其三箇年ヲ即チ此本案ニ於テ一年六箇月以上ト云フコト、是ハ改正案デゴザリマス、此案ニ付キマシテハ委員會ニ於テ餘程議論モゴザイマシテ、果シテ今日司法官ヲ候補ト云フモノヲ本官ニスルニ當テ、一年六箇月ト十分ト云フコトヲ政府當局者デ心得ガアルカ、中ニハ二箇年デモ足ラヌ人ガアルヤウニ思ハレル、事情已ムヲ得サル次第アルナラバ、贊成ニスルカ、ケレドモ司法當局者ニ於テ、任官上ニ付テハ十分ナル御注意アリタイト云フ希望ヲ述ベマシテ、委員會ニ於テハ原案並ニ貴族院送付ノ通り可決ニ付テ次第デ是ニ於テ心配ガナイト云フコトヲ併セテ御報告致シテ置キマス、報告通り御贊成アラント希望致シマス

○久保伊一郎君 ナヨット磯部サンニ伺ヒマスガ、是ハ二月十九日ヨリ施行ト云フコトニナッテ居リマスガ、大抵ハ四月トカ……

○磯部四郎君 ソレハ是マデ二年ノ修習期間ハ實際不便ヲ來タシテ困ルトコロカラ、特別ニ今日マデ一年六箇月デ宜イト云フコトガ定メテアツタ、其法律ノ期間ガ三月ノ十九日デ終リマスカラ、一日デモ改正案ヲ施行セラレヌト、三月ノ十九日以後ハ裁判所構成法ノ規定ニ服シテ三年ノ修習ヲ要スルコトニナッテ、實際上甚ダ不便ヲ感セラレマスカラ、特ニ三月十九日ヨリト云フコトニ定メテ次第アリマス

○副議長(箕浦勝人君) 本案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤニ付テ決ヲ採リマス

○副議長(箕浦勝人君) 本案ハ直チニ三讀會ヲ省略シテ可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(箕浦勝人君) 本案ノ二讀會ヲ開クコトニ御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナイト認メマス、二讀會ヲ開クコトニナリマシタ、恆松君發議ノ如ク直チニ三讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シ、確定ト爲スコトニ御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナイト認メマス、二讀會ヲ開クコトニナリマシタ、恆松君發議ノ如ク直チニ三讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シ、確定ト爲スコトニ御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナイト認メマス、二讀會ヲ開クコトニナリマシタ、恆松君發議ノ如ク直チニ三讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シ、確定ト爲スコトニ御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナイト認メマス、二讀會ヲ開クコトニナリマシタ、恆松君發議ノ如ク直チニ三讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シ、確定ト爲スコトニ御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナイト認メマス、二讀會ヲ開クコトニナリマシタ、恆松君發議ノ如ク直チニ三讀會ヲ開キ三讀會ヲ省略シ、確定ト爲スコトニ御異議アリマセヌカ

裁判所構成法中改正法律案

確定讀

○副議長(箕浦勝人君) 採決致シマス、委員長報告通り御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ナシモノト認メマス、本案ハ確定致シマシタ、次ハ日程第三、關稅定率法輸入稅表中改正法律案委員長報告——野田卯太郎君

第三 關稅定率法輸入稅表中改正法律案

第一讀會ノ續(委員長報告)

○野田卯太郎君登壇

○野田卯太郎君 委員會ノ經過ヲ報告致シマス、本案ハ誠ニ面倒ノ案デアリマシテ、ナカク、念入レテ調査ヲ致シマシタ、御承知ノ通り原案ノ趣意ハ内地ノ產油ヲ保護シ、海關稅ノ減收ヲ防止スルコトヲ云フデアリマス、委員會ニ於テハ内地ノ經濟ニ鑑ミシテ、内地ノ石油ノ輸入ニ保護スルノ可否、及關稅ガ如何ニナルカト云フコトヲ第一方針トシテ調査セタ次第デゴザリマス、内地ノ石油ハ我國ノ消費高ノ凡ソ三分ノ一デアリマス、其三分ノ二ハ外國ノ輸入ニ仰ガナレバナラヌ、ウコデ三分ノ二ハ外國ニ仰グトスレバ、精製油デ仰ガンヨリモ、原油デ輸入シテ内地ノ製造スルガ利益タルコトハ喋ラバ保タズシテ明カナル事實デアアル、又之ト同時ニ内地ノ石油ハドウ云フ有様デアリカト云ヘバ既ニ今日ニ於テ二千萬圓餘ノ資本ヲ投ジ、著々事業ヲ進行シツ、アル、ウレデ此問題ハ外國油ノ輸入ヲ一々防グト云フコトモ、國家ノ利デナイ、却テ不利デアル、然ラバ内地ノ產油ヲ少シモ保護セヌデ宜イカト云ヘバ、御承知ノ通り是迄外國カラ來ル石油ノ海關稅ハ五割ニナッテ居ル、然レニ原油ノ輸入稅ハ二割デアル、五割ト二割トニ割ノ差ガアルモノデゴザイマスカラシテ之ヲ放シテ置ク譯ニモ參ラヌ、雙方共ニ宜キ方法ヲ執ツテ所謂按排ヲシ、調和ヲスルコトガ甚ダ困難ナル譯デアリマシタ、ウレデサウ云フ按排ニ調ベマシタガ、委員會ノ結果ハ遂ニ修正スルコトニ決メマシタ、御手許ニ配付シテ居ル通リ甲乙ト原案ニアツタモノヲ修正案ハ甲、乙、丙、丁、戊、己此六ツニ分ケマシタ、六ツニ分ケマシテ「蒸餾スル液ノ原液ノ容量ニ對スル百分率」トアル所ノ二十ヲ超エザルモノヲ十七錢ト改メ、二十五ヲ超エザルモノヲ二十一錢、三十ヲ超エザルモノヲ二十五錢、三十五ヲ超エザルモノヲ二十九錢、四十ヲ超エザルモノヲ三十三錢、「其ノ他」トシマシテ之ヲ二十六錢、即チ四十五ヲ超エザルモノト云フ意味ニナリマス、此通り修正致シマシタ、但書ノ如キ其他ハ總テ原案デアリマス、斯ノ通り修正スレバ原案トドウ云フ對方ニナルカト云フコトヲ説明スレバ、此原案「乙其ノ他」ト云フモノハ即チ原案デハ四十三錢トシテアル、之ヲ五ツニ割ツタ譯デアス、原案ノ甲ヲ除イテ乙ヲ五ツニ割ツタトシマス、此平均ハ二十八錢八厘、約二十九錢ニナリマス、原案ヨリ率ヲ減シマシタコトガ十四ト云ノ割ニナル、現行法ハドウデアリカト云ヘバ、即チ一割デアリマシタ、此方法ニ依リマスレバ現行法ヨリ増シタモノガ十八ト云フ譯、ウレデ原案カラ四割五分ヲ減ジテ五割五分、此案デ増シタト云フ譯ニ相成リマス、折半マデニハ行キマセヌケレドモ、五割五分ト四割五分ト云フ譯ニナッテ居リマスカラ、此修正ハ誠ニ適當ナル修正ト考ヘマス、又此六ツニ割ツタコロノ修正ノ率ハ幾ニ申上ゲマシタ通り、二十八十七、二十五ヲ超エザルモノハ二十一ト云フガ如キモノハ、何カラ割出シタカト云フ疑ガアリマセウガ、是ハ燈油ノ即チ其原油ノ中ノ燈油ノ含有量デス、含有分ノ即チ二十一ト云フガ如キモノニシマシテ、之ニ九十六錢ノ海關稅ヲ乘ジタモノデゴザイマス、此海關稅ヲ含有量ニ乘ジマシテ、而シテ之ヲ製造費トシテ一割五分デ分ケテ是ヨリ減ジテアリマス、是ハ約ソサウ云フ譯ニナッテ居リマシテ、此修正ハ委員會ニ於テハ滿場一致ヲ以テ可決致シマシタ次第デアリマスカラ、

本會ニ於テモ満場一致ヲ以テ可決セラレシコトヲ希望シマス
○副議長(箕浦勝人君) 早速整肅君

(早速整肅君登壇)

○早速整肅君 諸君、委員會ニ於キマシテ連日御審査ヲ重ネテラレタルコロノ此問題
デゴザイマスガ、私ハ唯今ノ委員長ノ報告ニ賛成スルコトが出来ナイ、而シテ固ヨリ政
府案ニ對シテ反對スルモノデゴザイマス、元來此内地ノ製造工業ヲ獎勵スルコト云フ目的
ノ上カラ申シマシテ、總テノ原料品ノ輸入ト云フモノハ勿論之ヲ獎勵スルノ必要ガアル
私ハ信シテ居ル、内地ニ於テ其產出ノ裕ナル原料品ニ對シテハ別問題デゴザイマスケレ
ドモ、未ダ其產出ノ裕ナラザル品物ニ對シテハ其輸入ヲ獎勵スル、言換ヘテ見レバ輸入
税ノ如キハ之ヲ免除スルカ、若クハ思切ツテ之ヲ輕減スルコト云フモノノ必要ガアルト信
テ居ル、關稅ヲ課シマスル根本ノ趣意ノ上カラ申シマシテ、原料品ニ對スル輸入税ト云フ
モノハ大體ニ於テ之ヲ免除スルコト云フコトガ、關稅ヲ課スル上ノ大主義デナケレバナ
ラヌ、已ムヲ得ズシテ之ニ向テ關稅ヲ課スルヲ致シマスレバ、即チ思切ツテ之ヲ輕クスル
云フコトガ關稅ヲ課スル上ノ原則デナケレバナラヌ、此輸入品ノ原料ノ輸入ニ對シテ
ハ、詰リ課稅シナイト云フコトガ當然デアルト私ハ思フ居ル、今日ノ我國ニ於キマシテハ
各種ノ製造工業ヲ獎勵シナケレバナラヌコトコノ眞ノ時機ニ際シテ居リマスノデ、此時
ニ當テ製造工業ノ原料タルベキモノニ向テ、重キ課稅ヲ課スルコト云フコトハ大體ニ於テ課
稅ノ主義ニ反シテ居ルト斷言セネバナラヌ、申スマデモナク原油ハ石油ノ製造スルコロ
ノ原料品デゴザイマス、此原料品ノ輸入税ト云フモノヲ增加シヤウト云フコトハ、果シテ
何カラ起ツタデアリマセウカ、我内地ニ於ケル原油ノ產出ガ裕デゴザイマシテ、又内地ニ
於ケル石油ノ供給ガ十分ニ供給ヲ充足スルコト云フ曉デゴザイマスナラバ、外國品ト競
爭スル上ニ於キマシテ之ニ向テ相當ノ課稅ヲ課スルコト云フコトハ、是ハ免レラレナイコト
デゴザイマスガ、今や我國ニ於キマシテ此品ノ供給ガ實ニ不足ヲ告ケテ居ル、決シテ全般ノ
需要ヲ充足スルニ足ラナイト云フ今日ニ當リマシテ、此原料品タル原油ニ向テ重キ課稅ヲ
課スルコト云フコトハ、斷シテ私ハ今日ノ産業政策ノ上カラモ之ヲ是認スルコトハ出来ナイ
デアル、諸君、今日ニ於ケル我邦ノ此原油ノ產出高ハ多ク見積リマシテモ一箇年百七
八萬石ニ過ギナイノデアル、從テ此原油ニ依テ製出スルコロノ石油ト云フモノ、
供給、所謂燈油ト云フモノハ最近四箇年ノ平均ニ依テ見マシテモ、僅ニ六十一萬九千
石ニ過ギナイ、翻テ我内地ノ石油ノ消費高ヲ觀ベテ見マシテハ、實ニ一箇年二百
萬石ニ及ンデ居ル、即チ百三十萬石餘ト云フモノハ外國ノ燈油ヲ輸入スルコト云フコト
ニナツテ居ルノデゴザイマス、全國ノ消費高ノ三分ノ二ト云フモノハ之ヲ外國ノ供給ニ仰
ガナケレバナラヌト云フ今日ノ現狀デアル、近頃我内地ニ於ケル石油業ノ發達シテ
參々ト云フコトモ、固ヨリ是ハ事實デアル、恐ラク將來モ大ニ發達スルデゴザイマセウ、私
ハ或論者ノ如ク内地ノ石油業ノ發達ガ已ニ今日デ極點ニ達シタトハ信シテ居ラナイ
ガ、併ナガラ又別ノ論者ノ言ヘル如ク、此處數箇年ヲ經過スレバ我内地ノ需要ヲ充足ス
足ラケルノ石油ヲ產出スルデアラウトハ信スルコトが出来ナイノデアル、此處數箇年ヲ經
過スレバ、内地ノ石油ノ產出額ガ非常ニ増加シテ、海外カラ輸入スルコロノ燈油
ト云フモノハ、總テ之ヲ驅逐スルコトが出来ルデアラウト云フガ如キコトヲ言フノハ、即
チ殆ド夢ニ類シテ居ルト私ハ信シテ居ル、此故ニ今日ノ急務ハ兎ニ角海外カラ輸入
シテ參ルトコロノ多額ノ燈油其輸入ヲ驅逐スルコト云フ目的ノタメニ、内地ニ於ケル
此製造業ヲ獎勵スル必要ガアル、即チ原油ヲ輸入ヲ致シテ石油ノ精製業ヲ營ム者
ノ如キハ飽マデモ之ヲ獎勵シテ往カナケレバナラヌト私ハ考ヘテ居ルノデアル、從テ此石
油製造ノ原料タル石油ノ輸入ヲ獎勵スルコト云フコトハ正シク今日ノ急務デアル、石油

ノ製造業ヲ獎勵スルタメニ石油ニ對スル輸入税ヲ輕クシテ、而シテ此原油ノ輸入製造
業ヲ獎勵スルコト云フコトガ、今日ノ急務デアラネバナラヌ、原油ノ輸入税ヲ増率ヲ主張ス
ルトコロノ論者ハ、原油ノ輸入製造ト云フコトハ我内地ノ石油業者ニ向テ打撃ヲ與ヘ
ル、斯ウ云フコトヲ主張シテ居ルノデアル、併シ是ハ即チ杞憂ニ屬スルコロノ論者デ
アツテ、私ハ決シテ此論者ノ言ヘル如ク、石油ノ輸入製造ト云フモノガ、内地ノ石油業
者ニ對シテ直接ニ打撃ヲ與ヘルトハ信ズルコトが出来ナイ、原油輸入製造ト申スコトハ詰
リ内地ノ石油業者ト競爭スルコト云フヨリモ、外國ノ輸入ト云フモノニ當リガ即チ目
的デアル、六百五十萬箇ノ多額ニ輸入スルコロノ外國ノ燈油ト云フモノニ當リガ
目デアル、即チ我内地ノ石油ノ供給ト云フモノガ十分ニ全國ノ需要ヲ充足スル
ニ至ルマデノ間ハ、此石油ノ輸入税ト云フモノハ、決シテ直接ニ内地ノ石油業者ニハ影
響ハ與ヘナイノデアル、言換ヘテ見マシテ原油ノ輸入製造ト云フコトハ外國ノ輸入燈
油ト競爭スルノデアツテ、決シテ直接ニ内地ノ石油業者ト競爭スルノデハナイト私ハ
信シテ居ル、諸君、内地ノ此石油業者ハ現ニ已ニ外國輸入ノ燈油ニ對スル從價五割ト
云フ關稅ガ課シタルノデゴザイマシテ、ソレニ付テ既ニ業ニ自然ノ保護ヲ受ケツ、アル
デハゴザイマセウカ、外國ノ輸入燈油ニ對スル關稅六百萬圓此六百萬圓ト云フ金ハ間
接ニ我内地ノ石油消費者ガ之ヲ負擔シテ居ルノデアル、ソレト同時ニ内地ニ於テ產出
スル石油ニ對シテモ、消費者ハ此關稅ト同割合ノ租稅ヲ拂フテ居ルノト同結果デア
ル、而シテ内地ノ石油業者ハ現ニ諸君ガ知ラル、如ク、實ニ非常ナル利益ヲ得ツ、アル
ノデゴザイマスガ、尙此上デス、此上此石油ノ輸入税ヲ増徴ヲ致シテ、サウシテ已ノ事
業ノ保護ヲ受ケントスルコト云フコトハ、私ハ餘リニ望ミガ大き過ぎハシナイカト思フノデア
ル、或會社カラ或事業關係者カラ種々ノ統計表ナドガ舞込シテ參リマシテ、原油ノ輸入
ト云フコトハ利益ニナル、原油ノ輸入ト云フコトハ不利ニナル、種々ノ立論ヲ共信スル
アルノデゴザイマスガ、此統計表ノ如キハ總テ私ハ信ズルニ足ラヌト思フ、雙方共信スル
ニ足ラヌト思フ、而シテ政府ノ調査ト云フモノモ亦粗漏杜撰ヲ免レナイト思フ居ル、我輩
ハ一會社ノ利害若クハ一事業家ノ利害ト云フモノハ少シモ眼中ニナイ、一會社若クハ一
事業家ノ利害ト云フコトモ、國家ノ利害、國民ノ利害ノ上カラ打算ヲ致シテス、免ニ角
今日ハ製造工業ヲ獎勵スル目的ノ上カラ申シテモ、アノ外國カラ輸入スルコロノ燈油
ヲ驅逐スル、一千万圓ニ値スル、アノ一千万圓ノ輸入ヲ杜絶スルコト云フコトガ即チ國家
ノ利益デアルト信ズル、一會社ノ利害、一事業家ノ利害何カアラン、國家ノ經濟ノタメ
ニ二千万圓ノ輸入ヲ杜絶スルコト云フコトガ、正シク國家國民ノ大ナル利益デアルト確信
シテ疑ハヌノデアリマス、特ニ此原油ノ輸入製造ニ付キマシテハ、燈油ヲ製造シテ國民
ノ需要ニ應ズルコト云フコトノ外ニ燃料ノ重油、燃料ノ重油ト云フモノハ實ニ今日デハ非
常ニ需要ガ盛ニ起ツテ、將來此重油ヲ用井ナケレバナラヌト云フモノハ、段々其需要ノ
夥シキヲ感シテ居ル今日デゴザイマス、是等モデス、ヤハリ原油ノ輸入製造ニ依テ其需
要ヲ満足セシムルコト云フ必要ガアリ國家ノタメ國家ノ事業ノタメニモ、此原油ノ輸入製
造ト云フコトハ、單ニ重油ノ需要ヲ充足スト云フ上ニ於キマシテモ、大ニ吾々ハ獎勵シナ
レバナラヌト思フ居ル、政府ハ此議案提出ノ理由ト致シテ、原油ノ輸入製造ガ盛シナ
レバ關稅ノ收入ガ減ズルコト云フコトヲ第一ニ言ウテ居ル、是ハ全クサウデゴザイマセウ、原
油ノ輸入製造ガ盛シナレバ、外國ノ燈油ト云フモノ、輸入ガ從テ減シテ來ル、從テ
此燈油ニ關スル輸入税ノ減少ヲ來スト云フコトハ事實デアル、私ハ或論者ノ如ク關稅
ノ收入ト云フモノハ少シモ減シナイト云ハナイ、減ズルニ相違ナイ、併ナガラ一國ノ製造
工業ガ盛ニ起ツテ、外國ノ輸入品ヲ杜絶シ、從テ其輸入税ガ減ズルコト云フコトハ、國

家經濟ノ大局ノ上カラ見レバ、是ハ寧ロ喜ベキコトデアル、製造工業ガ盛ニ起シテ、外國品ノ輸入ヲ杜絶スルコト云フコトニナレバ、輸入稅ノ減少ト云フコトハ、吾々ハ寧ロ之ヲ祝サナケレバナラヌデアル、唯關稅ノ收入ガ減ルカラ、内地ニ於テ製造工業ガ盛ニ起シテモイカナイ、免ニ角收入ヲ減シテハイカナイト云フ議論ハ、國家經濟ノ大局ノ上カラ見レバ、實ニ偏狹極マルトコロノ議論ト言ハナケレバナラヌデアル、殊ニ此關稅收入ガ減ズルト云フ議論ハ、假リニ此原油ノ輸入製造ト云フコトヲ別ニ致シマシテモ、内地ノ石油業者ガ段々發達シテ來テ、内地ノ需要ニ應ズルガ力ヲ持テ來ルト云フ曉ニナレバ、ヤハリ關稅ノ收入ハ減ズルデアル、故ニ此點ニ付キマシテハ、政府ノ云フコトハ少シク矛盾シテ居ル、一方ニハ關稅收入ガ減ズルト云ウテ居リ、一方ニハ内地ノ石油業者ヲ保護スルコト云フデアルガ、内地ノ石油業者ガ發達スレバヤハリ稅ノ一方カラ見レバ、此關稅收入ハ減ズルコトニナリテ居ル、實ニ私ハ此點ニ於テ、政府ノ議論ノ矛盾ヲ認ムルモノデゴザイマスケレドモ、實際ニ於キマシテハ内地ノ石油業者ガ、此處數年ノ間ニ内地ノ需要ヲ充足スニ足ルガクノ發達ヲスルハ信ジナイデアル、此政府ノ所謂關稅ノ收入ヲ減シナイト云フ點ニ於テハ、或ハ此案ガ目的ヲ達スルコトガ出來ルカモ知レマセナケレドモ、是ハ即チ關稅政策ノ上カラ論ジマスレバ、斷ジテ是認スルコトノ出來ル議論デアルト思フ、況ヤ此關稅ノ收入モ政府ノ申ス如ク、絕對ニ減ズルデアラナイ、一方ニ於キマシテハ、原油ノ輸入稅ト云フモノモアルシ、其他イロ／＼此事業上ニ關スル負擔ト云フモノカラ、收入モゴザイマスルシ、政府ノ云フガ如ク多額ノ關稅收入ガ減ズルト云フコトヲ要フル必要ハ少シモナイデアアル、殊ニ幾ラカ關稅收入ガ減ズルト致シマシテモ、此二千萬圓ノ輸入ヲ杜絶スルト云フコトハ、國家ノ利害カラ打算シナケレバナラヌデアアル、大ナル利益ヲ得ルタメニハ多少關稅ノ收入ガ減ズルト云フ不利益ハ忍バナケレバナラヌト云フコトハ、申スマデモナイコト、私ハ思フテ居リマス、諸君、斯ノ如ク致シテ此案ノ實行ハ確カニ内地ノ石油ノ價ヲ騰貴セシムルコト云フ傾キガアル、低廉ナル原料ヲ輸入シテ、之ヲ製造スルコト云フコトニナリマスレバ、即チ低廉ナル石油ヲ供給スルコトガ出來ルデアアル、然ルニ原料ノ價ヲ高クシテ、其原油ニ通過稅ヲ課シテ、原料ノ價ヲ高クスルコト云フ結果ハ、製造ノ石油ノ價ヲ高クスルコト云フコトニナリマスカラ、要スルニ内地ノ國民ハ更ニ重キ此石油稅ヲ負擔シナケレバナラヌト云フコト、同一ノ結果ニナリマスデアアル、此點カラ議論ヲ致シマスレバ、國民ノ利害ノ上カラ申シテ高イ石油ヲ供給セラル、ト云フコトニナレバ、ドウシテモ反對セバナラヌ、假リニ内地ノ石油業者ガ多少ノ打撃ヲ被ルコトアリト致シマシテモ、國民ノ利害ノ上カラ申シテ高イ石油ヲ供給セラル、ト云フ油業者ガサマデ大シタ打撃ヲ受ケルトハ信ジナイケレドモ、若シ多少ノ打撃ヲ受ケルコトガアルト致シマシテモ、高イコトノ石油ヲ國民ニ供給スルコト云フ此不利益ナル點カラ申シマスレバ、少々ハ石油業者ガ打撃ヲ被ルコトガアツテモ、尙國民ニ向テ價ノ廉キ石油ヲ供給スルコト云フコトノ方ガ大ニ利益デアルト信ズルモノデゴザイマス、要スルニ此原油ノ輸入稅ノ増率ヲ主張スル者ハ、唯目前ノ一部ノ利害ニ目ヲ注ギテ居テ、國家經濟ノ大局ヲ忘レテ居タル、殊ニ其調査ヲスル上ニ於テ、政府ノ調査ト云フモノハ最モ不完全デアアル、委員會ガ丁度折衷案ヲ立テラレタデゴザイマスケレドモ、其委員會ノ決定ノ基礎ト云フモノモ、最モ不明瞭デアアル、唯凡ソノ想像デ此位ナラ宜カラウ位ノ話カラ、アノ決定ヲセラレタニ過ギナイノデゴザイマスカラ、斯ノ如キ杜撰ナル委員會ノ案ニ對シテモ、吾々ハ贊成ヲスルコトハ出來ナイ、内地ノ石油業者ノ前途如何ヤウニナルカト云フコトモ、見定メル必要モアル、又原油ノ輸入製造事業ノ將來モ如何ヤウニナルカト云フコトヲ見定メル必要ガアルケレドモ、今日ハ是ハ皆サウデアラウト云フ相像ニ過ギナイ、原油ヲ輸

入シテ製造スレバドシナ影響ガ來ルカト云ヘバ、誰モ其影響ハ斯デアルト云フ答辯ヲスルコトハ出來ナイ、今日ハ未ダ其製造業ト云フモノハ、ホシノ著手シタルニ過ギナイデアアル、實際ノ影響ト云フモノハ、誰モ計算上カラ立テルコトハ出來ナイ、此故ニ此原油ニ對シテ輸入稅ヲ増加スル必要ガアリト致シマシテモ、未ダ暫ク他日ノ時機ヲ待テ然ルベシト思フ、即チ内地ノ石油業者ノ發達ノ將來原油輸入製造業ノ前途ト云フモノヲ見定メテ、而シテ後輸入稅ヲ増加スル必要ガアラバ、其時ニ及ンデ増加スルモ未ダ必シモ遲シナイデアアル、此故ニ私ハ此案ヲ否決シテ——原案モ並ニ委員會ノ修正案モ併セテ之ヲ否決シテ、適當ナル時機ニ於テ、其必要ガアラバ適當ナル審查ヲ遂ゲテ、其稅率ヲ實行スルコトニシタガ、國家經濟ノ大局ノ上ニ於テ、最モ利益デアトル信ジマスカラ、即チ此案ニ對シテハ反對ノ意見ヲ表シマス

（坂口仁一 郎君登壇）

○坂口仁一 郎君 昨ハ委員長ノ報告ニ贊成スル者デゴザイマス、併シ私ノ本意ヲ申シマスレバ、早速君トハ正反對デ寧ロ原案ノ通過ヲ希望スル者デアル、併シナガラ委員會ガ既ニ決定テ、各派ノ交渉ガ纏ツタト云フコトデゴザイマスレバ、私ガ一人特ニ異ヲ立デマシタトコロガ、格別ノ效能ガナク、ソレ故ニ多少ノ遺憾ハゴザイマスガ、一歩ヲ譲リテ委員長ノ意見ニ贊成ヲスルコト云フコトニシタノデアリマス、此問題ニ付キマシテハ隨分イロ／＼ノ議論モアツタカノヤウニ聞イテハ居リマスガ、併シ私カラ見マスルコト云フト極々單純ノ問題、元ヲ申シマスルコト云フト現行ノ關稅定率法ガ不備デアル、其不備トコロヲ補フガタメニ、此改正ガ必要デアル、斯ウ云フダケノコトニシカナイ、是等ニ餘計ナ議論ノ起ル答ガナク、私ハ考ヘテ居ラタ位デアアル、然ルニイロ／＼ノ議論ガ世間ニ起テ來マシタト申シマスルハ、是ハ私ノ疑ハゴザイマスケレドモ、或ハ一ノ南北石油會社ト云フモノガアツテ、利害ノ衝突ガ生シテ居リマシタ、其タメニイロ／＼ノ議論ニ花ガ咲イタノデアリカト、私ハ想像サレタ位ナコトデアアル、ソレデ唯今早速君カラ反對ノ御意見ガゴザイマシタガ、此大體ノ趣旨ヲ伺フテ見マスルコト云フト、關稅ノ主義ノ上カラ致シマシテ、内地ノ産業ノ中デ裕ナルモノハ、保護ヲ與ヘルモ宜シイガ餘リ裕ナクモ、ニハ、保護ヲ與ヘル必要ガナク、與ヘズシテ寧ロ原料ノ輸入ヲ獎勵シタ方ガ宜シイ、斯ウ云フ御説ガ第一ノ骨子ニナツテ居ルヤウニ思フ、是ハ御尤ナ御説ト私モ考ヘル、ケレドモ此議論ヲ此内地ノ石油業ニ適用セント致シマスルニハ、先ヅ其前提ト致シマシテ内地ノ石油業ト云フモノハ、將來發展ノ見込ガナク、斷定ヲ下シタ上デナケレバ往ケナイ、今日ハマダ微弱ナルモノデゴザイマシテモ、追々ニ發達シ得ルモノデゴザイマシタナラバ、無論是ニハ相當ノ保護ヲ與ヘテヤラナケレバナラヌ、早速君ハ商業會議所ノ方ノコトニハ、種々御關係ガアルノデ、此度ノ御演説モ或ハ商業會議所ノ聯合會ノ意見ヲ代表サレタコトデアリカト私ハ思フ位デゴザイマスガ、商業會議所ノコトニ付キマシテモ、確カニ十六年デアツタ、私ハ覺エテ居ル、大阪ニ全國ノ聯合會ガ開カレテ、其時ニ保護政策ノ實行ニ關シテ、イロ／＼ノ意見ヲ商業會議所ガ決議ヲ致シマシタ、而シテ保護政策ノ品類ノ調査ト云フコトニナリマシタ際ニ、東京ノ商業會議所カラハ、越後ノ石油業ニ保護スル必要ガアルト云フコトノ案ヲ提出シタコトガアルデアアル、當時ハ確カニ十六年ノワレハ十月頃デアツタと思フノデス、其協議會ニ於キマシテ、尙是等ノモノヲ總テ再調査ヲ致シタ上デ、翌年三月再ニ聯合會ヲ開イテ決スルコト云フコトニナツテ居リマシタノガ、偶ノ日露戰爭ガ起ツタメニ、其聯合會ハ御流レニナツテ、遂ニ決議ヲ見ルコトガ出來ナカッタデアリマスガ、當時ノ有様カラ見マスルコト云フト、ソレニハ何處カラモ反對ノ議論ト云フモノハ無カッタ、日露戰爭ガ無カッタナラバ、必ズ越後ノ石油モ保護サルベキ品類

ノ中ニ加ヘラレテ、政府ニ建議サレテアツタアラウト私ハ想像シテ居ルノデアル、斯ウ云フ歴史モアル、然ルニ今日ニ至リマシテ、東京ノ商業會議所マデガ、之ヲ保護スル必要ガナク、云フヤウナ意見ヲ發表シテ居リマス、私ハ甚ダ不思議ニ思フ、其商業會議所ノ意見ニ依テ見マスルニ云フ、保護スル必要ノナク、云フハ、發達ノ甚ダ遅タルモノデアルカラト、斯ウ云フノデアル、越後ノ石油——今日ハ内地ノ石油ト申シテモ、越後ノ外ニハ餘リナイ、多クハ越後ノ石油デアル、越後ノ石油ト云フモノハ、果シテ發達ハ商業會議所ノ云フガ如ク、遅タルモノデアルカ、マダ内地ノ石油ハ極ク新シイ產物デアリマス、人工搾リナドノ時代姑ク措キマシテ、漸ク米國式ノ鑿井機械ヲ用井ルコトニナリマシタノハ、二十二年デゴザイマス、其二十三年ニハ幾ラデアルカト申シマス、確カ越後ノ全國ヲ通ジマシテ、一箇年ノ產高五萬四千何百石シカナカッタハ覺エテ居ル、ツレガ漸次ニ發達ヲ致シマシテ、三十四年ニハ百萬石ニ達シテ居ル三十五年ハ少シク百萬石ヲ下リマシタケレドモ、ヤハリ百萬石ニ近イ、三十六年モヤハリ百萬石ニ達シテ居リス、此三年ハ殆ド据置キニナッテ居リマスガ此際恰モ東京ノ商業會議所カラ越後石油ヲ保護スベシト云フ説ガ出テ居ルノデゴザイマス、然ルニ其後ハドウデアルカト申シマスルコト云フ、翌年カラハ一年殆ド平均二十萬石ノ發達ヲシテ居リマス、昨年ハ百八十萬石、今年ハ確カニ二百萬石ニ達スルコト云フコトハ、石油業者モ皆申シテ居リマス、吾モ其事ヲ信ジテ居ル、僅カニ五箇年ノ間ニ二倍ニマデ發達スルコトハ、零碎ノ物產ナラバ格別デゴザイマスガ、免角モ國家ノ重要物產ニ數ヘラレタルモノ、中、外ニ何物カ之ニ比類スルモノガアル、此ノ如キ長足ノ進歩ヲシテ居リマスル事實ヲ没却シテ、甚ダ發達ガ遅タルモノデアルカラシテ、保護スルニ足リナイト云フハ、私ハ何ノタメニ言フカ分ラナイ、ウレカラ此内地ノ石油ノ追々發達スベキ有様ニ付テハ、委員會ナドデイロノ御疑ノ御方モ澤山アツタカノヤウニ思ヒマス、今日ニ於キマシテハ隨分有望デアルト云フコトヲ私ハ斷言スルニ憚ラナイ、世間ノ或一部ノ論者カラ申シマスルコト云フ、越後ノ石油ハ俄ニ二倍ニ達シタガ——達スル勢ヲ以テ發達シテ居ルケレドモ、其發達シタト云フハ、唯新津一部ノ石油ノ話デ、其外越後石油ノ中心ト稱ヘラレテ居ル、東山或ハ西山ノ方ノモノハ増シテ居ラナイ、此處等ハ殆ド極點ニ達シテ居ル、斯ウ云フヤウナ説ガアル、ケレドモ是ハ間違ッテ居ル、ト云フハ越後ノ中デモ新津ノ油田地ト申シマスルノハ、是ハ隨分古イモノデアル、古クカラ掘ラレテ居リマスガ、併シ多クノ石油ヲ見ルニ至リマシタノハ、極ク近イ話デ、新シイ油田ト云フテモ宜シイ、此一ツノ新油田ガ開ケテ來マスルコト云フ、其所ニ各方面ノ人ガ皆集ッテ來ル、是ハ米國アタリモサウダサウデスガ、越後モソレハ到底免レルコトガ出來ナイ、殆ド競争ノ如クニ井戸ヲ掘ルノデス、是ハサウシナイト云フト損ガ立チマスカラシテ、已ムヲ得ナイデサウナル、ツレバ近頃新津ノ方ガ發達シテ來タカラ、其方ニ各方面ノ者ガ皆力ヲ入レテ居リマスカラ、其方ニ力ヲ入レルト同時ニ、一方ノ方ノ力ヲ殺ガナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ一ツノ自然ニ來ル道理デゴザイマス、又其外ニ一ツノ理由ガアル、東山西山ト申シマスルハ、越後ノ中心地ト申シマスルモノ、石油ハ今日現在出テ居リマス、ツレハ數年殆ド平均ヲ保護シテ出テハ居リマス、此現在出テ居ルコロノ石油ハ、一層ノ所ヘ湧イテ居ル、極ク淺イ所ニ在ルニ三百尺カラ七八百尺ノ所ニアル油デアル、是ハ現在出テ居リマス、此上ノ大ナル發展ヲシヤウト致シマスルニハ、是非二層三層ト掘進メネバナラヌ、又深ク掘テ行キマスレバ、行ク程石油ノ質モ良クナル、又大噴油ヲ見ルコトハ二層三層ノ深イ所ニアラウト云フコトハ、外國ノ例ナドニ依ッテ皆之ハ石油業者ハサウ信ジテ居リマシテ、直チ今日ハ此二層三層ノ鑿井ニ力ヲ入レテ居ル、ダガ此二百尺三百尺ト違ヒマシテ、

三千尺二千尺ニナリマスルト非常ニ經費ガ要ル、非常ナル時日モ要シ、或ハ又機械等モ今迄ノ機械デハイケナイト云フコトニナル、ツレ故ニ準備ニ時日ヲ要スル、ツレダケノ事實際ニ施行致シマスルマデニハ、隨分時日ヲ要スルカラシテ、茲デ暫ラクノ間出油高ヲ停止サレタト云フ有様デアリマスガ、既ニ東山ノ方ニハ第二層油モ確カニアルコトヲ試驗ノ上デ確デゴザイマス、西山ニ於キマシテモ宮川アタリニモ隨分多クノ出油ヲ致シテ居リマスガ、ツレハ二千尺内外ニ達シテ居ル、サウ云フモノデアルカラシテ、漸ク今第二層ノ方ニ進シテ居ルコトハ試驗的デアッテ、其試驗ガ僅カニ確メラレタト云フ次第デゴザイマス、是ガモウ一步進シテ參リマスレバ、遙ニ此東山西山アタリハ、今日ノ現在デナシニ大ニ進シテ往クコトハ私ハ決シテ疑ハナイ、石油ノ前途ハ殆ド今日ハ極點ニ達シタガ如ク考ヘルハ間違ッテ居ル、前途ノコトハ今カラ豫言ハ出來ヌケレドモ、今日迄ノ狀況デ見マスレバ、唯外國カラ輸入ヲ仰イデ居ルコロノ六百萬箱位ノ製造ヲ内地デ増加スルコトハ、決シテ私ハ數年後ヲ出デアル中デアルコトヲ私ハ疑ハナイ、早速君ハ夢ヲ見テ居ルト云ハレマシタガ、私ハ夢デナイ積リデアリマス、油田ノ有様ハ今申上ゲマシタ如クデゴザイマス、大底御了知ノコト、考ヘマスルガ、此外ニドウ云ウ議論ガアルカト云ヒマスレバ、此關稅定率法ヲ改正致シマスルト、一千内外ノ正貨ノ流出ヲ防グコトガ出來ナイト云フヤウナ議論ガアル、早速君ナドモ之ニ大分力ヲ入レテ御議論ニナッテ居ルヤウデアル、是モ一應御尤ニ思ヒス、ケレドモ、是レ誤解カラ生シテ斯ウ云フ議論ガ出タト私ハ思フ、萬一此關稅ヲ引上ゲマシタラバ、外國カラ這入ッテ來ルコロノ原油ハ到底後來入レルコトガ出來ナイヤウニナルカラ、即チ是ハ禁止稅デアルカノ如ク御解釋ニナリマスルカラ、斯ウ云フ間違ッテ出來ルノデアル、世間ニイロノ議論ノアリマス、凡ソ是ガ原因トナッテ居ルと思ハレマス、是ハ政府當局者ガ説明致シマシタコロニ依リマシテモ、決シテ禁止的ノ意味デハナイ、原案通りニ致シテモ、私ノ考ヘルコロニ依ルト、ヤハリ十分輸入シテ更ニ差支ナイモノト信ジテ居リマスルガ、殊ニ此委員會ニ於テ修正サレマシタ如ク、餘程是ハ低率ニナッテ居リマスル、此ノ如ク低率ニナリマシタ以上ハ、原油ヲ輸入致シテ來マシテ、尙十分利益ノアルコトハ認メ付クノデアル、是ガ輸入ガ出來ヌト云フコトデゴザイマスレバ、ツレハ正貨ノ流出ヲ促スト云フヤウナコトノ意味ニモナルカモ知レマセヌガ、是デ差支ハナイ、一面ニハ内地ノ追々發達シカケテ居ル石油業、之ヲ保護致シマスル程度ニマデ引上ゲ、一面ニハ又サウヤッテ内地ニ原油ヲ持ッテ來タガ利益デアルト云フ方ニ、程度ヲ定メテ置キサヘスレバ、決シテ早速君ナドノ御心配ニナル必要ハナイ、萬々一ツレデモマダ原油ノ輸入ガ覺束ナイト云フコトデアリマシタラバ、コリヤ極端ナ話デアル、私ハツレバ宜シイトハ申スノデハゴザイマセヌケレドモ、ツレナラバ更ニ此精油ノ關稅ヲ増シタガ私ハ宜カラウト思フ、ツレハ決シテ私ガ架空デ申シマスル譯デハナイ、外國ナドニ其例ガアルト考ヘテ居リマス、伊太利ノ如キハ殆ドサウニ云フ制度ニナッテ居ル、伊太利ニモ多少ノ石油ガ出マスルカラシテ、此内地ノ石油ヲ保護スルタメニ原油ニ對シテ隨分高イ稅ヲ課シテ居ル、又精油ニモ可ナリ非常ニ高イ稅ガ課セラレテ居リマス、私ハ今日其謂ヲ持ッテ居リマセヌカラ、數字ヲ舉ゲテ申上ゲルコトハ出來ヌケレドモ、是ハ確カニサウナッテ居ルコトヲ私ハ信ジテ居リマス、ヤハリ日本ノ如キモ其例ニ倣フノ大ニ國家ノ得策デアルト考ヘテ居ル、一方ニ内地ノ產業ヲ保護致シマスルト同時ニ、一方ニハ又外國カラ原油ノ輸入ヲ獎勵スルコト云フコトハ、決シテ相悖ラヌ話デゴザイマス、此方法デゴザイマスナラバ、私ハ何時デモ贊成スルノデアッテ、絶對ニ之ヲ禁止シヤウト云フ意見デハゴザイマセヌカラ、此點ニ付テモ早速君ノ御説ト云フモノハ誤解カラ起ッテ居ルト云フコトヲ斷言スルニ憚ラナイ、ツレカラ早速君ノ御説ニ依ルト、是ハマア多ク申シマス

アモ致サル、ヤウナ按排デ、原料ヲ保護シ其關稅ヲ免除スルノガ何カ原則デアルカノ如ク、又慣例デアアルカノ如ク言ハレマスケレドモ、是ハ經濟上ニウシナコトモナシ、又各國ノ實例ニ於テモウシナコトハナイ、ソレ故ニ私ハ反駁スル程ノ値打ノナイ議論トシテ私ハ相手ニ致シマセヌ、第一ニ此早速整爾君カラシテ反對ノ意見ヲ述ベラレマシテ、甚ダ周密デアリマシタケレドモ、其間ノ論理ニ甚ダ實カヌトコロガ多イ、ソレ故ニ私ハ自分ノ考ヲ述ベルト同時ニ、多少ノ反駁ヲ却ヘヤウト思フノデアリマス、御承知ノ通り此原油ニ對シマスル關稅定率ハ、元ト石油ノ定率カラシテ除外サレテ、已ムヲ得ズ外ノ油ノ類ノ内ニ其率ヲ用井テ取ルコトニナツテ居タ、今回ハ之ヲ明白ニスル必要ガアリマスルト共ニ、第一ニ内地ノ石油製産者ヲ保護スル必要ガアリマスル、其理由ヲ以テ政府カラシテ提出サレマシタモノデアラウト考ヘマスル、政府ハ曩ニ石油消費稅ヲ課スルコトノ提議ヲ致シマシテ、既ニ是ハ可決サレテ居リマス、從テ此内地ノ石油生産者ヲ保護スルト云フ事柄ハ、丁度曩ニ稅ヲ上ケルカラシテ酒造家ヲ或方法ヲ以テ之ヲ保護スルト云フ一般ノ意味デアル、決シテ無理ノコトデハナイ、是ハ寧ろ國家ガ課稅フスル上ニ於キマシテ、自然一方ニ此義務ヲ負フノデアル、當然ノ義務デアルノデアル、假令此消費稅ガ法律トシテ、現ハレザルトキニ於キマシテモ、此今日發達シツ、アルコロノ内地ノ生産業ニ向テハ、保護スベキ必要ガアルノデアル、輕ミ諸君ハ申シマスレバ、内地ノ需要ノ三分ノ一ヲ充スニ過ギナイトカ云フコトヲ申シマスケレドモ、正シク今日ニ於キマシテハ、内地ノ石油業ハ重ナル生産ノ一ツニナツテ居ル現ニ殆ド二百万石ニ近キトコロノ生産フスルノデアルカラシテ、此生産業ト云フモノハ、縱令消費稅ヲ設定セザルトキニ於テモ、尙保護スベキトコロノ必要ガアルト私ハ信ズルノデ、尙又段々ト之ヲ保護シタ上ニ其發達ヲ促シテ遂ニ外國油ヲ仰ガズトモ、内地ノ需要十分ニ充タスマデニ之ヲ獎勵スルコトハ最モ生産上ニ於ケル注意ヲ要スル點デアリマス、第二ノ必要トシテハ關稅ノ收入ヲ減損シナイヤウニ、即チ原油ノ輸入ト、及輸入商人ノ之ニ付テ招クトコロノ影響、ソレ等ノ種々ノ點ニ付テ調査ヲ遂ゲテ、サウシテ此宜シキ程度ニ於テ關稅ノ定率ヲ定ムルト、即チ一面ニハ其關稅ニ依テ國庫ノ收入ガアルト云フコトニナル、成程或論者ハ關稅ノ收入ヲ希望スルノデナイト申シマスルケレドモ、關稅ハ或政策ニ伴ウテ出ル必要ナコトハアリマスルガ、收入ハヤハリ收入ガ、國家ニ於テ是ダケノ收入ハ確カニスルノデアル、一面ニ消費稅ヲ石油ニ掛ケテアルノデアルカラ、其關稅ノ定率ヲ定メテ生産者ヲ保護スルト同時ニ、又關稅ノ減損スルコトヲモ防ガネバナラヌノデアル、結リ此必要ニ依ツテ初メテ政府ガ今日提案ヲサレタモノデアラウト私ハ信ズルノデアリマス、輸入ノ燈油ハ六百五十万箱ト致シマスレバ、其關稅ガ九十六万ノ定率デ六百二十万餘ニナル、ソレテ原油ノ定率ヲ今日ノ儘ト致シマスルト云フト、詰リ百五十万餘ニ上ラナイノデアルカラ、大體ノ計算ノ上ニ於テ四百五十万餘ノ缺損ヲ生ズル譯柄デアル、ソレ故ニ私ハ政府ガ關稅定率ノ此法案ヲ出サレタノハ、關稅ノ收入ノ上ニ於テモ注意セラレテ提出セラレタ一ツノ理由ガアラウト思フノデアル、此反對ノ説ト致シマシテ甚ダ聞クニ足ルモノハアルトハ信ジマセヌケレドモ、一ツ此ニ注意ヲ惹クベキモノガアル、一ツハ此關稅ハ禁止稅ニナルカラシテ反對デアルト云フ御意見ガアルラシク聽エルノト、モウ一ツハ正貨ノ流出ノ上カラシテ意見ヲ立テ、此關稅ノ定

(丸山嵯峨一郎君登壇)

御參考マデニ申上ゲマス、今此關稅ノ定率ニ付テ各國ノ實價ヲ御覽下サイ、一番高イ
ノハ先程モ坂口君カラ申シマシタ通りニ、伊太利デアッテ、二圓二十三錢八厘、ソレカラ

佛蘭西が二圓十三錢六厘、獨逸が一圓三錢五厘、埃地利、匈牙利が八十九錢、斯
樣ニナリテ居ル、墨其西哥ナドハ亞米利加ニ近イ所デアリマス、尙一圓二十錢
八厘ハカリノ計算ニテ居リマス、其一番廉價イコノ埃地利、匈牙利ノ定率ニ比較
シテ見マカレモ、政府ノ提案通りトシテ四十三錢二厘トスルモ未ダ半分ニ充タヌノ
況ヤ三十六錢ノ定率ニ致シマシテ、委員長ノ報告通りトシテ居ルノ埃地利、日本が一番
廉價イコノ埃地利、斯樣ニ各國ノ實際ニ於テ定率ガ定テ居ルノ埃地利、日本が一番
多イト云フコトハ、諸君ハ御承知デアラウ、又日本ニ石油ヲ賣込シテ居ルノ埃地利、
六錢ハ卒サ知ラズ、今日政府案ノ通りニシテ四十三錢二厘トシテ居ルノ埃地利、
持テ參ルノモノナラズ「ボルネオ」ノ油モ來セウ、又太西洋ノ沿岸ニ在ルコノ油モ「バ
ナマ」ノ開鑿後ニハ十分見込ガアルカラシテ、ドシノ輸入サレシニ至ラデアラウト
今日ノ現況ノ儘デアラナラバ、左様ナ次第デアリマス、此一事ヲ以テモ決
シテ計算ニ合ハヌコトハナイ、是ガ禁止稅ニナルコト云フヤウナ誤謬ヲ考ヘ僅カ此一事
ニ付テモ間違テ居ルコト云フコトヲ私ハ確言致シマス、又正價ノ流出ト云フコトニ付テ
見テ立テラレタ早速君ナドノ說デアリマス、此說ハ又原則トシテ原料ニハ關稅ヲ掛ケナイ
ト云フヤウナ、通り一遍ノ說ト同様デアラウ、餘價ノナイ說デアル、殊ニ今日ハ世界經
濟ノ上ニ於キマシテ、其關係ガ共通ニ成テ居ル、正價流出ト云フコトガ、必要ナ問題
甚ダ陳腐ナ問題デアル、寧ロ此問題ヨリ正價ノ生産力如何ト云フコトガ、必要ナ問題
ニナラバ、其流出シタル正價ヲ回收スルガ途ヲ講ズルノ第一義デアル、固ヨリ金貨
ガ濫リニ流出スコトハ警ムベキコトデアルケドモ、單純ニ諸君ノ心配ナサルヤウナ原油ヲ買
フトカ、或ハ材料ヲ買フタメニ、正價ガ流出スルコト云フコトハ、決シテ憂フベキコトモ何
デモ無イ、貿易上ノ關係カラ、或時期ニ於テハ、正價流出ノ時期ハ時々アル事柄デア
ル、例ヘバ労働者ガ食物ヲ得ルニハ、錢ヲ出サケレバナラズ、其錢ニ依テ食物ヲ得
テ、自分ノ働クダケノ力ヲ養フ、其力ニ依テ労働スル、サウシテ其費シタルコノ錢ヨリ
モ、多クノ物ヲ回收スル、是ガ普通ノ經濟上ノ單純ナ事柄デアル、是ト同ジコトデア
ル、決シテ正價流出ト云フヤウナ廣大ニ憂フベキ事ノヤウニ申立テ、サウシテ事々シク本案
對シテ強イ理由カノ如ク演說サル、ノハ、甚ダ其心ヲ得ナイト思フノデアル、詰リ經濟
學上ノ戸口ニ在ル議論デアラウ、解釋ハ直チニ出來ルコトデアル、又事實ノ上カラ申シマ
スレバ、若シ此關稅稅率ヲ引上ゲナイ、今日ノ儘デアッタシタナラバ、却テ此正價ノ流出
スルコト云フ憂ガ生ズルノデアル、即チ原油ノ輸入商ハ、諸君ハ或ハ南北石油會社ト云
ハ淺野君ガ獨占シテ居ルガ如ク思ハル、カハ知ラヌケレドモ、決シテ今日ノ原油輸入商
ハ、將來ニ於キマシテ決シテ是等ノ人ノ獨占事業ハアルベカラザルモノデアル、其故
ニ今日ノ如ク利益ガアルコト云フ見込ガ立タナラバ「サミュエル」モ來リマセウ「スタン
ト」モ來テ、商賣スルノデアリマセウ、殊ニ外國人ハ內國人ト違ヒマシテ、多少ノ便宜ガ
アル、若シ將來ニ利益ガアルコト云フ見込ガ立タナラバ、南北會社ト同ジ計畫ヨリ以
上ノ計畫ヲ直チニ始メルノデアル、現在亞米利加カラシテ我政府ノ方ヘ向テ、此關稅
定率ハ此上引上ゲルコトハナイカト云フコトヲ問合セヤウニ私ハ聞及シテ居ル、其意味
ハ若シ關稅四十三錢以上ヨリ長ク引上ゲヌト云フコトデアッタナラバ、是カラ大ニ原油ヲ
輸入シテ、製油事業ヲ畫策シヤウト云フ意味デア照會ニナッタデアリマス、決シテ四十三
錢ト云フコトヲ恐レテ照會ニナッタデアナイ、寧ロ進ンテ事業ヲ計畫シヤウト云フタメ、照

會シテ來タノデアル、サウナリマス「ト」云フ、南北會社モ淺野某ナルモノモ決シテ果等ノ
大ナル資本家ニ向テ抵抗スルコトガ出來ナイ、寧ロ外人ノ手デ直チニ内地ノ正價ヲ持
去テシマフ結果ニナル、此儘ニシテ措ケバ、必ズサウ云フ結果ニナルツレ故ニ反對論者
ガ正價流出ト云フコトコニ御氣付キニナッタノハ、即チ自ラ大ニ警メナケレバナラズ事柄
アルト私ハ思フノデアル、事實ニ於テハ即チ正價流出ノ議ヲ反對論者ニ於テハ受ケナ
レバナラズト私ハ思フノデアル、然レ今日ニ於テハ反對論者ノ中ニハ石油ノ發達ハ、内
地ニ於テハ最早望ムベカラズト云フ意見ヲ鼓吹シテ居ル人モアルケレドモ、是ハ先程坂
口君カラ詳シク數字ヲ舉ゲテ示サレテ居ル、現ニ四十年度ニ百八十萬石ニ達シテ、今年
度ハ優ニ二百萬石ノ產出ヲ見ルノデアラウ、此數字ハ動カヌコトコノ數字デアル、此儘
ノ間ニ殆ド二百萬石ノ產出ヲ見ルノデアラウ、此數字ハ動カヌコトコノ數字デアル、此儘
スデアリマセウカ、反對論者ハ尙是デモ發達ノ望ガ無イト云フデアリマセウカ、尙ツレヨ
リモ生産ノ區域ハ擴張サレテ、秋田縣、青森縣、北海道若クハ臺灣ニ至ルマデ、此石
油ヲ產出スルコトコノ見込ガ十分アルノデアリマス、詰リ要スルコトコノ反對論者ハナゼ
今日或ハ一會社ノタメ、若クハ一人ノ利益ノタメ、其方ヲシテ、内地ノ殊ニ三
千萬圓ノ資本ヲ投ジテ、經營シテ居ル所ノ生産業者ノ不利益ヲ計ルノデアリマセウカ、
ナゼ是等ノ生産業者ヲ保護スルコト云フ考ハ起ラヌデアリマセウカ、寧ロ起ラヌノミナ
ラズ、之ヲ迫害シヤウト云フ點ニ至ラテハ其理由ヲ私ハ知ルニ苦ムノデアル、更ニ進ンテ反
對論者ハ詰リ南北會社ト云フガ如キ考ヲ有テ居ル、淺野某ガ云フガ如キ考ヲ有テ居
ルノデアル、外國商人ト握手シテ內國商人ヲ「同胞」陳外スルコトコノモノデア
其了簡ノ程ハ測レバカラザルモノガアルト思フノデアル、本案ハ政府案ノ最モ適當ナル
コトヲ私ハ委員長ノ報告ニ贊成シテ居リナガラ、尙之ヲ認メテ居リマス、此政府案ニ反對
ヲ致スコトコノ即チ絕對反對ヲ致スコトコノ論者早速整頓君ノ云フコトコノ如キハ、尙
此南北會社ノ諸君ノ前ニ配付シタルコノ書類ニ示シテアル通りニ詰リ主張スルコ
ロガニナル、此南北會社ノ主張スル所ノ第一點ハ、海外カラシテ輸入スル燈油ガ年
額六百五十萬箱アル、其六百五十萬箱ノ價格正價千五百九十萬圓ハ流出スルコト
云フコトヲ防止ス、斯ウ云フコトガ第一ノ主張デアル、ケレドモ諸君、燈油六百五十萬圓ヲ
拂ヒ得ルダケニ、ツレニ相當スル原油ノ輸入シナケレバナラヌノデアル、ツレダケノ正價ヲ流
出スルノハ是ハ確實デアル、正價流出ヲ絕對ニ防グコト云フコトハ到底出來得ベカラザル
事柄デアル、又不合理デアル、尙極端ニ内地ノ生産者ヲ壓倒スルマデモ、彼ノ反對論
者ノ目的ヲ達セシメタナラバ、將來永久ニ正價ハ引續イテ流出スル結果ヲ見ルノデア
ル、決シテ其主張ト相伴フ結果ヲ見ルコトハ出來ナイ又反對論者ノ即チ南北會社ノ主張
スルコトコノ第一ノ主張ハ燈油重油ヲ製出スル共ニ各種副産物ノ價格二千五
百萬圓ノ製品ヲ得テ、國富ヲ増殖シ産業ヲ隆興セシム、斯ウ云フ主張シテ居ル、是モ
又間違テ居リマス、原油ノ二百萬石カラ得ルコトコノ副産物ト云フモノガ「簡單々々」
ト呼ブ者アリ此二千五百萬圓ノ利益ヲ見ルト云フ事柄ハ、ドウ云フ計算デアリマセウ
カ、如何ニ計算ヲ致シマシテモ、凡ソ四百萬石ノ副産物ヨリ多クノ利益ハ見ナイノデア
ル、輸入原油ニ課稅ヲシナイデ置イテ、其タメニ内地ノ生産業者ガ損害ヲ受ケル、其損
害ト較ベテ見タラバ、此四百萬圓ノ如キハ、誠ニ僅カナモノデアル、併ナガラ一面ニハ彼ノ
反對論者即チ南北會社ノ如キハ、努メテ詰リ會社ノ利益ノヤウニ裝ウテ居ル、唯課稅ヲ
サレ、バ會社ガ行立タヌ、倒レテシマフ、事業ヲ廢シナケレバナラヌト云フヤウナコトヲ申シ
居ル、サウシテ置イテ都合ノ好イトキハ今言フ通り副産物ノミデ二千五百萬圓以上ノ利
益ガアルト申シテ居ル、若シ會社ガ吾々ノ計算以上ノ非常ナ技術ヲ以テ二千五百萬圓

以上ノ利益ヲ得ルモノナラバ、何故ニ會社ガ行立タヌトカ、事業ヲ廢シナケレバナラヌ必
要ガ生ジテ來マスカ、詰リ勝手ナ議論ヲ竝ベテ、都合好イ話ヲ致スノデアル、私ハ尙此
法案ニ付テハ、多少ノ議論ヲ要スル點カラシテ、尙簡單ニ一應ノコトヲ申上ゲネバナラヌ
ノデアル、本員ハ南北會社ガ假リニ此定率ヲ四十三錢ト見積ツテ、其云フトコロノ通リ
ニシテ、計算ヲ立テ、見マス、サウシテ尙且非常ナ利益ノアルコトヲ認メルノデアル、例ヘ
バ一石ノ原油ノ總テノ支出ヲ南北會社ノ云フ通りニシテ調ベ、其誤謬ヲ正シテ見マ
スト、五圓七十九錢二厘トナル、之ニ對シテ南北會社ガ燈油ヲ製スル反對ノ製造法ニ
依ッテ、計算ヲ立テ、見マス云フテ、七圓五十九錢五厘トナルノデアル、ソコデ一石ノ
上ニ於テ收入ト支出ト上デ一圓八十錢三厘ノ利益ガアルコトニナル、サウシテ南北會社
ガ四十一年度ニ於テ豫定セルトコロノ原油輸入額五十八萬四千四百二十石ニ對シマシテ、此
一圓ノ利益ヲ乘ジテ見マス云フト、確ニ二百一十六萬八千八百九十二圓ノ利益ヲ得ルノデ
アル(「簡單々々」ト呼フ者アリ)然ルニ南北會社ノ言フハ、増率ニテレバ、先程言フ通り
ニ會社ガ行立タヌトカ云ウテ、誠ニ其利益ノアルトコロヲ隱シテ居ル(「簡單々々」ト呼
フ者アリ)尙長クナリマス、議員諸君ヲ滿著シテ、殆ド議員諸君ハ目ノナキ如クニシテ滿
著ヲ致シテ居リマス、尙簡單ニ中シマスレバ、彼ノ南北會社ガ諸君ノ前ニ提出シタ
ルトコロノ種々ノ書類ニ於テ此一年ニ輸出スル豫定額ノ五十六萬四千四百二十石ノ中、四十
九萬五千石ト云フモノヲ重油ヲ製造スル方ヘ充テ、置ク、サウシテ六萬九千石ト云フモ
ノヲ燈油ヲ製スル方ヘ充テ、計算ヲ立テ、居リマスノデアルケレドモ、諸君モ御承知ノ通
リ重油ハ重油ヲ取ルトコロノ油ガアル、是ハ「カリフォルニア」アリニハ非常ニ多ク產出ス
ルノデアル、燈油カラ重油ヲ製造スル方法ハ至ッテ不利シタル馬鹿ナル方法デアル、然ル
ニ此五十六萬石ノ大部分、四十九萬石ヲ重油ヲ製造スル方ニ——製造法ニ充テ——計
算シテ居ル、斯様ナ狡猾ナコトヲ致シテ諸君ヲ目ノナキ如クニ瞞著ヲ致シテ居ル、諸君ガ
此ノ如ク馬鹿ニサレテモ、尙反對論者ハ眼ガ覺メナイテ其說ヲ主張シテ居ル者ガアルノハ、
甚ダ私ハ其心ヲ得ナイノデアル、尙又南北會社ハ此方法ニ於キマシテ、増率ヲ致シマシ
デモ、内地ノ石油業者ト競争スル餘地ヲ持テ居リマス、其製造法ヲ胡麻化サヌ以上
ハ、必ズ其餘地ヲ持テ居ルノデアル、十分ナル利益ガアル、現ニ何モ仕事ヲ殆ドシナイ
今日ニ於キマシテモ、尤モ考課狀ハ出シマセヌケレドモ、一割二分ノ配當モシテ居ルヤウ
ナ次第デアル、是ガ製造ヲ實際行フナラバ、非常ナ利益ヲ配當スルコトガ出來ルコトハ、今
日ノ狀態ニ於テ分ルノデアル、是ニ於テ關稅定率ヲ引上ゲル必要ガアル、又内地ノ生産
業者ヲ保護スル必要ガアルト私ハ斷言致ス、委員諸君モ固ヨリ茲ニ見ルトコロガアデ、
委員長報告通りニ御決定ニ相成リマシタガ、本員ハ其勞ヲ多シトシテ、之ニ贊成ノ意ヲ
表スルト同時ニ尙將來ニ於キマシテ、此關稅定率ノ事柄ニ對シテ一切ノ事情ヲ御調査
ニ相成ツテ、他ノ滿著手段ニ乘セラレナイヤウニ、他日諸君ガ再ビ此議場ニ御出ニナツタ
ナラバ、本案ノ定率ヲ更ニ適當ノ程度ニマデ引上ゲルコトヲ、今日ヨリ私ハ希望致シテ置
キマス、反對論者ノ說ハ一々反駁シヤウト思ヒマスガ、簡單ノ聲ガ餘リ多クアリマスガ
ラ、是デ御免ヲ蒙リマス

○恆松隆慶君 討論終結

(「贊成々々」ト呼フ者アリ)

(「大藏大臣松田正久君」登壇)

○大藏大臣(松田正久君) 諸君、此關稅定率法輸入稅表中ノ改正ニ關スル政府
ノ所見ハ、特別委員會ニ於キマシテ、鄭重反覆說述致シタルトコロデゴザイマス、即チ
速記録ニ於テ既ニ御承知ニナツテ居ルコト、思ヒマスニ依ッテ、此所ニ尙之ヲ繰返スノ必

要ヲ認メマセヌ、唯諸君ノ中ニ於テ増稅又増稅ト云フコトヲ申サレルノデアリマスガ、此
表ノ改正ハ決シテ、増稅ヲ目的ト致シタルトコロデハナイノデアル、寧ロ減稅ヲセヌヤウ、
又一方ニ於テハ内地產ノ發達ヲ助ケタリト云フノ趣意ニ外ナラヌノデアリマス、委員
長ノ報告ニ依ッテ見レバ、稅率ノ修正ヲ適當ナリト云フコトデ、滿場一致ヲ以テ決シ
トアリマスガ、此稅率ノ修正ガ結果シテ適當ナリヤ否ヤト云フコトニ至ッテハ、大ニ疑ヲ持
テ居ルノデアル、或ハ不適當デハ果シテ適當ナリヤ否ヤト云フコトニ至ッテハ、大ニ疑ヲ持
レバ、各派ニ於テ御交渉ノ結果ナリトモ申スコトデアリマス、併シ此修正ハ承ハルトコロニ依
ルノモ、或ハ無益ト思ヒマスケレドモ、一應政府ノ所見ヲ申述ベテ置イテ、原案維持ノ說
ヲ重ネ、成ルベク諸君ノ御贊成ヲ得テ原案ノ通り通過センコトヲ希望致シテ止マヌノデア
リマス

○採決々々」(聲起ル)

○副議長(箕浦勝人君) 討論終結ノ動議ガ起ッタヤウデアリマスガ、成規ノ贊成ガア
リマスガ

(「アリマス」ト呼フ者アリ)

○副議長(箕浦勝人君) 討論終結ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシ」(聲起ル)

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ナシト認メマス、討論ハ終結セラレマシタ——採決
起立者 多數

○副議長(箕浦勝人君) 多數ト認メマス

○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○副議長(箕浦勝人君) 恆松君發議ノ通り直チニ二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌ
カ

(「異議ナシ」異議ナシ」(聲起ル)

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ハナシト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

關稅定率法輸入稅表中改正法律案 第二讀會

○恆松隆慶君 委員長報告通り異議アリマセヌ

○副議長(箕浦勝人君) 委員長報告通り御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」(聲起ル)

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナケレバ委員長報告通り決シマス

○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開カレンコトヲ希望致シマス

○副議長(箕浦勝人君) 恆松君發議ノ通り、直チニ二讀會ヲ開クニ御異議ハアリ
マセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシ」(聲起ル)

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ハナシト認メマス、直チニ二讀會ヲ開キマス

關稅定率法輸入稅表中改正法律案 第三讀會

○副議長(箕浦勝人君) 第二讀會決議ノ通り御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」異議ナシ」(聲起ル)

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ハナシト認メマス、二讀會決議ノ通り確定致シマ

ス——御諮り致シマスガ、日程第四乃至第二十號ハ一括シテ委員ニ付託サレテ居リマス
スカラ、一括シテ委員長ノ報告ヲ承リマス、又是ハ各案聯關シテ居ルモノデアリマスカラ、
一括シテ議題ニ付シテ、決ハ各案ニ付テ採ル、是ニ御異議ハアリマセヌカ
〔異議ナシ異議ナシノ聲起ル〕

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ナシト認メマスカラ其通リ致シマス、ソレデハ日程第
四災害地々租特別處分法案以下十六件ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス

第四 災害地地租特別處分法案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第五 所得稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第六 營業稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第七 織物消費稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第八 賣藥稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第九 砂金採取地稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十 礦業法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十一 登錄稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十二 取引所稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十三 通行稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十四 相續稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十五 狩獵法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十六 印紙稅法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十七 民事訴訟用印紙法中改正法律案
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十八 商事非訴事件印紙法中改正法律
(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第十九 行政訴訟書類印紙貼用廢止ニ關
スル法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

第二十 沖繩縣ニ於ケル舊租免除ニ關スル
法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

(栗原亮一君登壇)

○栗原亮一君 日程第四ヨリ第二十マデ、即チ十七讀案ヲ一括シテ報告致シマス、
此稅法整理案ハ戰後財政上ニ於キマシテ、終ニ此非常特別稅ト云フモノヲ廢スルコト
ガ出來ナイ事情ニ立至リ、此非常特別稅ヲ存續スル代リニハ、稅法ノ改正整理ヲ遂ゲ
テ貰ヒタイト云フノガ、衆議院ノ希望デアッタデアリマス政府ニ於テハ稅法整理會ガ第
一回ニ大藏省ノ部内ダケニ於テ設ケラレテ、又第二回ノ整理會ニ於テハ其改正案ヲ原
案トシテ種々審査ヲ遂ゲラレテ、其結果ト云フモノハ即チ二冊ノ書物トナシテ、諸君ノ御

手許ニ同ジテ居リマスカラシテ、詳シキコトヲ申ス必要ハナイト思ヒマス、此衆議院ニ於ケ
ル全體ノ希望ハ、先ヅ根本的ニ此稅法ノ整理ヲシテ貰ヒタイト云フノ希望デアリマシテ、
此整理案ニ依リマスルト云フト、其審議ニ於テハ根本的ノ稅制ノ改正整理ヲスルト云
フトモ評議ニナラズ居リマスガ、或ハ此不動產稅ヲ起シテ、地租、所得稅、營業稅等
ノ直稅ヲ總テ廢シテ、不動產即チ土地家屋ノ稅ヲ取ルト云フヤウナ案モ調査サレテ居リ
マスケレドモ、此ノ如キ此稅制ノ大改革ハ財政經濟上ノ大變動ヲ起スルト云フコトニナ
テ、是ハ採用ニナラズシテ、此次ニ於テハ本院ノ希望モ彼ノ惡稅ト稱セラル、鹽專賣、
織物稅、通行稅、此三稅ヲ廢シテ、何カ代リノ稅源ヲ求メタイト云フノ評議デアリマシテ、
然ルニ此鹽專賣ノ收入ガ約一千万圓デアリマスカラ、其代リ稅源ヲ求メルニハ或ハ家
屋稅ヲ起シテハ如何デアラウ、併シ是ハ地方ノ稅源トモナラズ居リマスルノデ其說ハ用非
ラズ、或ハ又山林稅ヲ起シテ此代リ稅源ニシタラ如何デアラウト云フヤウナコトモ、此
調査會ニ於テハ議題トナラズ居リマスガ、今山林稅ハ約百二十万圓バカリデア
リマスカラシテ、凡ソ之ヲ十倍致シマスナラバ代リ稅源トハナリマスケレドモ、今日此山林
ト云フモノハ莫帳ガ甚ダ不整理デアリマシテ、此儘ニシテ根本カシテ臺帳ノ整理等モセ
シテヤツタ時分ニハ、或ハ荒山トカ荒地トカ云フモノニ突飛ナ稅ガカ、ルト云フヤウナ次第
デアツテ、是ハ隨分時日ヲ掛ケ、又經費ヲ掛ケテ能ク其調査ヲシタナラバ、一千万圓ト云
フヤウナ大ナル財源ヲ得ズトモ、數百萬圓ノ財源ヲ得ルコトガ出來ルカモ知レマセヌケレド
モ、此場合ニ於テ直チニ代リ稅源ニハナラズデアリマス、因テ此說モ用井ラナイノデ
アッタデアリマス、ソレカラ又織物消費稅デアリマスガ、是モ甚ダ不人氣ナル稅デアリマ
シテ、或ハ此稅法ノ改正案ニ於テハ今日ノ從價稅ヲ廢シテ從量稅ニスルト云フヤウナ改
正案モアリマシタケレドモ、結局此織物消費稅ハ存廢如何ノ問題デアリマシテ、廢セバ
全ク廢スル、又存スルナラバ是ハ代リ稅源ガナイタメニ著シク改正ヲ加ヘルコトヨリ餘地
ガナイト云フコトニナリマシテ、此儘ニナラズ居ルノデアリマス、通行稅モ之ヲ廢シタイト云
フ希望デアリマシタケレドモ、是モ代リ稅源ノ長キモノガナイタメニ其儘ニナラズ居ルノデア
リマス、此稅法ハ隨分イロ／＼調ベテ見マシタ、ドウモ惡稅々々ト謂フケレドモ、他ニ是ハ
如何ニモ善稅デアルト云フヤウナモノハ見出シ得ナカッタデアリマス、ソコデ據處ナク此現
行法ノ稅法中ノ最モ不公平ナル、權衡ヲ失フテ居ルモノ、或ハ徵稅ノ簡便ヲ缺イテ居
ルモノ、又其他改良整理ヲ要スルモノ、此範圍ニ於テ詰リ非常特別稅ニ於テ得テ居ル
トコロノ稅額ヲ失ハヌ範圍ニ於テ、整理ヲシタデアリマス是ハ増ス必要モナケレバ、又減
ズルコトモナラズ、詰リ既定ノ歲入ヲ減セズシテサウシテ何カ名案ガアルマイカト云フヤウナ
コトニ陷ラデアリマスカラシテ、到底此讀會ノ満足ヲ、得ルヤウナ名案ヲ得ルコトハ出
來ナカッタ次デアリマス、此整理案中ニ於キマシテ、宅地價修正、是ハ整理案ト共ニ
提出セラレマシタケレドモ讀會ノ宿題デアリマシテ、是ガ委員會ニ付託セラレ、マシタ前ノ
二十一讀會ニモ提出セラレテ、調査ガ社撰ナリト云フコトデアリマシテ、今回ハ委員會
ニ其材料モナカ／＼葛籠ニ何杯ト云フ程ノ非常ナ材料ガ出來テ、是ガ委員會ニ提出セ
ラレテ、今回ノ宅地價修正ト云フモノハ、隨分綿密ナル調査ガ出來テ、大ニ當局者ノ勞
ヲ多トナル譯デアルト云フコトヲ委員會ニ於テモ認メマシタデアリマシテ、是ハ既ニ撤
回ニナリマシタカラシテ、多ク言フノ必要ハアリマセヌ即チ此地租條例改正案モ地價修
正案ト關聯シテ居リマスカラシテ、此二案ハ既ニ撤回ニナリマシタカラ多ク言フコトヲ省
キマス、此整理案ナルモノハ至テ不人氣ナル案デアッタデアリマスガ、併シ又其中ニ於キ
マシテハ、所得稅ノ四百圓未満ヲ免除スルコト是ハ今日生活ノ狀態ニ於テ、三百圓
位ノモノニ課稅スルハ甚ダ酷デアル、其他營業稅ナドニ於テモ、隨分便利ナル修正モアリ

マシタ、此登録改正、相續税等はニ於キマシテハ、多少ノ見ルベキ改正ガアリマシタケ
レドモ、併ナカラ今同ハ段々委員會ニ於テ、審査ノ結果、是ハ全部否決ト云フコトニナ
タノアリマス、其否決ニハ種々ノ理由ガアリマシタガ、或ハ此整理案ハマダ研究調査
ノ餘地アリマシタ、又増給ヲ此際斷行致シ、財政ニモ餘裕ガナイ今日ノ場合デアラ
ノ理由デアリマシタ、又増給ヲ此際斷行致シ、財政ニモ餘裕ガナイ今日ノ場合デアラ
此税法整理案ヲ實行スルナラバ、約二百萬圓ノ歳入ヲ減ズル次第デアラカシテ、
今日ハ之ヲ即決スルコトハ宜シクアルマイ、是モ一ノ理由デアッタデアリマス、ソレカラ整
理案ニ付テハ元來本院ノ希望ナルモノハ、三稅ノ如キハ廢止シタイト云フデアリマス
ケレドモ、是ガ存続セラレテ居ル、因テ是ハ當初ノ希望ニ副ハナイデアルト云フ議論モアリ
マシタ、ソレカラ此税法整理ハ根本的ニヤ、テ實ハタイト云フデアリマスルケレドモ、姑
息第一向根本ノ整理ガ出來テ居ラヌ、先ヅ是等ガ否決ノ理由デアリマシタガ、要スルコ
ロ此整理案ナルモノハ無條件ニテ一括シテ否決ト云フコトニ致シタデアリマス

○副議長(箕浦勝人君) 横田虎彦君

○島田三郎君 委員長ニ質問ガアリマス、唯今地價修正法案、宅地價修正案ノ撤
回ニナリマシタコトハ、委員長ノ報告ガナクモ衆議院公報ニ依ッテ承知シテ居リマスガ、
其撤回ニナリマシタ手續ヲ承ハリタイ、ドウ云フ風ニシテ撤回セラレマシタカ——委員長
デ御答ガ出來マスカ

○栗原亮一君 ソレハ政府ガ撤回シタデアリマスカラ、答辯ハ政府カラ致シマセウ

○島田三郎君 御待チ下サイ、委員長ガ答ガ出來ヌト云フコトデアレバ、政府ニ質問
シマス

○副議長(箕浦勝人君) 横田君ニ發言ヲ許シマシタカラ、其後願ヒマス——質問
ノ發言アリマスカラ……

(横田虎彦君登壇)

○横田虎彦君 本員ハ唯今ノ問題ニ關聯致シマシテ、政府ニ質問ヲ提出致シタイト
思ヒマス、唯今委員長ヨリ説明ニナリマシタガ如ク、此地租條例中改正法案外二十
三件アリマシタ、即チ唯今報告ニナリマシタ災害地租條例法律案ト共ニ一括シテ今期
ノ議會ノ冒頭ニ政府ヨリ提出ニナリマシタ問題デアリマス、委員長ヨリ報告ニナリマシ
タガ如ク、此稅制整理案ハ今ヨリ二箇年前ニ於テ本院ノ希望ト致シマシテ、總テ稅
制ヲ根本的ニ改正ラシテ、稅法ヲ根本的ニ整理ラシテ、即チ財政ノ基礎ヲ鞏固ニスル
云フコトノ目的ヲ以テ、此改正ヲ希望致シマシタ結果、時ノ政府ハ議會ニ公約ヲ致シマシ
テ、即チ二箇年ヲ期シテ有ル稅法ヲ調査整理ラスト云フコトニ致シタデアリマス、形
式的ニ致シマシタモセヨ、爾來政府ハ即チ衆議院議員貴族院議員又ハ民間ノ有力者等
ヲ網羅致シマシテ、稅法ノ整理審查會ナルモノヲ設ケテ、二箇年ノ間ニ種々ナル調査ニ從
事致シマシタ其結果、即チ此數案ガ議會ニ提出ニナタモト考ヘテ居リマス、而モ
此數案ノ中ニハ即チ地租條例中改正法案、及宅地價修正案等ノ如キハ此數多
議案中第一ニ置カレテ、委員會モ數回是ガ調査——審查ニ從事致シマシテ、即チ審
查中ニ屬シテ居ッタデアリマス、唯今委員長ノ報告ニ依リマス、政府ハ銳意此調査
セラレタガタメニ、地租條例中改正法案案ナリ又宅地價修正案ノ如キハ、最モ政府ガ
丁寧慎重ニ調査セラレタモノト見ユテ、參考トシテ供セラレタル材料ノ如キモノモ、頗
ル豊富ナモノデアデ、委員會ニ於テハ政府ノ勞ニ深く感謝ヲ表シテ居ッタ次第デアデ、
著々審查中何ゾ圖ラン政府ハ之ヲ今日撤回ニナタト云フコトノ報告デアリマス、本員
等ハ當初此ノ如ク信ジタデアリマス、宅地價修正案ノ如キハ既に前議會デアリマシタ

カ、本議場ニ提出ニナタヤウナ次第デモゴザリマスルシ、殊ニ各地方ニ於キマシテ、種々
ナル利害ノ關係モ多ナルモノナルガ故ニ、當局者ニ於キマシテモ餘程是等ノ上ニ付キ
マシテハ、十分ナル審查ヲ遂ゲラレタデアラウト考ヘ居ッタデアリマス、尤モ本員等ノ
之ニ對スル贊否ハ、別ノ議論ト致シマシテ、政府ガ茲ニ俄ニ此案ヲ就中二十有餘件
ノ中ヨリ、而モ其類ハ異ッテ居ルケレドモ、其性質ヨリ其原因ニ於テハ同シク稅法整理
ノ結果デアレタ法案而モ其法案中尤モ重大ナルモノナルニ拘ハラヌ而モ政府ハ之ニ同
テ最モ慎重ノ調査ヲ遂ゲ、宅地價修正案ノ如キ非常ノ費用ト手數ヲ掛ケタデアル、
費用ノ如キ、聞クトコロニ依レバ、數十萬圓ヲ要シタト云フコトデアル、此ノ如キ國費ヲ
投十分ノ調査ヲ爲シ、而モ議會ノ冒頭ニ責任ヲ以テ提出致サレタコロノ重大ノ案
件デアル、ソレヲ突如トシテ撤回シタト云フコトハ、抑如何ナル理由ニ依ルデアルカ、成
程法律ニ於テ政府ハ何時デモ議案ヲ撤回ヲ爲シ得ルコトヲ認メラレテ居ル、併ナカラ本
員ノ考フルトコロニ依レバ、政府ガ之ヲ議會ニ提出スルニハ、其一面ニ於テ最モ重責
任ノ關聯シテ居ルモノガアルト思フ、ソレハ議會ヨリ提出シタ案ノ如キ、議案トシテ提出
シタ以上ハ、承認ヲ得ケレバ撤回ヲ許サヌデアル、勿論政府ハ自由ニ撤回スルコトヲ
認メラシメテ居ルハ云ヘ、自由ニ出來ルダケ其責任ノ重イト云フコトハ當然ノ話デ、此點
ヨリ考ヘテ委員會ヲ長ク開イテ今日迄來タモノヲ、突如トシテ理由モ示サズ撤回スル
云フハ、實ニ責任ヲ沒却スルノ甚シキモノデアルト言ハナケレバナラヌ(ヒヤノ)「ト呼
者アリ」之ニ付テ本員ノ問ハントスルハ、政府ガ此二案ヲ撤回スルナラバ、何故ニ全體
撤回シタカ、政府ハ委員會ノ經過モ承知シテ居ル答デアル、大勢モ承知シテ居ル
答デアル、同シク否決セラレ、モノヲ、何ノ爲ニ特ニ二案ガケラ撤回シタデアルカ、本員
ハ甚ダ其理由ノアルトコロヲ知ルニ苦ムデアル、都下ノ今朝ノ新聞紙ガ傳フルトコロニ依
ルト、之ヲ撤回シタノハ政友會内ニ贊否ノ議論ガ岐レテ、到底自黨ノ統一ヲ保タヌ是
ガタメ黨内ニ紛擾ヲ來スノ恐レナキニシモアラズト云フノデ、政友會ガ其自黨内ノ紛擾
タメニ政府ニ「ノウク」「ヒヤノ」「ト呼フ者アリ」交渉シテ遂ニ撤回トナツデアルト
云デ居ル、政友會ノ諸君ハ「ノウク」「ト云ハレガ本員果シテ如何ナル理由ニ依ッ
大ニ疑ハザラ得ヌデアル、此點ニ付テハ大多數ヲ有スル政友會ノ如キハ惜ムデア
本員ハ果シテ新聞紙ノ傳フル如クデアラバ、政府ガ自黨ノ爲メニ操縦上ノ故ヲ以
テ責任ヲ二三ニシ、遂ニ議會ヲ翻弄スルモノナリト斷言スルニ憚ラヌデアル、併ナカラ
賢明ナル政友會出身ノ大臣ニハ、左様ノ拙劣ナルコトハアルマイト存シマスカラ、ドウカ
此滿天下ノ諷ヲ十分解クノ必要ガアリマスニ依ッテ、政友會出身ノ、豫テ敬愛スル松田
大藏大臣ノ御答辯ヲ希望致スデアリマス

(拍手起ル)

○大藏大臣(松田正久君) 議長

○副議長(箕浦勝人君) 大藏大臣

(松田大藏大臣演壇)

○栗原亮一君 委員長ノ報告ヲ補ッテ置キタイコトガアリマス

○副議長(箕浦勝人君) 大藏大臣ノ演說ガ濟ンデカラ……

○栗原亮一君 チョットデス

○副議長(箕浦勝人君) 大藏大臣ニ發言ヲ許シマシタカラ、後ニ願ヒマス

○大藏大臣(松田正久君) 唯今(大聲ニ願ヒマス)「ト呼フ者アリ」横田議員ヨリ政府
ニ對シ何故ニ宅地價修正法案及地租條例中改正法案ヲ撤回シタカ、尙ソレニ附
帶シテ政友會云々ノコトモ質問サレタヤウデアリマス、是ニ對シテ御答ヲ致サウト存ジマ
ス、此宅地價修正法案、地租條例中改正法案ノ如キ(大聲ニ願ヒマス)「ト呼フ者

アリ)本大臣ノ記憶ニ依レバ、第二十一議會ニ於テ、本院ヨリ建議ニナリテ、其建議ニ基テ政府ハ慎重ノ調査ヲ遂ゲマシテ、一旦本院ニ提出致シタルノアル、然ルニ尙調査ニ不完全ノ點ガアル等ヨリシテ、更ニ政府ニ於テ調査ヲ致スト云フ評議ニナリタヤウニ考ヘマスルガ故ニ、政府ハ其後尙秘密ノ調査ヲシテ、今期ノ議會ニ提出ヲ致シタルノアル、而シテ特別委員會ニ於テ、數十日ノ審査ヲ遂ゲラレマシタガ、横田君ノ言ハル、如ク餘程政府デハ手數ヲ掛ケテ、丁寧ニ取調ラシタルモノデアリマスカラ、多分委員會ニ於テハ一旦本院ノ建議ニモナリタモノデアラカ、可決セラル、コトデアラウト云フ考ヲ持シテ居リマシタルコトコガ、豈ニ圖ラシテ決セラレタルノアル、デ政府ハ議院法第三十條ニ依リマシテ撤回ヲ致シタルデアリマス、而シテ此案ノ撤回ニ付テハ政友會ノ混雜ヲ防グタメナリト云フコトガ、新聞紙ニ見エテ居ルノヲ持出シテ、横田君ヨリ質問ニナリマシタガ、政府ハ斯様ノ考ヲ以テ撤回致シタルデアリマセヌ(ヒヤ)ト呼フ者アリ)議院法第三十條ニ依リテ撤回致シタルデアリマス(ヒヤ)ト呼フ者アリ)又「ソレハ理由ニナラヌ、撤回ノ理由ハ何處ニアルカ」ト呼フ者アリ)斯様ノ質問ニハ答フルノ必要ガアリマセヌ

〔理由ガ分ラヌト呼フ者アリ〕

○栗原亮一君 報告ヲ補テ置キマスガ、宅地價修正案ハ委員會デ各派ヨリ選出サレタ委員諸君ヨリ全會一致否決シタルデアリマス

〔此時發言ヲ求ムル者多シ〕

○副議長(箕浦勝人君) 島田君ノ登壇ヲ許シマシタ

(島田三郎君登壇)

○島田三郎君 本員ガ許可ヲ得マシタ、前ノ質問ノ續キデアリマス、唯今横田君ヨリ質問ガアツテ、ソレニ大臣ガ答辯サレタルデアリマスガ、是ハ答辯デナクシテ同シ事ヲ繰返シタト本員ハ思フテ居ル、本員ハ常ニ内閣大臣ガ誠意ヲ缺イテ、唯當座ノ言逃レシテ置ケバ、ソレデ職分ガ濟ムト思フヤウナ、明白ニ申シマスレバ、實ハ廉耻ヲ缺イテ誠意ヲ缺イタ答ヲセラルコトヲ、本員ハ屢々嘆息シテ居ルデアリマス、其通リデアル、議院法ニ撤回スルコトノ權利ガアルカラ、其餘ニ依リテ撤回シタル云フハ理由デハナイノデ、議院法ニ依リテ政府ハ議案ヲ提出スル權利ガアルカラ提出セラレタルデアアルガ、其外ニ提出シタル理由ハ何時モ大臣ガ述べラル、ノデアアル、ソレト同ジコトデアツテ、提出シタル云フコト、ソレカラ提出シタル理由ト云フハ、全ク事實ガ別デアリマス、是ト同ジコトデアツテ、撤回シタル其事柄ト、撤回スル所以ノ理由ト云フコトハ、全ク別デアリマスカラ、苟モ常識ヲ具ヘテ居ルナラバ、市井閭巷ノ小人モ亦此區別ヲ知リテ居リマス、内閣ニ居ル大臣ガ知ラヌト云フハ餘リ失禮デアラカラ、知リテ居ル、知リテ言フ能ハザルハ理由ガアルト推論シナケレバナラス、言フ能ハザルト云フコトノ裏ニハ誠意ヲ缺イテ、唯當座ノ言拔ガ出來レバ、ソレデ職分ガ立ツト云フ、市井閭巷ノ小人モ尙爲サザル仕方ヲ爲サレテ、議院ヲ侮辱セラレタル本員ハ思フノデアリマス(拍手起ル)現ニ政府ノ提出セラレタ議案ト云フモノハ、直チニ是ガ可否ヲ決セズシテ、必ズ之ヲ委員會ニ附スルコト云フ、鄭重ナル手續ヲ經テ政府ノ議案ヲ重ク視テ居リマス、斯ノ如キ議案ヲ徒ラニ出シテ、徒ラニ撤回スルコト云フコトハ、實ニ内閣大臣ニシテ爲スベカラザル仕事デアルト本員ハ思ヒマス、且又此撤回セラル、ニ至ルトコロノ事實ヲ御覽ニナシタラバ、如何ニモ無責任デアルト本員ハ思フノデアリマス、速記録ヲ本員ハ通覽シテ見マシタラバ、餘程鄭重ニ調ベテ、政府ハ議院ノ建議ニ基テ、議院

ノ意向ニ基テ此案ヲ出シタルノデ、決シテ輕卒デナイト云フコトヲ言フテ居ル、ソレカラ委員會ニ於テモ、現ニ此外ノ議案ガ皆決セラレマシテ、本院議場ニ出テマスル其當日ニ於テ撤回シタ、若モ初メニ其調査ガ不足デアルト云フナラバ、其以前ニ一旦撤回シテ、更ニ提出セラレ、時間ガ十分アルノデアリマスカラ、是等ノ事實ヲ綜合シテ推測シテ見タナラバ大臣ノ言ハ信ズルニ足ラズシテ、本員ハ政友會ノ内情紛亂ヲ極メタガメニ、一黨派ノタメニ國事ヲ左右シ、議會ニ向テ禮儀ヲ缺イタコトヲナサレタルデアルト云フコトヲ明言シマス、若シ然ラズト云フナラ、其理由如何、質問シタイノデアリマス、此事ガアルナラ、アルト伺ヒタイ、無イナラバ無イト云フ理由ヲ伺ヒタイ、是ガ質問ノ要領デアリマス

〔答辯ノ限リニアラスト呼フ者アリ〕

(大藏大臣松田正久君登壇)

○大藏大臣(松田正久君) 島田君ノ質問ニ對シテハ、即チ曩ニ横田君ニ答辯ヲ致シタル同様ノコトデアラカラ、茲ニ繰返スノ必要ハアリマセヌ

○谷澤龍藏君 質問ガアリマス宜シウゴザイマスカ 大藏大臣ニ質問シタイ、撤回セラルト云フコトハ固ヨリ自由ナ話デアリマスケレドモ、併ナガラ其委員會デ否決シタカラ、本會ハ如何ニナルト云フコトヲ豫想セラレテ撤回セラレタルデアアルカ、御答ガ出來マスナラバ其事ヲ伺ヒタシ、モウ一ツ此次ノ議會ニハ必ズ御出シニナルカ如何ト云フコトヲ伺ヒタイ

(大藏大臣松田正久君登壇)

○大藏大臣(松田正久君) 谷澤君ノ又質問デアリマスガ、撤回シタル理由如何ト云フコトデアリマスガ、是マデノ間ニ於テ、委員會デ否決シテ撤回シタルモノモアルシ、是ハ各種アルノデアアル、何時撤回ヲ致シタル云フデモ、決シテ撤回ノ理由ヲ議會ニ向テ示シタルコトハ一遍モナイノデアリマス、而シテ谷澤君ヨリ(島田三郎君)「政府ノ威信地ニ墜チタリ」ト呼フ)御聽キナサイ、谷澤君ヨリ唯今此次ノ議會ニ於テ更ニ提出セララル、ヤ否ヤト云フノ質問ニ至リテハ政府ハ慎重ニ調査ヲ致シテ提出シタガ、曩ニ述べタル如ク、委員會ニ於テハ否決ヲサレタルデアアル、次期ノ議會ニ於テ、提出スルヤ否ヤト云フコトニ至リマシテハ、尙政府ハ調査ヲ致シテ是ナラバ、モウ此上ハ無イト云フ調査ガ屆イタ時分ニハ、或ハ次期ノ議會ニ於テ提出ヲ致スカモ知レマセヌ、今日ニ於テハ必シモ次期ノ議會ニ提出ヲ致スト云フ御確答ハ致シ兼ネルノデアリマス

○島田三郎君 質問ガアリマス、大藏大臣ニ質問致シマスガ、委員會ノ中デ反對ガアルカラ撤回シタル云フナラバ、何故ニ他ノ連續シタル法案ヲ御撤回ニナラヌノデアリマスカ、政府黨タルコロノ政友會諸氏が委員會ニ於テ原案ニ反對シタルデアアル、管ニ此二案ニ反對シタルデアハナイノデアリマスガ、一ハ撤回シ、一ハ本議院ニ付セラレタル云フコトハ甚ダ分ラヌコトデアリマスカラ、其區別ヲ伺ヒタイ

○大藏大臣(松田正久君) 否決ヲ致シタルカラ撤回致シタルハ申サヌノデアアル、唯彼ノ案ハ委員會ニ於テ否決サレタルデアアル、而シテ撤回ハ議院第三十條ニ依リ撤回シタルデアアル

〔討論終結ト呼フ者アリ〕

○白井哲夫君 大藏大臣ハ撤回ノ理由ヲ示サナイノハ、我々判斷スルコトコロニ依ルト、先刻横田君ノ言明シタ如ク、政友會ノ紛糾ヲ鎮壓スルタメニ撤回シタルモノデアルト云フコトヲ認定シテ憚ラヌト私ハ思フ、併ナガラ我々武士道ニ依リテ追窮ハ致サナイ

〔採決〕「呼フ者アリ」

○副議長(箕浦勝人君) 此際チヨット御諮リシマスガ、會期モ切迫シマシタ今日デアリマスルカ、第三部ノ諸君ハ請願委員ノ補缺選舉ヲ請願委員室ニ於テ唯今ヨリ行ハレタイ、又第九部ノ諸君ハ豫算委員ノ補缺選舉ヲ第十二委員室ニ於テ行ハレタイ

〔決ヲ採テカラ〕「異議アリ」

○副議長(箕浦勝人君) 無論此問題ガ濟シデカラ、サウ願ヒタイノデアリマスガ、此場合チヨット申シテ置クコトガ必要デアリマス、是ヨリ順序ニ依テ發言……

〔討論終結〕「贊成」

○副議長(箕浦勝人君) 討論終結ト云フ聲ガ起ッタヤウデアリマスガ、マダ討論ニ入ラヌデアリマス、併シ贊成ガアル以上ハ……

○加藤政之助君 意思ヲ發表シナイデ、討論終結ト云フコトハナイ

○副議長(箕浦勝人君) ドウデス、大分通告モアルノデアリマスガ……

〔採決〕「呼フ者アリ」

○副議長(箕浦勝人君) 強テ討論終結ト云フコトデアレバ、仕方ガアリマセヌガ

○大岡育造君 討論終結デアリマセヌ、質問終結デス

〔マダ討論ハ一ツモ出マセヌ〕「呼フ者アリ」

○副議長(箕浦勝人君) マダ討論ガ無いノデアリマスカラ——ツレハ通告ニ依ッテ發言ヲ許スコトニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕「呼フ者アリ」

○副議長(箕浦勝人君) 加藤君

〔加藤政之助君登壇〕

○加藤政之助君 諸君、唯今政府ガ此宅地價修正案及地租條例改正法案ヲ撤回シタコトニ付キ、諸君ヨリ段々質問ガ起リマシタ、所ガ私ハ必ズ此質問ニ對シマシテハ、當局ノ大藏大臣ハ丁寧親切ニ意思ヲアルトコロヲ表明セラル、コト、考ヘタ、然ルニ思ヒキヤ、此演壇ニ登ラレテ、唯法令ノ第何條ニ依ッテ撤回シタルデアルト云フコトダケヲ繰返シテ、少シモ其意思ヲアルトコロヲ辯明セラレヌ、理由ヲ辯明セラレヌト云フコトハ、實ニ議會ニ對シテ此ノ如キ行動ヲ取ラル、ト云フコトハ、私ハ是非議會ニ對シテ無禮ノミナラズ、國民ニ對シテ立憲ノ行動ヲ取ラル、ノ誠意ナキモノト私ハ非難セザラ得ヌト思フ(拍手スル者アリ)問題外「呼フ者アリ」問題外デアリマセヌ、ツレハ私ハ此案ニ對シテ即チ今問題ニナッテ居ルモノニ關聯シテ居ル、(ヨシノ)「分ツタ」ト呼フ者アリ故ニ私ハ是カラ即チ此問題ニナッテ居リマスルコトヲ、税法整理法案、此税法整理法案ニ對シテハ、委員長ノ報告ヲ是認スルモノデ即チ本案ヲ否決セント希望スルコトヲ者デアリマス(「ツレナラモウ演説ハ要ラヌ」ト呼フ者アリ)此意思ヲ是カラ述ベマスデアリマスガ、抑此税法整理法案ニ對シテ此議會ニ起リマシタノハ、何ガ原因デアルカト申シマスレバ、戰役ニ於テ諸君御承知ノ通りニ非常特別稅ヲ永久稅ニスルコト云フコトガ、一ツノ動機ニナツタデアリマス、其當時吾々ハ此非常特別稅ヲ永久稅ニスルコトニ付テハ、反對デアツタノデアリマスガ、此處ニ御列席ノ政友會ノ諸君ハ、此期限ヲ撤回スルコトニ同意ナサレタ、即チ其期限ヲ撤回ナサレタコトヲ代價トシテ——代リトシテ此税法整理法案ニ對シテ二箇年內ニセヨト云フコトヲ諸君ガ御約束ナサレタノデアリマス、デ此ノ如キ重大ナル非常特別稅ニ對シテ、其非常特別稅ヲ永久稅ニスル代價トシテ、税法整理ヲ約サレタノデア

アリマスルカラ、諸君自身モ心中ニ於テハ必ズ完全ナル税法整理ヲ豫期セラレタコトデアラウ、又日本全體ノ國民ハ勿論左様ニ豫期シタノデアル、此税法整理案ガ一タビ出タナラバ過去ニ於ケル國民ノ租稅ノ負擔ニ輕重ノアル點ハ必ズ矯正セラル、デアラウ、今日惡稅ト世間ニ稱ヘラレテ居ルコトヲコトモノハ、必ズ是ハ廢セラル、デアラウ、ト斯様ニ豫期致シタノデアリマス、然ルニ此税法整理案ガ一タビ世ノ中ニ發表セラレマスルコト云フト、此發表致サレマスモノハ、今日現在諸君ガ御覽ニナッテ居ル通ノ案デアリマシテ、實ニ世間ノ豫期ニ非常ニ反シタノデアル、故ニ私ハ此案ガ一タビ發表ニナリマスル同時ニ、此ノ如キ稅制整理ヲ以テ實行セラル、トキニハ、國家ノ一大不幸デアル、納稅者ノ一大不幸デアルト云フコトヲ考ヘマシテ、即チ不肖ナガラ此税法整理ノ批評ト云フモノヲ書キマシテ、之ヲ貴衆兩院ノ議員諸君ヲ始メ、其他ノ有志者ニ私ハ配付致シマシタ、而シテ世間ノ輿論ガ此税法整理ニ對シテ、如何ニナルデアラウカト云フコトヲ窃ニ考ヘテ居ラタノデアリマス、而シテ我輩即チ吾々ノ同志者ハ、此税法整理案ナルモノハ國民ニ對シテ不利デアル、又國家ノ財政上ニ對シテモ甚ダ十分ノモノデナイト云フコトヲ認メテ、吾々ノ同志ハ之ニ絕對ニ反對スルコトヲ眞先ニ決議シテ、之ヲ世間ニ宣言致シタノデアル、所ガ其後世間ノ議論ヲ聽キマスルコト云フト、ヤハリ吾々ト意見ヲ同ジウス場合ニ段々至ッテ參リマシテ、現ニ此特別委員會ニ於テ之ヲ否決サレタコト云フマデニ立至リマシタノハ、私ノ國家ノためニ喜ビタコトデアリマス、殊ニ政友會ノ諸君ハ舉テ此稅制整理ヲ否決セラル、方ニ御同意ニナツタ、此政友會ノ諸君ガ舉テ此之ヲ御同意ニナツタノハ、所謂正道ヲ取ル、即チ惡意ニナツタコトハ改メテ善イコトニ從フト云フ、此正理ヲ重シタル云フ決心カラ之ニ御同意ニナツタコトヲ多クスルノデアリマス、此ノ如キ行動ヲ政友會ノ諸君ガ整理法案ヲ否決セラレタコトヲ多クスルノデアリマス、此ノ如キ行動ヲ政友會ノ諸君ガ事々物々ニ於テ執ラレ、ナラバ、今ノ政友會ノ政府ハ恐クハ壽命ガ長ク續クデアリマセウ、又政友會モ極メテ盛大ニナルデアリマセウ、ダガラ私ハ左様ニ事々物々ニ付テ政友會ノ諸君ガナサレタコトニ希望スルガ、悲シムベシ過去ヲ顧ルト、政府案ト云ヘバ理非曲直ヲ問ハズニ政友會ノ諸君ガ官從セラレタノハ甚ダ遺憾トスルコトデアリマス、ツレハ此案ハ既ニ否決ト定ツタ、否決ト定ツタ以上ハ最早物ヲ言ハナイデモ宜イダラウト云フ感想ヲ懷カル、諸君ガアルカモ知レナイガ、ツレハ左様ニ往カナイノデアル、此案ハ否決シタギリテ、後來再ヒ提起スルノ必要ガナイモノデアレバ、否決ト定ツタモノニ對シテ辯論ヲ費スノハ、是ハ無駄デアルト謂ハナケレバナラヌ、所ガ是ハ左様デナイ、不完全デアルカラ吾々ハ否決スル、モット完全ナル、モット完全シタル税法整理案ヲ此議會ニ提出セヨト政府ニ求メルノデアル、然ラバ吾々ハ國民ニ對シテモ此重大案ヲ——重大案ヲ否決スルコト云フナラバ、何故決シタノデアルカト云フ意思ヲ明カニスルコトハ、吾々議員ノ職責デアルト思フ、又一方政府ニ對シテハ、吾々ハ此ノ如キ意味ヲ以テ、否決シタノデアルカラ、將來此方針ニ依ッテ再ヒ完全ナル税法整理案ヲ作レヨト方針ヲ授ケルコトガ吾々ノ職責デアルト思フノデアル、此二ツノ理由ニ依ッテ、私ハ此税法整理案ヲ否決スル筋道ダケハ一通リ言ハナケレバナラヌ、之ヲ完全ニ此場所ニ於テ演説スルナラバ、恐ラク三時間ヤ四時間費シテモ私ハ出來ヌト思フノデアルケレドモ、左様ナイコトヲスル必要ハナイ、故ニ要領ダケヲ此處ニ述ベルコトガ極メテ私ハ政府ニ對シ、國民ニ對シテ吾々ノ職責トシテ努メナケレバナラヌコト、考ヘルノデアル、ツレハ此税法ニ付キマシテハ歐米列國ノ近キ狀況ヲ見マシテモ、過去ハ極メテ日本同ジク錯雜ヲ極メテ居タモノデアリマスケレドモ、此税法ハ十分ニ整理

シナケレバナラヌト云フコトガ國論トナリテ、其結果トシテ何レノ國モ次第二稅法ヲ整理シテ、過去稅目ノ數千二百ニ涉リタルモノハ、之ヲ數十二減シテ、極ク單純單一ナモノニ今日ハナラシメ居ルノデアリマス、而シテ何レノ國モ此財政ノ學理ヲ進歩致シタルモノデアリマスカ、此學理ヲ遵奉シテ其學理ノ指示スルコトニ依ツテ、稅法ヲ組織的ニ何レモ改正致シテ居ルノデアリマス、即チ言フテ見マスレバ、此內國稅ニ付テハ或ハ政府ノ保護ニ依ツテ國民ガ立ツカラ、政費ハ即チ其保護ニ關スル目的ヲ以テ、報恩主義ニ依ツテ租稅ヲ出スノガ當然ナルト云フコトノ學理、若クハ報復主義此過去ニ當リ作シタル者ハ過去ニ於テ貧乏ニ陷ル者ハ、政治上ノ結果カラ貧乏ニナリタルノ故ニヤリ此稅法ヲ以テ此貧富ヲ平均スルノガ當然ナルト云フ報復主義ニ據ルカ、若クハ國民ハ實力ノ有ラン限リハ、其實力相當ニ國家ニ貢獻スルノガ當然ナルカラ、ソレニ依ツテ此實力主義ヲ遵奉スルカト云フコトニ依ツテ、此內國稅ニ付テハ、一ノ方針ヲ政府ガ定メテ、其方針ニ依ツテ總テノ稅法ヲ脈絡貫通スルヤウニ、皆改正シテアルノデアリマス、ソレカラ若シ海關稅ニ付テ申シマスレバ、海關稅ハ收入主義ヲ採ルカ、即チ國家ノ此海關カラ取ルトコロノ租稅——租稅ヲ以テ國費ノ大部分ヲ補フコトノ、收入主義ニ據ルカ、或ハ國家ノ生産的事業ヲ保護スルコト云フコト、此保護スルコトノ主義ニ依ツテ、海關稅ヲ掛ケルカ、若クハ自由貿易主義ニ依ツテ此海關稅ヲ組立テルカ、何レニシテモ、海關稅ニ付テモ、歐羅巴ノ諸國一トシテ主義ヲ有タズニ無方針ニ往ク國ハナイノデアアル、所ガ我日本ノ過去ヲ見レバ、決シテサウデハナイノデアアル、所謂無主義、無方針、內地ノ租稅ニ付テモ主義方針ガアルカ、政府ハ何年ノ方針ヲ以テ内地ノ租稅ヲ徵收スルノデアアル、何等ノ方針ヲ以テ海關稅ヲ徵收スルノデアアルカ、斯様ニ質問シタキニハ、恐ラクハ今松田君ガ、此法案ヲ撤回シタコトニ付テ質問ヲ受ケタト同様に答辯シテ、一向要領ヲ得ヌコトデアラウト思フ、左様ナ譯テ、日本ノ過去ハ實ニ無主義無方針、サウシテ複雜極メ、今日現在ノ租稅ニシテモ、其租稅ノ負擔ヲシテ居ル人々ガ偏頗輕重極リナキ負擔ヲシテ居ルノデアリマス、然レニ一方此如ク稅制ハ亂雜ニ陷リテ居ルニ、近時政府ノ爲ストコロヲ見レバ、唯增稅ニ增稅ヲ重ネテ稅ヲ増スト云フコトダケヤンテ居ル、此負擔ノ不公平ヲ矯メ、國民ノ負擔ノ均一ヲ計リ、サウシテ國民ニ安堵ノ思ヒヲサシムル如キ計ヒハ、少シモシテナイノデアリマス、此ノ如キコトガ其局ニ當リテ居ル內閣大臣及政府黨ノ仕方デアルトスルナラバ、國民ハ此內閣及政府黨ニ向テハ不親切ヲ訴ヘザルヲ得ナイノデアアル、故ニ吾々ハ此ノ如キ亂雜ナル稅制デアアルカラ、少クモ此際ニ於テ根本的ノ改正ヲ加ヘラレテ、サウシテ負擔ヲ均衡ニシナケレバナラヌ、即チ國民ノ實力ノアルトコロニ從テ、實力ノアルモノガ實力相當ニ國家ニ貢獻スルコトノ出來ルヤウナル稅制ヲ組立テナケレバナラヌト云フコトヲ、吾々ハ考ヘテ居タルデアリマス、然レニ此度政府ガ提出セラレタルコトノ此稅法整理案ヲ見マスルコト云フト、稅法ヲ整理シテ單純ニシタカト云ヘバ、サウデハナクシテ却テ過去ノ稅制ヲ攪亂シテ、サウシテ煩雜極メ、複雜極メ、其手續ヲ煩密ニシタト云フニ過ギナイ、或ハ却テ輕稅ヲ重クシタト云フニ過ギナイ、私ハ之ヲ稅法整理案トハ見ナイノデアアル寧ろ現在ノ稅法ヲ紊亂シタルコトノ案ト私ハ茲ニ斷言スルコトヲ憚ラヌノデアアル、其證據ヲ舉ゲヨト云フナラバ幾ラモ證據ハアルノデアアル、根本的ニ此稅法ヲ改正スルコトガ、假リニ出來ナイシテモ、例ヘバ普濟西ノ如キ、和蘭ノ如キ、近來ノ學理ニ依ツテ此大改正ヲシテ居ルノデアアルカラ、此普濟西、和蘭ガ、

現ニ先例ヲ示シテ居ルノニ我日本ガ此學理ヲ遵奉スルコトノ出來ナイト云フ理窟ハ、少シモナイノデアアル、故ニ私ハ遺ヲウツスレバ必ズ出來ルデアラウト思フ、而シテソレハ第一二段ノ論ト致シタコトヲ少クモ此稅法整理案ヲシヤウト云フナラバ、土地——此土地ノ如キモノハ何デ此宅地價修正——郡村宅地ト市街地宅地ト合併シテ、ソレハ是ガ稅法整理ト云フコトガ出來ルカ、今日諸君御覽ナサイ、町村ニ歸テ何處ヲ見デモデス、地租ト云フモノハ到ル所不公平ニナラシメ居ルデアリマセウ、此宅地價ノ不公平ト云フコトハ云フマデモナイ、宅地價以外畑地ト市街地トノ接近シテ居ルコトノ地面ノ、此租稅地租ト云フモノヲ比較シテモ、極メテ不公平ガアル、又田ト云フモノト畑ト云フモノノ負擔ヲ比較致シテ見マシテモ、其收入ニ較ベマスルコト云フト、極メテ不公平ニナラシメ居ル、又遠イ所、近キ所、或ハ新タニ繁昌シタル所、衰ヘタル所、是等ヲ比較致シマスレバ殆ド話ニナラナイノデアアル、土地ダケニ付テモ此ノ如ク不公平ガアル以上ハ、苟クモ稅法ヲ整理スルコト云フナラバ、此土地全部ト云フモノハ、整理スル決心ヲ持タナケレバナラヌ、宅地價ダケ修正シテ、何デ是デ地主ノ負擔ノ權衡ガ保テアルデアリマス、將來ノ整理ガ出來ルノデアリマス、私ノ考ヘカラ云フト、苟モ地租ヲ整理スルコト云フ譯テ、其基礎ニ賃賃價格ヲ取ルト云フナラバ、此賃賃價格ノ基礎ニ依ツテ宅地ノミナラズ田畑其他ノ土地モ盡ク其基礎ニ依ツテ、一洗シタル宜カラウト思フ、田畑ト云フ區別ヲスルニモ及バヌ、宅地ト云フ區別ヲスルニモ及バヌ、唯土地ト云フノ澤山ナルデアアル、サウスルト全國土地ヲ持タ人ハ、一圓ノ收入ノアルモノハ即チ五分ナラバ五錢ヲ納メ、十圓ノ收入ノアルモノハ五十錢ヲ納メルト云フコト、全國ノ地主ガ盡ク均一ノ負擔ヲ爲スコトガ出來ルノデアアル、然レニ何事ゾ今度ノ宅地價修正案ナルモノハ、宅地價修正ダケデアツテハ一切構ハヌ、ソレナラバ此宅地價修正ト云フモノハ、公平ノモノデアアルカ、斯ウ云フト、宅地價ハ二十倍以上ニナリタ所ハ、制限シテ稅ヲ取ラナイ、免除スル斯様ナコトデ、是ガ地價ノ修正ニ何ノ役ニ立チマス、前途ノ財政整理ニ何ノ役ニ立チマス、苟モ實力主義ハ收入ノアル者ガ、收入相當ノ租稅ヲ出スト云フコトニ定メテ國費ガ何程ニ膨脹シテモ、其膨脹シタ、國費ノ要求ニ應ズルコトガ出來ルノデアアル、然レニ收入ノ増加シタモノハ制限ヲ立テ、サウシテ此二十倍以上ノ稅ヲ免除スルコト云フヤウニシテ置イテ、一方二國費ガ増加スル、之ニ應ズルト云フコトガドウシテ財政上出來ルモノデアリハシナイ、知レキ話、誠ニ私ハ今ノ當局者ガ無智ダト思フ、ソナコトハ遠慮スルニ及バナイ、又所得稅ニ就テ言フナラバ、諸君ノ御承知ノ通り、今度ノ所得稅法ガ亂雜デアツタト云フコトハ、明カニ分ルデアリマセウ、アレニ勞役ノ收入ト即チ資本ノ收入ト、之ニ區別ヲ立テ、斯ナ區別ヲ立テ是ガドウシテ實行ガ出來ルノデアリマス、又此區別ト云フモノ、基礎ガ公平デアリマス、私ハ不公平平千萬ダト言ハナケレバナラヌ、苟モ唯學理ダケデ、此勤勞ノ收入不足ナモノデアアルカラ、廉價スルガ宜シ、財產ノ收入ハ確定ノモノデアアルカラ、高き稅ヲ取ルガ宜シ、斯ウ云フナラバ私ハ其學理ニ同意スルノデアアル、私ハ寧ろ之ヲ主張スルノデアアル、併ナガラ是ハ恰モ稅制ノナイ白紙ノ場合ニ、此ノ如キコトヲ實行スルナラバ、其通りノ理窟ガ立ツノデアアル、日本ノ稅制ハドウナラシメ居ルノデアリマス、現ニ土地ハ地租ヲ拂テ居ルノデアリマセウ、營業者ハ營業稅ヲ拂テ居ルノデアリマセウ、然レニ此稅ヲ過去ニ拂テ居ル者ヲ顧ミズ、當ニ所得稅ニ於テ、勞役ノ收入ト財產ノ收入トヲ區別シテ、サウシテ勞役ノ收入ニ廉價稅ヲ課スル稅率ノ輕イモノヲ課スルコト云フコトニナレバ、過去ニ既ニ稅ヲ負擔シ

テ居ル者ニ、重イ稅ヲ掛ケテ過去ニ負擔シテ居ラナイ、唯所得稅ヲ納メルトコロノ
所得稅ヲ一納メルトコロノ勞役ノ收入ニ、輕イ稅率ヲ掛ケルト云フ話ニナル、
此ノ如ク稅法ヲ實行シテ國ガ、世界ドコノ國ニアルノデアリマスガ、當局者ハドコニサウ
云フ實例ガアルト云フデアリマスガ、現ニ英吉利ナドニ於テ、斯ウ云フ改正ヲシテ減コトガ
アルガ、英吉利ナドハ地方ノ地主ニ苦情ガ起リテ、ソレヲ樹シテ到頭幾ラカ稅率ヲ減ズル
ト云フコトニヤッタデアリマス、斯様ナ譯デアリマスカラ、大體ノ方針カラ言フデモ、今度
ノ稅法整理案ト云フモノハ、極メテ不眞面目ナ、極メテ不完全ナモノデアル、又營業稅
ニ付テ言フナラバ、營業者カラ種々苦情ガ出テ居ル通り、或ハ小賣ニ付テ、或ハ商品ノ種
類ニ付テ、觀察其當ヲ設テ此稅率ハ甚ダ不當ニ陷テ居ルノハ、數々アルノデアリマス、
此ノ如キ此稅法整理ヲ之デ此處ニ實行スルト、云フコトニナレバ納稅者ノタメニモ、實ニ
不幸、財政上ニ於テモ極メテ不利デアル、故ニ吾々ハ之ニハ絕對的ニ反對ヲ表セザルヲ
得ヌ、此案ヲ是非否決シテ、サウシテ今吾々ガ述べたガ、如キ趣意ニ依リテ、此次ノ議會
マデニハ、私ハ是非完全ナル稅法整理ヲヤメテ、サウシテ國民ノ負擔ヲ輕減シテ、併セテ
國民ノ基礎ヲ完全ニスルト云フコトヲ希望スルノデアリマス、ソレデ是非此方針ニ依リテ
政府ガヤルナラバ、ソレデ宜シウゴザイマスガ、若シ政府ガ今松田君ノ言フガ如キ不親切
ナ考ヲ以テ、之ヲ一旦撤回シタ、否決ヲサレタ、ソレデ其儘ニ置イテ、到頭構ハナイノデア
ル、財政整理ヲナス意思ハ毛頭ナイト云フガ如キ態度ヲ示サル、ナラバ此内閣ハ實ニ國
民ニ對シテ不親切ナル内閣デアルト言ハナケレバナラヌト思ヒマス、唯要領ヲ述ベテ細カク
述ベレハ際限ハアリマセヌガ、要領ヲ述ベテ將來ニ此完全ナル稅制改正ヲ希望スルノデ
アリマス

(拍手起ル)

(討論終結)ト呼フ者アリ「贊成々々」フ聲起ル

○江原素六君 是カラ第九部會ヲ開キタウゴザイマスカラ、此委員ハ離席ヲ請ヒマス
○副議長(箕浦勝人君) 御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○江原素六君 第九部ノ御方ハ十二委員室ニ參集ヲ願ヒマス
○副議長(箕浦勝人君) 討論終結ノ聲ガアリマスガ、贊成ガアリマスカ

(贊成々々)ト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) 討論終結ニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナイト認メマス、討論ハ終結サレマシタ

(通告ガシテアリマス)ト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) 討論ノ終結ノ動議ガアッテ、ソレニ贊成ガアリマシタ——先
刻第四ヨリ第二十二ニ至ルマデ一括シテ議題トナシテ、表決ヲハ各案ニ付アスルト云フ
コトヲ御諮リラシテ置キマシタガ、是ハ寧ロ一括シテ表決ニ附シテハ如何ト思ヒマス

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ガナケレバ其通り致シマス——ソレデハ採決ヲ致シマ
ス、災害地租特別處分法案外十六件ヲ一括シテ、是等ノ諸案ノタメニ第二讀會ヲ
開クコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

(分リマセヌ)ト呼フ者アリ

起立者 無

○副議長(箕浦勝人君) 本案ハ第二讀會ヲ開クベカラズト決シマシタ、日程第二十
一、鐵道買收ニ關スル法律案、第一讀會ヲ開キマス、議案期讀

第二十一 鐵道買收ニ關スル法律案(請願委員長提出) 第一讀會
(書記朗讀)

鐵道買收ニ關スル法律案

鐵道國有法第八條前段ノ鐵道ニシテ該法發布以前政府ノ命令ヲ以テ建設實
費(即チ通貨)ニテ買收シ國有トナスヘキコトヲ規定シ且其ノ規定ニ依リ創
業以來全部ノ建設費支出ニ對シ毎ニ主務大臣ノ認可ヲ經テ建設シタル鐵道
ヲ買收スル場合ニ於テハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 買收代價ハ建設實費ヲ時價ニ依リ換算シタル公債券面金額トス
- 二 公債時價ハ其ノ公債證書交付前二箇月間ヲ置キ其ノ前三箇月間ニ於
ケル帝國五分利公債ノ平均相場ニ依ル
- 三 建設費ニ使用シタル借入金ノ利子及鐵道國有法實施ノ爲ニ要スル費
用ハ之ヲ建設費ト看做ス
- 四 借入金ノ建設費ニ使用シタルモノハ之ヲ建設費ヨリ控除ス
- 五 前各項ニ依ルノ外鐵道國有法ノ規定ニ遵フ

本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○副議長(箕浦勝人君) 竹越與三郎君

(竹越與三郎君登壇)

○竹越與三郎君 諸君、本案ハ北海道鐵道會社ノ社長坂本則美氏カラノ請願デア
リマス、其請願ノ要旨ハ鐵道國有法ニ依リテ、北海道ノ鐵道ヲ買收セラレバ、會社ハ
二百五十萬圓程ノ損害ガアル故ニ特別ノ法律ヲ設ケテ、他ノ會社ト異ナル買收法ヲシ
テ買收スルコトヲ請願デアッタデアリマス、請願委員會ニ於テハ種々討論ヲ圖シマシタ
之ヲ請願ヲ採擇スベシト云フ人々ノ意見ハ、政府ハ會社北海道ノ鐵道會社ニ對シテ、場
合ニ依レバ建設費ヲ以テ買收スルコトアルベシト云フ命令ヲ發シテアルコトガアル、此命
令ガアル以上ハ鐵道國有法ニ依リテ一様ノ買收法ヲスベキモノデナイ、況ヤ其買收ノ
結果トシテ、二百五十萬圓ノ損失ガアル以上ハ、相當ノ救済ヲシテやらネバナラヌ、故
ニ請願者ノ提出シタ請願ヲ採リ、且請願者ノ言フトコロノ法案ニ依リテ之ヲ救済スベ
キモノデアルト云フ譯デアッタ、而シテ之ニ反對スル人々ノ議論ハ、一種ノ命令ノアルコ
トハ事實デアアル、併ナガラ其命令タルヤ、獨リ北海道鐵道ニ限ラズモノデナク、日本鐵道
會社ニモアル、京都鐵道ニモアル、斯ノ如キ命令ガアルガ故ニ、之ヲ特別ノ事情ノ下ニ
置カネバナラヌト云フコトハ、鐵道國有法ヲ議シタ年、最早既ニ解決セラレタル問題デ
アッテ、殊ニ今日之ヲ行フ必要ガナイ、又損失ヲスルト云フケレドモ、北海道鐵道會社
ハ國有鐵道法以後、今日ノ如キ市價ヲ持ッテ居ルガ、此鐵道國有法ノ發布セラレザル
以前ハ、極メテ低キ市價ヲ持ッテ居ッタモノデアルカラ、決シテ鐵道國有ノタメニ損失ヲ
免カレベキモノデナイ、況ヤ其要求ト云フモノハ、極メテ過大デアルノミナラス、此他ノ鐵
道會社ニ此ノ如キ特例ヲ與ヘタナラバ、他ノ會社モ之ニ均霑スベキ結果トナルカラ、國
家ハ非常ニ損失ヲ招イテ、鐵道國有法ヲ根本ヨリ破壊セラレ、デアラウト云フ理由デ、

之ニ反對シテ譯デアリマス、政府モ無論之ニ同意ヲ表サナカッタデアリマスガ、討論ノ結果ハ、此北海道鐵道會社ノ請願ヲ採擇シ、且特別ノ法律ヲ作ッテ之ヲ救済スベシト云フコトガ多數ニナリタリ、之ヲ諸君ノ前ニ提供スルコトニナリタリ、是ガ私ノ報告デアリマス、私ハ請願委員長シテ誠ニ痛苦ナル報告ヲ致シマシタガ、一個人トシテハ之ニ反對デアルト云フコトヲ附言シテ置キマス

(島田三郎君登壇)

○島田三郎君 諸君、本員ハ此委員長ノ報告ニ賛成スルモノデアアル、委員長ノ報告ハ、極メテ目前ノ利害ヨリハ、寧ロ是非正邪ノ觀念ヲ重シタコトヲ、誠ニ嘉スベキ報告デアルト、本員ハ竹越君ノ報告セラレタルコトヲ委員長ノ榮譽トシテ、竹越君ヲ歡迎シヤウト思フ、本員ハ此請願ノ紹介人デアリマス、箕浦勝人君、山本幸彦君、野尻邦基君ノ四人デ、之ヲ紹介致シタデアリマス、本員ハ此事實ヲ知り、竝ニ其請願書ヲ讀シテ、是ハ唯北海道鐵道會社ニ限ラレタルコトノ問題ニアラズシテ、憲法第二十七條ガ、日本臣民ニ保護ヲ與ヘタルコトヲ、私有財産ノ安危ニ關ハルトコトヲ、一般ニ涉ルベキ問題デアルト解釋シタデアリマス、本員ハ請願ニ同情ヲ表シ、同意ヲ表シテ紹介ヲ致シタデアリマス、又ハ定メテ單獨ニ御解釋ニナリタラバ、政友會ノ多數ノ御方モ御同意デアッタラウト本員ハ思フ居リマス、昨年ハ政友會ニ位地ヲ占メテ居ラル、トコロノ大岡育造君ガ、之ヲ紹介セラレタル承テ居リマス、又本年請願委員會ニ於テ、激烈ナル討論ノアツタトキ、政友會ヨリ出ラレタルコトノ委員諸君モ、多數之ヲ主張サレ、贊成セラレタルコトヲ本員ハ知テ居リマス、其後承テ見ルト、是ハ公開ノ集會デゴザイマセヌカラ、本員之ヲ確實ニ明言スルコトハ出來ナイケレドモ、世間ガ信ジ、竝ニ新聞紙ニ傳フテ居ルトコロヲ承ハルト云フ、政友會ノ代議士會ニ於テハ、之ヲ否決サレテ、黨議ヲ以テ反對セラレ、コトニナリタラバ、政友會ニ居リマス、此ノ如キ境遇ノ間ニ立テ居ル本案デアリマスルカラ、本員ハ決シテ大多數ヲ持ッテ居ラル、トコロノ政友會ガ反對セラレ、ナラバ、是ガ可決セラレ、コトヲ本員ハ望シテ居リマセヌ、併ナガラ本員ハ今日多數ヲ占メテ居ル黨派ガ、如何ニ利ニ背イテ多數ノ權力ヲ濫用セラレ、カト云フコトヲ國民ニ知ラシムレバ、本員ノ望ハ足レリト思フ居リマス、ソレ故ニ是カラ其理由ヲ申述ベマス、此理由ト竝ニ政友會内ニ現ハレタ紛擾マデモ、私が承ジテ居ルタケラ今日諸君ノ前ニ明ラサニ申シテ、此紛擾ノ真相ヲ世ノ中ニ明ラカニシテ置クト云フコトハ、日本國民ガ危險ヲ稍免レテ、從來斯ノ如キ不道理ナルコトヲ返スコトガアルマイト思フ、本員ハ此壇上ニ立ッタルコトノ大理由デアリマス、凡ソ紹介ト云フコトハ、受付ガ取扱フト云フガ如キコトデナク、其中ニ書イテアルコトノ請願書ノ根本ニ同意ヲシナケレバ、取次グベキモノデナイト本員ハ紹介者ノ責任デアルト、思フ居ル、ソレ故ニ箕浦君モ御同意デアラウト思フ、山本君モ御同意デアラウト思フ、ソレカラ昨年取次ガレタルコトノ大岡君モ御同意デアラウ、斯ウ云フヤウナ譯デ、何モ事情ト情實ヲ離レテ、此請願ヲ讀シタルコトノ者ハ、何人カ之ニ同情セザラント、本員ハ信ジテ居リマス、是ヨリハ本員ハ迦ッテ鐵道國有法ガ、如何ニ輕率ニ議決セラレテ、如何ニ缺陷甚シク不十分ナルモノデアルト云フコトヲ、本員ハ述ベナケレバナラス、之ニ付テハ多數ノ御方ニ甚ダ御氣ノ毒デアリマスガ、事實ハ其通りデアリマス、此事ハ已ニ現在アノ法律ガ成立シマシタカラ、全國ニ其不便不利ヲ感セシメ、竝ニ鐵道政策ヲ確定スルニアラザレバ其弊害ヲ如何セント云フコトガ、鐵道法案ニ賛成サレタ側

カラ出タトコロヨリ見テモ、彼ノ法案ガ議定サレタ當時ヨリ、鐵道政策ガ立ッテ居ラナカッタト云フコトハ、事實カ證明シテ居リマス、其時ニ起立セラレ、贊成セラレタ御方ガ、今日ハ大ニ悔ミテ居ル、尙政府自ラ之ニ苦シテ居ルト云フコトヲ本員ハ深く知ッテ居リマス、大體不完全不十分ナル法律ノ中ニ、北海道鐵道ガ非常ナ損害ヲ受ケテ、訴ヘルニ處ナシト云フコトハ有勝ノコトデアッテ、此ノ如キ不手際ナルコトガアツタナラバ、之ヲ道理ニ正シテ國家ガ爲スベキコトデアレバ、其策ヲ立テルト云フコトハ、苟モ堂々タル帝國議會ノ責務デアラウト思フ、然ルニ理否ニ拘ハラズ、之ヲ押通スト云フコトハ、苟モ極力爲サヌコトヲ大政府ノ大臣ニ望マナケレバナラヌト本員ハ思フデアリマス、此ノ如ク本員ガ漠然タル議論ヲ致シマシタナラバ、其事實ハ如何ト申シタナラバ、本員ハ斯様ニ申スデアアル、北海道鐵道ガ特別ノ事情ノ下ニ立ッテ、如何ニ勇氣ノ毒ナル形勢ノ下ニ、會社其モノハ一ツノ過チモナクシテ、非常ニ損害ヲ受ケテ、之ヲ訴フル處ナク、幸ニ國民ノ代表會ノ衆議院ニ訴ヘテ、其損害ヲ回復シヤウト云フデアッテ、昨年請願規則ヲ改メテ、其尤モナルコトヲモノハ、請願委員自ラ起草シテ、之ヲ法案トシテ出スト云フコトヲ英國流ノ所謂法案ヲ作ルトコロノ權利ヲ、請願委員ニ與ヘラレタデアッテ、其事ガ事實ニ現ハレタノハ、今回ガ其第二回デアラウト本員ハ思フ居リマス、他ニ之ニ類シタモノハアツタト思フ居リマスガ、是ハ英米諸國代議制度ノ完備シタトコロニ多クアル例デアッテ、法律ヲ一旦規定シタカラト云ッテ、ソレガ完全ニ行ハルモノデナイト、然ラバ其缺陷ヲ感シタルトキニ、國民ノ哀訴ヲ容レテ、サウシテ之ヲ作り直シテヤルト云フコトハ、議會ノ大切ナル一ノ職分デアラウト本員ハ思ヒマス、即チ北海道鐵道會社ガ、不完全ナル、不十分ナル、穴ダケノ缺陷多キ、匆卒ニ規定セラレタルコトヲ、此鐵道法案ノタメニ損害ヲ破ッテ、此救済ヲ立法部ニ求メラル、トコロノ第一ノ例トシテ、本員ハ他ニアルコトハ暫ク措イテ、最モ著シキ例トシテ之ヲ見ルデアリマス、是ヨリ事實ヲ本員ハ述ベヤウト思フ、此北海道鐵道ハ明治三十三年ニ起工シテ、政府ノ特許ヲ受ケタル年間ハ、明治四十一年ニ完成スルト云フコトニナリタリ、所ガ國家ノ必要即チ日露ノ形勢ガ段々穩ナラズシテ、未ダ戰ヲ開カザル以前カラ、北海道ノ交通ヲ早ク開クト云フコトハ、當局ニ於テ最モ樞機ニ與カルトコロノ局部ガ、之ヲ感シタデアリマス、旭川ニ兵營ガアツテ、此兵ヲ函館ニ出ス時分ニ、鐵道ノ便ニ依ラナケレバナラス、是ガタメニ函館鐵道ヲ完成シナケレバナラス、速ニ完成ノ仕樣ハナイデアツタガ、會社ガ此國家ノ急ニ應ジ、愛國ノ情ニ感シテ急イテ工事ヤッテ、四十一年マデニ出來ル工事が、三十八年ニ出來上ガッタト云フノハ、此戰ノタメニ最モ其急ヲ感シタガタメニ出來ヌデアリマス、他ニ斯様ナ例ガ何處ニアリマスガ、大抵ハ豫定ヨリ多クノ年限ヲ政府ニ請ウテ追願ニ依ッテ、其期限ヲ延バスノガ普通ノ例デアリマス、北海道ノ四十二年ニ起工スル特許ヲ得テ居ッテ、三十八年ニ完成シタノハ何故デアリマスルカ、日露ノ形勢迫ルガタメニ促サレ、後ニハ日露ノ破裂ノタメニ促サレテ、其期限ヲ待タズシテ國民ノ情トシテ早クシナケレバナラヌト云フノデ、當局ノ命ヲ奉ジテヤッテデアリマス、是ガ若シモ前内閣ノ遞信大臣ガ此議會ニ臨ンデ、大臣席ニ居ラレタナラバ、其事實ハ確カニ知ッテ居ラレタデアリマセウ、參謀本部ノ某少將モ、直接ニ早ク此起工ヲシテ出來上ルヤウニシロト云フ命ヲ傳ヘラレヌコトハ、是ハ遞信大臣ガ一番能ク知ッテ居ラレタデアリマス、斯クシテ出來上ッタ鐵道ハ先以テ一ツノ事情ガ茲ニ成立ッテ居リマス、

一ハ工事ヲ急イダガタメニ工費ガ豫定ヨリ多クナケレバナラヌト云フノハ晝夜兼行デヤ
レバ費用ノ掛ルノハ當リ前デアリマス、モウ一ツハ政府ガ後來之ヲ買入レルコトノアツタ
トキハ其注シ込ダ資本ガ餘リ大キナル計算ヲ受取ツテ、政府ノ不利益デアルカラ、一
哩若クハ一區々々ト云フヤウナ所ニハ必ズ政府ガ鐵道局ノ人ヲ以テ、サウ云フ監督ヲ
セシメテ、其報告計算ヲ皆取ツ居ル、初メ起工スルトキニ監督ヲ受テ、其上テ會計ヲ監
督シテ出來タリデアリマス、此注シ込ダ資本ニ付テハ、初メヨリ政府ノ手ヲ經テ
爲シタ同ジデアリマス、此ノ如クニナツタ鐵道ガ如何ニ買收セラレタカト申シマスルト、
是ハ鐵道法ノ第八條ニ定メデアリマスルガ如ク、此ハ營業年度ニ滿テテ居リマセヌ、前ニ
御話致シマシタ二十三年カラ三十八年ニ終ツタデアリマス、營業年度ガ滿テテ居
リマセヌカラ、五條ニ依ラズシテ八條ニ據ッテ買上ゲルコトニナツテ居リマス、此八條ニ
據ッテ買上ゲル結果ハ、如何デアルト云ヒマスレバ、其資本ノ金額ヲ額面ニ依ッテ公債
證書ヲ與ヘルコトニナツテ居リマス、是ニ於テ公債證書ハ一番高イトキデ、政府ガ交
渉ヲ開イタトキハ、確カ九十圓位デアリマシタ、唯今デハ政府ノ信用財政ノ紊亂ノタメニ
八十二圓位ニナツテ居リマスルカラ、斯ウ云フ風ニ公債ハ下ツテシマヒ、元ノ金ハ――
資本ハ其通り政府ノ檢査ヲ經テ中へ入レタノデスカラ、此資本ガケノ責メテ金ニシテ費ヒタ
イト云フノカ、請願ノ趣意デアリマス、唯情ニ訴ヘタ請願ニアラズシテ、前ニ政府
ガ十五箇年ノ權利ヲ與ヘテ、其十五箇年前ニ於テ、政府ガ便宜ノタメニ買上ゲルトキニ、
中ニ入レタルトキノ金額ヲ買上ゲルト書イデアリマス、金額ト云フ文字ハ如何ナル文字カ、
通貨ヲ意味スルノデ、決シテ公債證書ヲ意味シテ居リマセヌカラ、是ニ於テ公債證書ノ額
面デ之ヲ買上ゲルトキニハ、百圓ニ付テ十八圓位ノ損害ガ立ツ、其上ニ尙ア鐵道法ノ亂
暴ナル、本員ガ若シ假リニ英國ノ私有財産ノ堅固ナル國民ト假リニ之ヲ論セシメタナラ
バ、アノ位不法ナル亂暴ナル權力ノアルモノガ、權力ノナキ國民ノ私有財産ヲ侵スル亂暴ナ
法律ハナイト思ッテ居リマスルノハ、與ヘルモノハ公債額面デ與ヘテ社債ト云フ即チ會社ガ
負債ヲ居ル借金ハ、時價デ政府ガ取ルト云フデアリマス、百圓ハ八十二圓買上ス
ル、公債證書ノ外ニ會社ノ方カラ十八圓ヲ取テ計算スル譯デアリマス、二ツノ理
由ニ依ッテ會社ガ唯今委員長ノ報告シタ通り二百五十萬ノ損ニナツテ居ル、何ノタメニ
損アルカト云ヘバ、本員是ニ於テ法律其モノ、不整備、此不備ノ法律ヲ維持セシガタ
メニ、種々ナ事情ヲ述ベラレルトコロノ大臣ガ、目前ノ利害計算ノ觀念ヨリ外ニナイ、再
ビ繰返シテ言ヘバ、市井閭巷小人ノ考ヲ懷キ、正義ノ觀念ノナイコトヲ證據立テルノデ
アリマス、之ヲ見タル者ハ何人カ之ニ付テ氣ノ毒ヲ感ゼザランヤ、丁度中へ入レタ株金ガ
六百二十四萬圓デアツテ、今ハ四百十八萬圓デアリマス、之ヲ以テ百萬圓ノ額面デ與
ヘ、四百十八萬圓ハ共與ヘタモノカラ、時價デ取ツテ、足りナイトコロハ、再ビ時價デ之ヲ會
社カラ取戻シテ、ヤルトキハ公債證書ヲ與ヘ、取ルトキハ時價デ取ルト云フノハ實ニ亂暴
ナル計算デ、若モ是ガ一個人ノ間ニ此ノ如キ計算ヲナシタトキハ、何人ガ計算ノ曖昧
亂暴ニ驚カザランヤ、立法部ガ此ノ如キ法律ヲ立ツタノハ、當時本員ガ全部ニ反對シマ
シタガ、アノ多數ノ暴橫ノタメニ此ノ如キ不適當ナル法律ガ成立ツタ、本員ハ之ヲ
追懷スルヨリ仕方ナシ、此事實ハ政府ノ當局モサウデナイト云フコトハ云ハヌサウダト
云ウテ居リマス、他ニ之ヲ一タビ許サレタナラバ、鐵道法ノ根柢ガ崩レテ、外ノ會社
カラモ同ジヤウナコトヲ申出ルカラ、是ハ許サレナイ、是ハ所謂市井閭巷ノ小人ノ云

フコトデアツテ、國家ガ若シ公平ヲ尙ブナラバ、堂々タル千萬年モ續ク政府ガ何故ニ斯ノ
如キ四會社ト其利益ヲ爭ウテ、非理ノ利益ヲ占メントセラル、ノデアルカ、甚ダ本員ハ
昇シム、ソレデ此結果ハドウデアルカト云フト、委員會デ政府ノ委員ハ、辭解シタ速記録ヲ
本員ガ精讀シマシタラバ、一ツモ此事實ヲ打消シテ居ナイ、本員ガ今述ベタ通り十五箇
年ノ特許ヲ與ヘテ、拂込マシタ株券ヲ拂込ミ金額ヲ買上ゲル、法律命令ヲ下シテ居ツテ、
而シテ明治四十一年マデノ特許デアツテ、此軍國ノ急ノタメニ、三十八年ニ出來上ツテ
三十九年ニ買上ゲラレタ、他ノ長クヤツテ居ツタ鐵道ハ如何デアリマス、他ノ鐵道ハ皆三
倍ノモアレバ、二倍ノモアル、例ヘバ甲武鐵道、炭礦鐵道ノ如キハ第五條ニ依ッテアノ
計算法ニ依ッテ拂込シタ上、二倍ノモアリ三倍ノモアル、山陽亦然リ、彼ノ鐵道ハ前途
十五年ノ特許ガアルト思ッテ居タラ、國家ノタメニ操上ゲラレテ法律ノ結果餘額ナク取ラ
レシマツタ、取ラレタトキニハ六、營業年ニ滿タヌカラ、マダ儲ケル場合ガナイカラ、八條ニ
據ッテ原價ヨリ下ノモノデアリ上ゲルコトニ致シマシタガ、之ヲシテ數年延バシタナラバ無論
其計算ガ段々上ツテ來テ、第五條ニ據ルニ至ラヌデアリマス、是モ會社ノ隨意デ
政府ニ買上ゲテ貰ツタナラバ、致方ハアリマセヌガ、會社ハ隨意ニアラズシテ、法律ノ結果
取ラレタカラ、此結果ハ之ヲ若シ英米ノ社會ニ現ハレシメタナラバ、天下必ズ奮起シテ
此政府ノ私政ヲ咎メルニ相違ナイ、本員ハ是ニ於テ餘リキタナイ言葉ヲ以テ、列座ノ大
臣ニ加ヘルノハ本員ハ遠慮スル、併ナガラ他國ノ言葉ナレバ遠慮スル必要ハナイト思ヒマ
ス、本員ハ英國ノ殊ニ常識ニ富シテ居ル軍人デ政治家デアツタ「マコーレー」卿ノ言葉ヲ
引イテ言ヘバ、是ハ泥棒デアアル、敢テ本員ガ言フノデアリナイ、他國ノ人ガ言フ、ソレバ法
律ニ依ッテ認メタ約束ヲ後デ拵ヘタ法律ヲ打壞シテ、私立財産ノ特許ヲ破ルト云フコト
ハ、明白ニ泥棒デアルト云アコトヲ「マコーレー」卿ガ云ツテ居リマス、是ハ私ガ大臣ニ加
ヘル言葉デアリナイ、此事實ガ若シ英國ニアツタナラバ、誠ニ穩健ナル「マコーレー」卿モ亦
公然タル泥棒デアルト云ハレデアラウト思フ、少シモ遠慮スルコトハナイ、本員ハ此ノ如
ク明白ナル證據ヲ擧ゲ、殊ニ其人ハ過激ノ人ニアラズシテ、責任アル位置ヲ占メタ、軍
人デ學者デ誠實ナル「マコーレー」卿其人ノ言葉ヲ引イテ言フノデアリ、此人ヲシテ言
ハシムレバ、此行ハ泥棒デアアル、若シモ是ガ亞米利加ノ議會ニ此ノ如キコトガアツタ
ナラバ、憲法ニ據ッテハ無効ノ法律デアアル、アトデ拵ヘタ法律デ、前ニ定メテ私人ニ與
ヘタコロノ權利ヲ奪取ツテ、損害ヲ與ヘルコトハ亞米利加ノ憲法ニ於テハ無効ト明記
シテアルカラ、亞米利加ノ憲法デハ無効デアルト思フ、故ニ英國ノ常識アル政治家ノ言
語ヲ假リテモ、亞米利加ノ憲法ヲ假リテモ、アトデ拵ヘタ法律デ、何ノ罪モナイ者ガ十五
箇年間權利ヲ戴イタト思ッテ居ツタノニ、法律ヲ破ッテ法律ガサウデアルカラ仕方ナシト
云フノハ、國家ガナスト私人ガナストニ拘ハラズ、常識アル英米ノ政治家、英米ノ穩健ナ
ル思想家ハ之ヲ泥棒ト云ヒマス、是ハ本員ノ言葉デアリナイ、餘リ大臣ニ御氣ノ毒デア
カラ本員ハ言ハナイガ、本員ハ此泥棒ノ手傳ヲスルコトハ出來ナイ、斯ウ云フ事情デア
ル、ソレノミナラズマダ之ニ嘘ガアル、一ツモ政府ハ責任ノアル言葉ヲ與ヘナイ、今日松田
大藏大臣ガ此處ニ立ッテ言ツタコトハ一ツモ根據ガナイ、答ニナツテ居ラス、常識アル人ハ
此ノ如キコトハ受付ケナイ、詰ラヌコトヲ仰シヤツタ、ソレト同ジコトニ之ヲ一度許スト、
他ノ會社ニモ及ボスト云フ他ノ會社ニ及ボシタ宜イデハナイカ、及ボサウナ他ニ會
社ハアリハシナイ、及ビモシナイ、此事ハ速記録ノ中ニ責任アル平井晴二郎君ガ答ヘラレ

テアル、二月十七日ノ速記録ノ中ニ降旗元太郎君ノ質問ニ對シ(此時發言スル者アリ)默シテ御イデナサイ、本員ノ得々權利ヲ妨ゲルトコロノ人ハ、盜賊ノ手傳ヲナサルナラ勝手アルガ、本員ハ盜賊ノ手傳ハ出來ナイ、自由言論ノ場所デアリマス、此所ハ自由言論ノ場所デアリマス——平井晴二郎君ガ降旗元太郎君ニ答ヘタルコトヲ言葉ニ、他ニ嚴密ニ監督ヲ經テ、總テノ工事ヲ監督シテ、其會計帳簿マデ政府ガ監督シタルハ外ノ會社ニハナイト答ヘタ、是ハ二月十七日ノ速記録ニ出テ居ル、サウスルト外ニハ何モナイ、此ノ如キ手續ヲ經テ此ノ如ク確カニ是デケノ金ヲ入レタコト云フコトハ、政府ノ方デ認メテ居ルトコロノ會社ハ一ツモ無イデアリマスカラ、ソコデ廻テドウデアルト云ヒマスト云フト、明治三十五年四月ニ左ノ命令ヲ發シテ居ル、「本免許狀ハ下附後十五箇年ヲ經過シタルトキ若クハ其以前ト雖モ北海道官設鐵道ノ經理上必要ト認ムルトキハ總設置費ヲ以テ鐵道及ヒ附屬物件ヲ政府ニ買上ルコトアルヘシト」書イテアル、ドシナ人デモ言葉ノ上デ建設費ヲ云フノハ公債證書アルト云フ馬鹿ナ解釋ヲスル者ハ日本國中ニ誰モナイ、苟モ日本ノ言語、日本ノ文字ヲ解シ得ル者アルナラバ此ノ如キ愚カナル解釋ヲ下ス者ハ一人モナイ、日本鐵道ノ場合ノ如キハ總テ期限ガ切レテ居ルト云フコトヲ平井晴二郎君ハ言フデ居ル(此時發言スル者アリ)モウ少シ速記録ヲ能ク讀シテ御饒舌リナサルガ宜カラウ、政友會カラ出テ居ル人々ノ多數ノ同意デ、確カニ之ニ反對セラレタノハ今日辭表ヲ出サレタ武藏金吉君デケダト思フ、アトハ森肇君ナドモヤハリ之ヲ是認セラレタ、ソレカラ松浦五兵衛君モサウデアラフデ、進歩黨ヲ代表セラレ降旗元太郎君モ政府ノ方デナイニ拘ハラズ、ドウ云フ譯カ此案ニハ反對セラレズニ、常識ニアラザル判決ガ出テ來タ、而シテ其事ガ政友會ノ代議士會デ演レテ、其時ノ事情ヲ新聞其他デ承ハルトコロニ依ルト、松田大藏大臣、原通信大臣ガ其處ヘ出テ來ラレテ之ヲヤテハ財政上ノ根本竝ニ鐵道法ガ崩レカラ、愛國ノ情ニ訴ヘテ哀願セラレタノデ、黨議ニナタト開イテ居リマス、果シテ然リヤ否ヤハ本員ハ知ラナイ、其通リ新聞ガ報告シテ居ル、本員ハ確カニ知ラナイ、ソコデ尙之ニ付テ紛擾ヲ醸サレタコトハ、鐵道廳ガ弱イ者ヲ虐ゲテ、強イ者ヲ聯絡アル者ハ善ク扱フト云フ事實ヲ披露サレタノデ、愈々今日日本政府ハ個人ニ對シ日本臣民ヲ思フコトノ如何ニ冷淡アルカ、如何ニ弱キ者ノ頭ヲ屈スルカト云フコトヲ本員ハ認メルデアリマスカラ、是カラ其事實ヲ申シマセウ、他ノ會社ニ關係ナキコトハ平井晴二郎君ガ云フデ居リマス、斯ウ云フ監査ヲ經テ入レタコトノ金ヲ政府カラ調査シテ見タモノハ一ツモナイ、日本鐵道ハ會テ利子ノ補給ガアツタガ、之ハ期限ガ切レテ居ルトハ、鐵道デ一番ノ權力ヲ持テ居ルトコロノ人ガ答ヘタノデアルカラ、之ニハ誰モ異議ノナキコトデアリマス、緩斯ウ云フ具合ニ何モ罪ノナイ者ニ損害ヲ掛ケテ、サウシテ此ノ如キコトヲ強行シテ、政府ガ二百五十萬圓ニ儲シタコト云フデ居ル、ナラバ、實ニ笑フニ堪エタルコトデ、六億千五百萬圓ノ身代デ二百五十萬圓ヲ儲ケテ、是デ財政ガ安全ナリト云フコトハ殆ド小兒ノ戯レアルト、本員ハ之ヲ輕蔑スル、元ト本當ニ正シタラバ拂フベキモノハ拂ヒ拂フベカラザルモノハ拂ハズトスルガ眞ノ財政、竝ニ政府ノ信用ヲ鞏固ニスルコトガ出來ル、デアラウト思ヒマスガ、此ノ如キ所謂市井ノ小人ノ宰取モ尙爲スル愧ザルトコロノコトヲ爲シテ、政治ヲ執ラウト云フノハ本員ノ徹頭徹尾之ヲ賤ムトコロデアル、併ナガラ何故ニ此事ガ本當ニ社會ニ漏レナイカト云フニ、茲ニ本員ガ諸君ニ御話申スベキコトガアル、政友會ニ最モ親密デアルト承テ居リマス自

由通信社ガ、請願委員會デ此請願ヲ扱フデ、贊成ヲ主張スルトコロノ者ニ醜運動ガアルカノ如キ報告ヲ爲シタ、此事ニ付テハ又他ノ新聞紙デモ報告シタノガアルト私ハ記憶シテ居ルガ、若シ間違テ居ッタラバ御訂正ヲ願ヒタイ、本員ガ認メタノデハナイ、新聞紙ニ書イテアルカラ、之ニ向テ諸君ガサウデナイト仰シヤルナラバ、本員ハ謹シテレゾ承ハリマス、其中ニ書イテアル名前ニハ森君ヤ吉植君其他松浦君ナドガ目指サレテアツタ、醜運動ニ依テ強テ會社ヲ庇護スルヤウナ嚮テ立テラレタ、サウ云フ嚮テ立テラレタガタメニ、是ガ全部ニ醜運動ガアルカノ如ク世ノ中ニ思ハレテ、烟ノ中ニ眞相ヲ沒シテシマッタ、此例ハ本員ハ昨年モ經驗ガアル、憫レムベキ小サナル煙草業者ガ當然ノ補償ヲ求メタトキニ、政府ハ言葉ヲ左右ニ托シテ與ヘナカッタ、サウシテ一方ニハ村井トカ岩谷トカ云フ大キナモノハ取ツテ行ツタ、今日モヤハリ其通リニ本員ハ認メル、大キナ會社ニハ取ツテ行カレタ、併ナガラ憫レムベキ小サナル漸ク出來上テ之カラ肩ヲ休メヤウト云フ會社ハ取レナカッタ、昨年ノ煙草ノトキモヤハリ醜運動ガアルト云フノデ、遠慮深イ御方ハ手ヲ引イタガ、本員ハ引カナカッタ、此ノ如キ場合コソ議院ノ公正ヲ證據立テ、議會ノ何物タルヲ示スノトキ見タカラ、紛々タル誘ニ拘ハラズ、本員ハ憫レムベキトコロノ小サナ煙草業者ニ賠償ヲ爲サルガ宜イト云フデ、政府モ同意シタノデ出來タ、今日モヤハリ其通リデアアル、今ハ醜運動ガアルト思ハレタ御方モアルシ、政友會ノ議ニ上ツタ際、尤モ是ハ皆事實トハ信ジマセヌガ、遂ニ松田大臣原大臣ノ哀願ヲ容レラレテ、之ニ黨議デ反對セラレタト云フコトヲ承テ居ル、果シテ然リヤ否ヤハ本員ハ知ラナイ、傍聽ヲ許サナイ會議デアルカラ果シテ然リト云フコトハ出來ナイ、新聞紙竝ニ通信社ノ間ニ此ノ如キコトガ傳ハッタノハ、社會ノ者ノ知ルトコロデアアル、殊ニ政友會ノ諸君ノ中デモ自由通信社ヲ支配セラレルトコロノ改野耕三君——當議會ノ議員タル改野耕三君ガ非常ニ不平ヲ言ハレテ大分見苦シイ問答ガアツタト云フコトヲ承リマス(此時發言スル者アリ)ドチラガ見苦シイカ知レナイ、山本幸彦君箕浦勝人君ガ紹介サレタコロノモノデアアル、今議長ノ席ニ居ラレルトコロノ箕浦君ノ紹介デアアル、ソレカラ昨年ハ大岡君ノ紹介デアツタ、今日ハ病氣デアルカラ致シ方ガナイト云フテ山本君ガ缺席セラレタガ、大岡君ガ缺席セラレタカ、本員ハ知ラヌガ(居ル)ト呼フ者アリ併ナガラ事實ハ其通リデアアル、ソレカラ他ノコトニ付テドウ云フ事實ガアルト云フト、之ニ付テ本員ガ聞及ンデ居ルコトハ、他日會計検査院ノ監督ヲ經テ現ハレラデアラウト思ッテ居リマスガ、一言スルニ今日ノ立法部ハ甚ダ弱クシテ、サウシテ道理デアツタモ、風聞ヲ立テラレバ弱ルト云フヤウナ、甚ダ本員ノ嫌ヒナ氣風ガ行ハレル、ソレカラ請願者ガ強ケレバ行ハレルガ、弱ケレバ行ハレヌト云フ頼母シ氣ナキ政治上ノ形勢デアルト云フコトヲ思ッテ居リマスカラ、ドウシテモ言ハズニ置カレマセヌ、山陽鐵道ト政府ノ間ニハ他日世間ニ傳ヘラレルトコトガアル、本員ハ之ヲ以テ直チニ事實ガサウデアルトハ思ハヌ、西成鐵道ト政府當局ノ間ニオカシキ契約ヲ結ンダト云フコトヲ窃カニ知ツテ居ル、ソレハドウ云フコトデアルカト云フト、山陽鐵道ハ神戸ニ此會社ガ持ツテ居ル土地ガアル、其土地カラハ年々二萬圓程ノ借地料ガ出テ居ツタヲ、此土地ヲ終リノ年度ニ賣却シマシテ、之ヲ一年ノ計算ノ收入ニ入レタカラ、是デケ利益ガ儲カルト云フノデ、一時ニ四十萬圓程ノ計算ガ殖エテ居ル、之ヲ年々利益ノ中ニ計算シタカラ山陽鐵道ハ餘程多額ノ金ヲ取ツタト云フコトガ世間ニ傳ヘラレテ

居ルガ、果シテ然ルヤ否ハ知ラヌ、山陽鐵道が腕が強くシテ此ノ如キコトヲシタカ知ラヌガ、西成鐵道ハ政府ト民事ノ契約ヲシテ居ル鐵道局長トヤシ居シタカラ、法律デアッ
タトコロガ、民事ノ契約ハ別アルカラ、訴訟ヲシテモ鐵道ハ賣リナイト云ツタノデ、此法律
が此中ニ入レタノハ、鐵道國有法ノリ損ヒテ、其組漏ラ證據立テタノアル、是が表
面ニテハ大變ニ國カラドウツ、是ハ和談ニテ貫ヒタイト云フノデ、所謂情實ノ解
釋ヲ下シテ、西成鐵道ノ當リ前ノ所有ヲ承テ居ル、凡ソ眞面目ニ政府が答ヘル
民事ノ契約ヲ内々取消シテ賣リタト云フコトヲ承テ居ル、其ノ眞面目ニ政府が答ヘル
トキニハ、一ノ會社ヲイロノ種類ガ出テ來ルト云ツテ拒ムカト云フ、他ノ方デハ斯ウ
云フ風ノ穴ヲケラケコトヲヤツテ居ル、極メテ不信用ノ風説ガ世間ニ傳ハテ居ルガ、本
員ニ又前ニ立戻シテ此ノ如キコトガアルハ、明言シナイ、斯ノ如キ風説ガ傳ハテ居ルガ
ラ、他日會計検査院ガ本年カ來年ノ決算ヲ調上ゲテ、此議會ニ報告スルトキニ、本員
ノ言ハタ事實ガ現ハルヤ否ヤト云フコトヲ見ヤウト思フテ居リマスガ、免ニ角概言スル
不信用ノコトデアツテ、前ニ申シテ通り之ヲシテ英米ノ諸國ニ行ハレシメタナラバ、一ノ會社
ニ此ノ如キ不法ヲ加ヘテ損害ヲ與ヘテ奪フタルモノハ、他ノ一個人モ此ノ如キ害ヲ被ル
ベキ危險ガ存在シテ居ル、ソレ故ニ憲法第二十七條ニ日本臣民ハ所有權ヲ侵サル、コ
トナシト云フ神聖ナル箇條ハ、唯今ノ政治界ニハ殆ド力ヲ失ハントシテ居ルト云フコトヲ、
日本國民ニ警告スルニ甚ダ好キ機會ト思ヒマスガ、甚ダ御迷惑デアツタラウガ、森君ヤ
松浦君ナドノ名前迄出シテ論シタノデアリマスガ、是デモ政府ガ良心ニ愧ヂズシテ、唯私
立會社ハ泣寝入ニナルト云ツテ、笑ヲ含メテ居ラル、ヤ否ヤ、自ラ良心ニ問フテ耻サルヤ
否ヤト云フコトヲ、本員ハ終ニ一言シテ此壇ヲ去ルノデアリマス

〔採決〕討論終結ト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) 望月右内君

〔望月右内君登壇〕

○望月右内君 本員ハ本案ニ付テ反對ノ意見ヲ有スル者デアリマス、ソレデ唯今島田
君ノ贊成演説ヲ伺ヒマシタガ、要スルニ島田君ハ此北鐵ノ請願ヲ委員會ニ取次イデ、
紹介シタ手續ヲ御述ベニナツタノデ、ソレカラ其次ニハ國有法ノ非難ヲシタ、是ハマダ其
非難マデハ免ニ角、道行トシテハ宜シイ、ソレカラ其非難ヲシテ置イテ、サウシテ此改正
法律案ヲ提出スルコトニ付テノ效用ハ、御述ベニナツタ、ソレカラ飛シテ此北鐵會社ノ事
情話ヲ一段落シテ過ギナイト私ハ思ヒマス(笑聲起ル)要スルニ島田君ハ此代議士タル
ノ資格上必要ナルコトヲ御述ベニナツタデアラスシテ、北鐵鐵道ノ茲ニ講釋ヲシテ、遂ニ
此唯今御贊成ニナル其法律ト云フモノハ、如何ナルモノデアルカト云フコトヲ御覽ニナラ
ズニ、唯ソレダケノ話ヲ御降リニナツタ故ニ、私ハ簡單ニモウ斯ウ云フ時間モ切迫シ
テ居リマスシ、島田君ノ如ク流暢ナル辯ヲ以テ長ク諸君ヲ樂シムルト云フヤウナ
演説ハ出來マセヌカラ、ソレデ私ハ簡單ニ其理由ヲ述ベマス、抑此提案ノ出マス誤解ヲ
惹起シタニト申シマスモノハ、是ハ北鐵ニ限リ是ハマア何デス、二十三年以前――
以前ニハ補給ニヤテ成立セシメタ鐵道モアリマス、又補給ヲヤテ成立セシメタ鐵道モア
リマスガ、此近年ニナツテ特別ニ補給ヲヤテ成立セシメタ鐵道ト云フノハ、日本全國中、
我帝國中北鐵ニ限ルデアリマス、デ是ダケノモノヘ對シテ、北鐵ニ對シテ一哩ニ付八
千圓、ソレヲ百五十哩六十五鎮、此八千圓ヲ乘ケマスレバ百二十四万六千五百圓ト
云フコトニナル、是ダケノ金ハ補助シタノデアリマス、之ヲ補助スルトキニ行政者が詮議ト

シテ政府ガ此補助スルタメニ、二十一箇條ト云フ箇條ヲ擧ゲテ、サウシテ政府ノ許可
スルニ換ヘルノ權利ヲ指定シタノデアリマス、國民ヲ代表スル方カラ言ヘバ、政府ハ至レ
リ盡セリ十分ニ能ク行居リテ居ルト言ハナケレバナラヌデアリマス、サウシテ此建設費
費ヲ以テ買上ケルト云フ條件ヲ附シタモノハ、此補助ヲ與ヘルカ、然ラザレバ特殊ノ會社
ニ恩典アル會社ニ對シテ、何レモ附ケテアルデアリマス、ソレハ斯ウ云フ類ガアリマス、又
外ニ北鐵ノ外ニハ鐵道アルデアリマス、京都鐵道、福島鐵道、ソレカラ西成鐵道、北
越鐵道、房總鐵道、九州鐵道、此鐵道ニ特殊ナルモノヲ許可スルトキニ當テハ、建設
費費ヲ以テ買上ケルコトヲ得ル、斯ルコトアルベシト云フノモアル、買上ケルコトヲ得ル
ト云フノモアリマスガ、要スルニ同シヤウナ類似ノ條件ヲ以テ許可シテアル、ソコデ今島田
君ノ御論ノ一部ヲ伺ヒマス、此鐵道法國有制定ノ時代ニ此鐵道ヲ許可シテアル、既
ニ許可シテアル、其許可ニハ許可ヲ得テ居ルト云フ既約權ニ向ヒ、又收用ノ命令アルモ
ノニ對シテ此ノ如ク國有法案ヲ制定スルト云フコトハ暴政デアルト云フコトヲ、既ニ此
議會デモ喋々論ジ、貴族院デモ論ジ、到頭兩院トモ院議決定シテ、今ノ鐵道國
有法案ガ出來タンデアリマス、然ルニ此鐵道國有法案ナルモノヲ己自ラ持ヘテ置イテ、
非難ヲ悉クソレニ非難ヲ遊バストハ、島田君其ガラニモ似合ハヌト私ハ思フデアリマス、
ソレデアルカラ唯此一箇條ハ不十分デアツタカラ、此ノ如ク修正シタイト云フコトナラバ、
是ハ格別デアリマス、此ノ如ク修正致シタイト言ハズニ、唯自分テ持ヘタ法律ヲ、自分
ガ非難ヲシテ、サウシテ北越鐵道ノ恰モ代表者ノ如キ演説ヲシテ、ソレデ此壇ヲ降リタ
云フノハ、如何ニモ島田君ノガラニ似合ハヌ近頃以テ怪シカラス御論ヲナサレタト私ハ
思フデアリマス、假リニ島田君ガ自分ガ贊成シテ居ル法律ハ世ノ中ニ行ハルモノカ、
行ハレナイモノカト云フコトヲ御承知ナシニ、アノ演説ヲサレタンデ今チヨット申上ゲマス、
此法律ノ此建設費ニ使用シタル借入金ノ利子及鐵道國有法實施ノタメ要スル費
用ハ、之ヲ建設費ト看做シ、此法案ヲ行ハウト仰シヤルノデスガ、是デモ島田君ハ贊成
カサルノデアルカ、現金デ下ゲテヤリタイト云フノガ一箇條、ソレカラ此借入金ノ利子ト
云フコトハ、取リモ直サズニ營業費デアリマス、北鐵會社營業費マデ建設費ニ入レ
ヤウト云フ、アナタノ御論ニナル、ソレカラ今一ツハチヨットモ分テヌコトガアル、鐵道
國有法實施ノタメ要スル費用、是ハ自分ガ御贊成ノ案デ一讀スレバ、アナタモ驚
クデアラウ、是ハアナタドウデアリマスガ、鐵道國有ニ對スル國有法實施ノタメ要スル費
用ト言ヘバ、取モ直サズ鐵道國有準備費用デアリマス、昨年ノ議會ニ於テハ、政府ガ仕
事ヲスルタメニ十一万六千五百四十六圓ヲ、四十年度テ協贊ヲ與ヘテ居ル、此北鐵ニ
ヤルハドチデモ宜イガウナ法律ガ若モ出來タラドウ致シマスガ、ソレカラ又此點ニ付テハ
餘程善意ノ解釋シマシタ、所ガ島田君ハ此箇條ニ依テ金ヲ下ゲテヤラウト云フ上カラ
出來タ法律トシマスレバ、會社ガ解散スル費用ヲ與ヘタイト云フ、私ハ解釋デアリマス、
サウアナノ意味ヲ解釋シテ見レバドウデス、會社ガ解散スルノニ清算人ノ手當、ソレカラ
小使ノ費用、ソレナモノカラ總テ解散スルニ付テノ費用ヲ、北鐵ダケニ別ニ建設費ニ見
積ラセタイト云フガ一向其意ヲ得ヌデアリマス、ソレカラモウ一ツ疑惑ノ生シタノハ、此ノ
如キ法案ノ出マシタ原因ハ、此北鐵ニ對シテ許可ノ命令書ノ第十三條ヲ御覽ニ成
テ、サウシテ他ヲ見ズニ二十一條ヲ讀ム御讀ニナラヌカラ、第十三條ニ書イテアルダケ
ニ感謝シテ此案ガ出タノデアリマス、而モ二十一條ヲ見ナクテモ隣リノ十二條ヲ見レバ、

斯ウ云フコトガ書イテアル、此十二條ニ書イテアルコトヲ見ズニ十二條ダケヲ御覽ニナルカラ
サウナル、十二條「本線建設工事ノ竣功期限內ニ竣功セサル時又ハ竣功期限前ト雖モ
既定ノ期限內ニ工事ヲ竣成スルノ見込ナシト政府ニ於テ認定シタル時ハ建設費ヲ以
テ鐵道及附屬物件ノ既成部分ヲ政府ニ買上ケ又ハ之ヲ他鐵道會社ニ賣渡サシムル
コトアルヘシ前項ニ依リ政府力鐵道及附屬物件ヲ買上ケル場合ニ於テハ本命令書ニ依
リ既ニ下附シタル補助金總額ヲ建設費中ヨリ控除スヘシ」斯ウアル、此十二條ヲ御
覽ニナラズ十三條ダケヲ御覽ニナラズ此法律ノ改正案ガ出タ、出タガ此改正案ハ法律ト
シテ行ハレル所ガ少シモゴザイマセヌ、初メニ書イテアルノ何カ手紙ヲ書イテアルヤウナ
ノデ、即チ通貨デ初メテ斯ナモノガ出マスレバ通貨デ渡スコトガ出來ナイ、實ニ杜撰極
マツタモノデアリマス、斯様ナ請願ヲ取次イデ、島田君自身ハ少シハ耻カシイト思ヒテ裁
カスト、立派ナ島田君ガ此ノ如キ案ヲ提出ニ同意シテ、全ク條文ニ關係ナイ演說ヲシテ、
此壇ヲ御降リニナルト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマス、又議員トシテ政府ヲ監督スル地
位ニアリナガラニシテ、政府ノ行動ヲ監督スル地位ノ人ガ、唯私設會社ヲ代表スル演
說ヲシテ、何ダカ政府ヘ突掛デ、之ニ對シテ錢ヲヤラヌノハ怪シカラヌ、錢ヲヤルベキ基礎
ガナイモノヲ、島田君ハ錢ヲヤラヌノハ怪シカラヌト云フ上カラ、御同意ナサレタ演說デア
リマス、又此法案ハ今申上ゲタ通り、一條々々舉ゲテ法律トシテ是認スベキモノチヤアリ
マセヌ、ドレトシテ法律トシテ通過スル價が一箇條モアリマセヌ、此ノ如キ夢見タヤウナ
法案デアデ、如何ニ此趣意ニ同意シヤウトシテモ、此法案ニ同意スルヤウナコトハ諸君ハ
ナサレマイト存ジマスカラ、此貴重ノ時間ヲ費スモ皆様モ御困リデアリマスカラ、長々ノ演
說ハ致シマセヌガ、此法律ニハ反對致シマス

〔討論終結〕ト呼フ者多シ〔採決々々〕ト呼フ者アリ

〔逕信大臣原敬君登壇〕

○國務大臣(原敬君) 此法律案ニ反對ノ政府ノ意見ノアル所ヲ簡單ニ明カニシテ置
キマス、是ハ島田君ハ大變長演說ヲ以テ例ノ通り言ハレマシタガ、私ハ常ニ此長辯ニハ
感服致シテ居ル、併ナガラ島田君ノ言ハレタ通りニ、通過ヲ計ルノニアラズシテ、國民ニ
訴ヘレバ宜シイト云フヤウナ御趣意ニ承ハレル、初メヨリ通過ヲ期サレヌデアレバ強テ爭
フノ必要モナイノデアリマスケレドモ、島田君ノ如キ能辯ヲ以テスレバ、或ハ誤マル人ガア
ル、世間ニ——故ニ一應島田君ノ演說ノ間違ノアル要點ダケヲ辯シテ置カナケレバナラ
ヌ、島田君ハ是ハ政府ガ命令ヲシテ作ラシタノデアルト云フヤウナコトヲ言ハレタガ、是ガ
第一ニ間違テ居ル、當時ノ當局大臣ガ居ッタバト云フ、即チ私ハ與ッタノデアアル、故ニ私
ハ島田君ヨリモ此事實ハ確カニ知ッテ居ル、是ハ決シテ政府ガ命令ヲ作ラセタ鐵道デ
ハアリマセヌ、二十九年ト記憶致シマス、法律デハ政府ガ作ルコトニナッテ居ッタ、ソレヲ
三十二年頃ニ私立會社ニ許スコトニナッタ、即チ當時函樽鐵道ト稱スルモノガ特許
ヲ得テ居ル、併ナガラ一向其仕事ヲ運バヌノデアリマス、株金拂込ムモノガナイタメニ、公
賣ヲ屢シテ居ルト云フ時節デアアル、其時ニ私ハ職ヲ逕信大臣ニ奉ジテ居ッタノデ、直
接會社ノ人々、發起人タル人々カラ、種々ナリ請願ヲ私ニ訴ヘタ、私ハ何故ニ此鐵道ヲ
私設計畫ヲ致シタカ、甚ダ怪シノデアアル、ケレドモソレハ既往ノコトヲ免ニ角鐵道ハ
出來ナイノデアアル、如何ニモ困難デアアル、故ニ政府ハ補助利子ヲ與レルカ、相當ナル補
助ヲ與レルカ、之ヲヤデ與レト云フコトヲ、會社ノ人々ガ種々ナル方面ニ向ッテ、又私ニ

モ直接ニ請願ヲ致シタ、是ハ島田君嘯ト云フコトハ出來ナイ、(島田三郎君「誤解ガアリ
マスカラ演說ガ終リマシタカラ、本員ハ訂正ヲ致シマス、前以テ通告ヲ致シマス」討論
終結セリ)ト呼フ者アリ、然ルニ此事ハ頗リニ成立スルコトヲ希望致シマシタ故ニ、段々其事
情ヲ聞キ何トカシテ此鐵道ヲ成立セタイト考ヘマシタ、他ニ例モアリマシタガ故ニ、一哩
成效致シタナラバ、一哩ニ掛ケタ分ニ對シテ八千圓補助ヲヤルコト云フコトニ決定ヲ致シ
タノデアアル、ソレ等ノ條件ニ基キテ、初メテ確カ十六議會ト思ヒマシタガ、私ガ前年計畫
シタ案ヲ提出シテ諸君ノ御協賛ヲ得タノデアアル、其折衝ヲニ政府ハ此鐵道ニ向ッテ金ヲ
給スルコトガ出來ヌノデアアル、故ニ斯クノ場合ニ政府ガ建設費ヲ以テ買收スルコトガ
アルゾ、斯様ナ政府ノ權利ヲ規定致シタ、即チ鐵道ハ架ケ得ザルトキニハ、豫定期間ニ
架ケ得ザルトキニハ、取上ゲテシマフ、取上ゲルトキニハ、建設費デ、又政府ガ必要ガ
アツテ買フト云フトキガアツタトキニハ、如何ナル相場ヲ來タシテ居ラウト、縱令相場ガ餘程
高イモノデアラウガ、建設費ダケデア買フトコトガアル、即チ買得ルト云フコトハ當時ノ命
令ニ規定シテ、初メテ此金ヲ下附スルコトニナッタノデアアル、而シテ是ハ十六議會即チ明
治三十四年カ五年ト記憶致シマス、日露戰爭ハ夢ニモ知ラヌトキデ、戰爭ノコトガ忙シ
クナツタカラ、命令シテ造ラシタト云フコトガ第一ニ間違、併ナガラ此鐵道ハ進行甚ダ遅
トシテ工事が進マナカッタカラ、シマヒニハ急ガシタニ違ヒナイ、ソレハ後ノ話、命令書ヲ
出ス當時ニ方ッテハ、日露戰爭ハ夢ニモ知ラヌ、サウシテ此命令ヲ出シタノデアアル、ソレデ
此命令ハ契約デアアルカノ如ク言ハレル、契約デハナイ、命令書ハ政府ノ權利ヲ規定シタ
モノデ、補助ヲ與ヘルガタメニ命令書ヲ出シタノデ、命令デ作ラシタ鐵道ハナイノデアアル、
根本ニ於テ間違ッテ居ル、何レニ致シマシテモ政府ハ私設鐵道ノ買收スルニ方ッテ、無
論徒ラニ其會社ノ利益ヲ顧ミズシテ廉價買ヒサスレバ宜シイト云フ事情ハ全クナイ、政府
ハ國有法ニ依テ鐵道ノ完成ヲ期シテ居ル、同時ニ買收セラル、鐵道ノ利益モ保護シテ
ヤラナケレバナラヌコトハ無論デアリマス、故ニ政府ハ各會社ニ向ッテ段々交渉ヲ致シ、既
ニ鐵道タルモノモ多數デアアル、又殘ッテ居ルモノモ五六箇所アル、其中ノ一ツハ北海道鐵
道、北海道鐵道ノ清算ハト遞信省トハ交渉中ナノデアリマス、其交渉中ニ方ッテ議會
ニ是ヲ提出シタト云フコトハ、甚ダ不思議ニ考ヘルノデアリマスガ、未ダ交渉ハ手切レニ
モ何ニモナッテ居ラヌ、又此交渉ガ若シ不當ナラバ國有法ニ依ッテ論ズル方法モアルノデ
アリマス、未ダソレ等ノ手順モ盡シテ居ラヌ、此鐵道ニ向ッテハ唯今申シタルガ如ク一哩
八千圓、即チ百二十何万圓補助モ與レテアリマス、而シテ此補助ノアル間ハ成程相當
ノ配當モ致シテ居ッタヤウニ記憶ラヌ、其以後無配當デアアル、漸次ニハ回復ヲ致シテ
少々ノ利益ハ得タヤウニ見エマスガ、左様ナル鐵道デアアル、右様ニ悲境ニ陥ッタ鐵道デア
ルガ故ニ、政府ハ此鐵道株主ノ懇願ヲ顧ミズシテ、廉價買フ次第デアアル、建設費以內
ヲ以テ、即チ法律ノ規定ニ依ッテ買上ゲルト云フコトハ、決シテ不當ナ買上ゲラレ、而
シテ是ハ獨リ北海道鐵道ニ限ラヌ、他ノ同様ノ鐵道ガ皆此規定ニ依テ買上ゲラレ、
又既ニ承諾ヲ致シテ居ルト云フモノモアル、獨リ北海道鐵道ニ限ッテ、特別政府ガ非常
ナ恩惠ヲ與ヘナケレバナラヌ事情ハ更ニナイ、若シ北海道鐵道ガ此ノ如キ法律ガ通過シ
テ利益ヲ與ヘマシタナラバ、他ノ鐵道會社ニモ同様ナル恩惠ヲ與ヘナケレバナラヌハ當
然ノコトデアリマスガ、左様致セバ茲ニ一億四千万圓ノ金ヲ國庫ヨリ支出シナケレバ
ナラヌ結果ニナリマス、利益ヲ補助スルタメニ一億二億デモ差支ナイト云フ御議論

ニアリマセウケレドモ、此鐵道ヲ特別ニ見テヤラナクレバナラヌ事情ガナイ以上ニハ、他ノ鐵道ニモ均霑サセナクレバナラヌ、均霑ヲサセマスレバ斯様ナ結果ニナリマス、是ハ初メ國有法ト云フ法律ヲ制定シタ當時ノ政府ノ趣意ニナリ、又政府ノ計算ニ基イテナタモノデアルガ故ニ、政府ハ法律上出來得ル範圍ニ於テ北海道鐵道利益ヲ害セヌ限リニ於テ買収致スノデアリマス、此ノ如キ法律ニ御同意シテ國民ノ負擔モ、隨分重イ場合ニ大層ナル恩惠ヲ特ニ此鐵道會社ニ與ヘルト云フコトニハ、ドウシテモ同意ガ出來ヌノデアリマス、此趣意ガ明カニナラタ以上ニハ、此意味ヲ知ラズシテ賛成ヲセラレタカ、紹介セラレタト云フ人ハ最早翻然トシテ了解セラルベキ筈ト信ジマス、敢テ此場合多言ハ致シマセヌガ、是ハ反對ヲ致シマス

○島田三郎君 大臣ノ虛言ヲ訂正致シマス
〔討論終結〕ト呼フ者アリ 議場騷然タリ

〔降旗元太郎君登壇〕
〔島田三郎君〕本員ハ虛言ヲ訂正シマス、北海道鐵道ガ政府ノ命令ニ依ッテ會社ヲ起シタト云フコトハ一言モナイト呼フ

〔討論終結〕ト呼フ者アリ 議場騷然タリ
〔贊成〕ト呼ビ又「アリマス」ト呼フ者アリ

○降旗元太郎君 本員ハ今ノ原遞信大臣、望月右内君ノ全ク事實ヲ誣ヒタル誤リヲ正シタメニ此演壇ニ現ハレマシタ〔討論終結〕ト呼フ者アリ 議場騷然タリ

云フナラ止マヌ、多數ヲ壓制スルナラ仕方ガナイ、止マヌ、〔ヤリ給へ〕ト呼フ者アリ 併ナガラ事實ヲ誣ヒテ居ル

○島田三郎君 北海道鐵道ガ政府ノ命令ニ基イテ會社ヲ起シタト云フコトハ一言モナイノデアリマス、サリナガラ責任アル人ガ早ク此便ヲ開イタト云フコトハ本員ハ明言ヲ致シマス、三十四五年頃カラ露國ト日本トノ形勢ガ迫ッテ來タカラ、ソレデ軍務當局者ガ早ク完成シロト傳ヘタ、ソレカラ尙戰時ニナデ急速ニ急イデアル、ソレヲ内閣ノ大臣ハ事實ヲ曲ゲテ言フコトハ本員ハ明言ヲ致シマス

○副議長(箕浦勝人君) 採決シマス、討論終結ニ異議ハアリマセヌカ
○福井三郎君 討論終結ニ異議ガマリマス

○副議長(箕浦勝人君) 異議ガアレバ決ヲ採リマス
○福井三郎君 本員ハドツモ賛成スルノデモ反對スルノデモナイガ、公平ニ議論ヲサセテ、國民ノ満足スルヤウニスルガ宜シイ

○副議長(箕浦勝人君) 討論終結ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○副議長(箕浦勝人君) 多數ト認メマス
〔異議アリ〕ト呼フ者アリ

○福井三郎君 異議ガアリマス、多數デアリマセヌ、少數デス、實ニ壓制デス、起立ハ少數ナリ、往カヌ

〔反對ヲ御採リナサイ〕ト呼フ者アリ

○福井三郎君 本員ハ數ニ付テ彼此言フノデヤナイ、手續ガ往カヌ、數其モノハ大勢ガ定マデ居ル

○副議長(箕浦勝人君) 異議ノ申立ニ定規ノ賛成ガアリマス、定規ノ賛成ガナイト認メマス、採決致シマス

〔多數ナリト云フ宣告ニ異議ヲ唱ヘマス〕ト呼フ者アリ
○副議長(箕浦勝人君) 異議ヲ唱ヘテモ定規ノ賛成ガアリマス、〔アリマス〕賛成ナシト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) 二十名ノ賛成ガアリマス、チヨット暫ク賛成ノ諸君ハ立ッテ居テ下サイ、定期ノ賛成ハナイト認メマス
〔採決々々〕ト呼フ者アリ

○副議長(箕浦勝人君) ソレデハ採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 少數
○副議長(箕浦勝人君) 少數ト認メマス、本案ハ第二讀會ヲ開カザルコトニ決シマシタ
〔福井三郎君〕本員ガ採決ノトキニ異議ヲ唱ヘタノヲ成規ノ賛成ガ無イト御認メニナツタノデスカト呼フ

○副議長(箕浦勝人君) 最早六時デスカラ、時間ヲ延長シマス
○恆松隆慶君 日程二十二カラ二十九マデハ、此場合提出者ノ説明ハ省イテ委員會ニ於テ十分説明シテ貰フコト、シテ、各案ニ付テ九名或ハ十八名ノ委員ニ付託シタイト思ヒマス、其委員ハ議長ノ手許ニ差出シテ置キマシタカラシテ、其通り決セラレニコトヲ望ミマス

第二十二 質屋取締法中改正法律案(磯部四郎君外十二名提出) 第一讀會

質屋取締法中改正法律案
第十六條中「警察官」ノ下ニ「ハ占有者ノ承諾ヲ得又ハ檢事ノ指揮ヲ受ケテ」ヲ加フ

第二十三 市場法案(川島瀧藏君外五名提出) 第一讀會

市場法案
市場法
第一條 本法ニ於テ市場ト稱スルハ營業者集合シテ一種又ハ數種ノ物件ヲ賣買スル一定ノ場所ヲ謂フ

第二條 市場ヲ設立セムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ
市町村其ノ他ノ公共團體又ハ公共組合ニ於テ市場ヲ設立セムトスルトキハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

市場ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條 市場設立者ハ規約ヲ作り行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第四條 市場ニ於テ賣買ヲ爲ス營業者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ市場ノ會員トナルコトヲ得

第五條 市場ニ於テ他人ノ爲ニ賣買ヲ爲シ若ハ其ノ媒介ヲ爲スヲ業トスルコトヲ得ル者ハ仲立人ニ限ル

第六條 市場ニハ一人若ハ數人ノ管理者ヲ置クヘシ

第七條 市場ニ於テハ賣買ノ當時其ノ市場及規約ニ於テ定メタル區域内ニ在ル物件ノ外之ヲ賣買スルコトヲ得ス

第八條 市場ニ於テ賣買シタル物件ハ代品ヲ以テ受渡ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 市場管理者ハ其ノ設立及維持ノ費用ニ充ツル爲會員及賣買當事者ヨリ使用料並手数料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ徵收方法及徵收率ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第十條 市場管理者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ受渡品ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十一條 市場管理者ハ其ノ規約ノ定ムル所ニ依リ賣買ニ關シ會員及仲立人ニ對シ身元保證金ヲ供託セシムルコトヲ得

第十二條 市場管理者ハ規約ノ定ムル所ニ依リ違約者ニ對シ賣買ヲ停止シ又ハ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ又ハ除名スルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ市場管理者ニ對シ物件ノ公定相場ヲ定メ之カ公示ヲ命スルコトヲ得

第十四條 行政官廳ハ官吏ヲシテ市場ニ臨檢セシメ帳簿建物其ノ他物件並會員又ハ仲立人ノ營業帳簿ヲ検査セシムルコトヲ得

第十五條 市場ニハ命令ノ定ムル所ニ從ヒ物件検査ノ爲必要ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 行政官廳ハ市場ノ位置構造設備及規約ノ變更ヲ命シ又ハ賣買物件ヲ制限スルコトヲ得

第十七條 前項ノ外行政官廳ハ市場ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第十八條 第十五條及第十七條第二項ノ規定ハ市場附屬ノ倉庫業ヲ營ム者ニ對シ之ヲ準用ス

第十九條 衛生上危害ヲ生スル虞アル商品ニ關シテハ明治三十三年法律第十五號第一條及第二條ノ規定ヲ準用ス

第二十條 行政官廳ハ市場設立者、管理者、會員又ハ仲立人ノ行爲法令ニ違

反シ又ハ公益ヲ害シ又ハ行政官廳ノ命シタル事項ヲ執行セサルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 市場ノ設立免許又ハ認可ノ取消

二 市場ノ業務ノ停止

三 賣買物件一部ノ禁止

四 決議又ハ處分ノ停止禁止若ハ取消

五 市場管理者ノ解職

六 會員又ハ仲立人ノ賣買停止若ハ除名

第二十條 市場ノ廢止ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條 行政官廳ハ必要ト認ムルトキハ市場ニ於テ賣買スル物件ニ付市場外ニ於ケル賣買ヲ停止若ハ禁止スルコトヲ得

第二十二條 第二條ニ違反シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 仲立人ニ非スシテ仲立人ノ營業ヲ爲シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第二十一條ニ依リ停止若ハ禁止セラレタル物件ヲ賣買シタル者亦同シ

第二十五條 第七條又ハ第八條ニ違反シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第十四條ノ命令ヲ拒ミ若ハ公定相場ヲ偽リ又ハ第十五條ノ検査ヲ拒ミ又ハ第十六條ニ違反シタル者ハ五百圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ營業者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十八條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テタルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十九條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ犯罪ニ之ヲ準用ス

第三十條 本法ハ產牛馬組合法ニ依リ設立シタル組合ノ市場ニ之ヲ適用セス

第三十一條 市場ニ於ケル物件賣買ヲ業ト爲ササル者ノ市場ニ於ケル賣買ニ付テハ第八條乃至第十一條ヲ適用セス

第三十二條 行政官廳ハ地方ノ狀況ニ依リ區域ヲ限リ本法ヲ適用セサルコトヲ得

第三十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條 本法施行前ニ行政官廳ノ認可ヲ得テ設立シタル市場ハ本法施行ノ日ヨリ三箇年間ハ本法ニ依リ免許セラレタルモノト看做ス但シ本法ノ

規定ニ從ヒ規約ヲ定メ命令ノ定ムル期日迄ニ行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス此ノ期日ヲ經ルモ仍認可ヲ申請セサルトキハ免許ノ效力ヲ失フ

第二十四 關稅定率法輸入稅表中改正法律案(矢島 第一讀會)

關稅定率法輸入稅表中改正法律案

一	同	八、〇〇
二	同	三 割
三	同	五 分
四	同	一三、一〇
五	同	一三、一〇

附則 本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五 地租條例中改正法律案(佐竹作太郎君外 第一讀會)

地租條例中改正法律案

第二十六 普通選舉ニ關スル法律案(松本君平君外 第一讀會)

普通選舉ニ關スル法律案

帝國臣民タル男子ニシテ滿二十五年以上ノ者選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スルトキハ衆議院議員選舉權ヲ有ス

衆議院議員選舉法中納稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附則 本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス

第二十七 市制中改正法律案(立川雲平君外一名提出 第一讀會)

市制中改正法律案

市制中左ノ通改正ス
第九條第二項中「公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ」ヲ「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ」ニ改ム

第二十八 町村制中改正法律案(立川雲平君外一名提出 第一讀會)

町村制中改正法律案

第九條第二項中「公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重罪輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ」ヲ「禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ」ニ改ム

第二十九 他人ノ土地ニ於ケル工作物及竹木ノ所有 第一讀會

權保護ニ關スル法律案(磯部四郎君外六名提出)

第一條 土地所有者ヨリ土地ノ明渡ヲ請求セラレタル者ハ土地所有者ニ對シ其ノ收去スヘキ工作物又ハ竹木ノ買收若ハ移轉料ヲ請求スルコトヲ得但シ土地明渡ノ請求者カ被請求者ノ義務不履行ニ基キタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二條 前條ノ買取代金若ハ移轉料ノ額ニ付當事者ノ協議調ハサルトキハ裁判所ハ土地ノ狀況及收去物ノ種類ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

附則 本法ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○副議長(箕浦勝人君) 恆松君ノ御説ノ通り、日程第二十二ヨリ第二十五マデハ各案議長指名九名ノ委員、第二十六ハ議長指名十八名ノ委員、第二十七二十八ハ議長指名九名ノ同委員ニ付託スルニ御異議アリマセヌカ

○副議長(箕浦勝人君) 御異議ハナシト認メマス、其通り決シマス

○副議長(箕浦勝人君) 此中ニハ委員ニ付託セズニ否決シナケレバナラヌ案モアルノデア

○副議長(箕浦勝人君) 最早時間モ餘程後レマシタカラシテ、今日ハ是デ散會致サウト思ヘマス、報告ガアリマス

(書記朗讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

航路補助費復舊ニ關スル建議案

提出者 横田 虎彦君 松井 源内君 内山 吉太君

航海獎勵法中改正法律案 提出者 中西六三郎君 淺羽 靖君 金子元三郎君

近江谷 榮次君 狹野 芳藏君 木暮 武夫君

板倉 中君 西村 眞太郎君 高橋 勝七君

淺野 陽吉君 早速 整爾君 加瀬 禧逸君

松本 恆之助君 三輪 信次郎君 淺羽 靖君

造船獎勵法中改正法律案 提出者 近江谷 榮次君 狹野 芳藏君 木暮 武夫君

板倉 中君 西村 眞太郎君 高橋 勝七君

淺野 陽吉君 早速 整爾君 加瀬 禧逸君

松本 恆之助君 三輪 信次郎君 淺羽 靖君

民事訴訟法中改正法律案 提出者 宮古 啓三郎君 立川 雲平君 望月 長夫君

谷澤 龍藏君 花井 卓藏君 森田 卓爾君

小河 源一君 小川 平吉君

提出者 宮古啓三郎君 立川 雲平君 望月 長夫君

谷澤 龍藏君 花井 卓藏君 森田 卓爾君

小川 源一君 小川 平吉君

帝國ノ領土内ニ於ケル裁判ノ效力ニ關スル法律案

提出者 小川 平吉君 花井 卓藏君 磯部 四郎君

宮古啓三郎君 小林 仲次君 谷澤 龍藏君

望月 長夫君 神崎 東藏君

一豫算委員ノ補缺選舉ニ左ノ通り當選セラレタリ

第九部豫算委員 望月 小太郎君

○副議長(箕浦勝人君) 次同ノ日程ハ追テ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後六時三分散會

電車市營許否ニ關スル質問ノ參考書

(參照)

甲(三十九年十二月二十三日)

電車市營調查報告要領

本市ニ於テ東京鐵道株式會社ノ軌道物件ヲ買收シテ之ヲ經營セントスルハ市會建議ノ趣旨ニ徴スルモ本市ノ利益ノ爲ニスルモノニシテ道路ノ擴張、下水道ノ敷設ノ如ク主トシテ公同ノ利福ヲ目的トスル不生產ノ事業ト選ラ異ニス若シ本件ヲ以テ一ニ市民交通ノ利便ヲ計ルヲ以テ目的トセシカ本市ノ財力到底之ニ堪エサルノミナラス下水道改良、東京灣築港ノ如キ重大ナル問題アリ故ニ本會ハ本件ヲ調査審究スルニ際シ買收實行ノ能否、買收後ノ經營方法ニ慎重ナル講究ヲ重ナルト共ニ收支損益ノ計算ニ精細ナル考量ヲ費シタリ今調査ノ順序ニ從ヒ其要領ヲ記述スレハ左ノ如シ

第一 買收實行ニ關スル事項

一 買收ハ公益ナリヤ

公益ナル必要條件ヲ充サレハ本市ハ之ヲ今日ニ買收スル能ハス而シテ或事項ノ公益ナリヤ否ヤハ事實ノ認定ニ屬シ劃一ナル斷案ヲ下シ難シト雖左ノ三點ハ公益ニアラスト否定スル能ハサルヘシ

一 買收率ヲ低減スルコト

市ノ收入ヲ増シ市民負擔ノ加重ヲ輕減スルコト

電車ニ對スル市民ノ騷擾ヲ絶ツコト

此他事業ノ改善完成ヲ計リ交通上ノ危險ヲ防止シ市ノ信用ヲ増進スル等ノ事項ナキニアラスト雖市ノ信用ハ依テ以テ財政ノ安固ヲ致シタル後ニアラサレハ期スヘカラス事業ノ改善ヲ計リ危險ヲ防クカ如キハ其方法ヲ具備シテ之ヲ實行シタル後ニアラサレハ云フヘカラサルノミナラス斯ノ如キハ今日ニテモ監督官廳ノ命令シ得ル事項ニシテ必ス市ノ買收ヲ俟テ始メテ行ハルヘキモノニアラス然レトモ市民ノ騷擾ヲ絶ツハ市ノ平和ヲ維持スル所以ナリ又乘車買收率ノ低減ハ本市カ直ニ之ヲ實行スルコトヲ得テ一般交通者ノ利ヲ計ルモノトナリ其實金ノ收入ニヨリテ市經濟ヲ助クルハ市ノ發達膨脹ニ伴フテ市民ノ負擔益々加ハルヲ輕クスル結果ヲ來スモノナリ而シテ此二者中其一ヲ取りテ其一ヲ捨ルハ公益ノ事實ニ反ス何トナレハ買收率ノミヲ輕減スルハ交通ニ利便ヲ益スモ

爲ニ市ハ損失ノ危險ヲ負ヒ市稅ヲ以テ電車市營經營ヲ補フノ恐アリ市ノ收入ヲ増加スルノミニシテ買收率ノ低減ヲ計ラシハ交通機關ヲ收斂征稅ノ具ニ供スルノ據アリ故ニ此二者ハ必ス兩立並行セシメサルヘカラサレハナリ

二 買收ノ命令ハ適法ナリ

公益ノ爲所有權ノ處分スルハ法律ニ依ラサルヘカラス内務大臣ノ命令ハ違法ナリト云フ者アルモ會社カ現ニ此命令ヲ受ケテ營業セル事實アル以上ハ今日ニ追ヒテ此ノ命令ヲ否認スヘキ根據ナシ

三 買收ノ強行方法如何

命令書第三十五條第四十三條第四十五條ノ規定ハ會社ヲシテ買收ヲ拒ミ又ハ引渡ヲ否マシムルカ如キ餘地ナシ本市ハ内務大臣ニ請フテ公權ヲ以テ強行スルコトヲ得ヘシ

四 補償金額

補償金額ヲ算出セントシテ先ツ其標準ヲ得ルニ困難ナル事實アリ即今直ニ買收ト決スルモ公債ヲ募集シ適法ナル手續ヲ進行シ之カ引渡ヲ受ルニ至ル迄ハ時日ヲ要スヘシ然ルニ補償額ハ買收日迄ノ營業純益ヲ悉ク標準トセサルヘカラス而シテ此ノ將來ノ營業純益ハ今日ニ豫測スル能ハサルト舊東京電車鐵道株式會社カ動力變更ノ際馬車ヲ併營シタル當時ノ純益ヲ知ル能ハサルトノ二點是ナリ

故ニ今日補償額ヲ確實ナル標準ニ依ル能ハストシテ假ニ明治三十六年下半期ヨリ明治三十九年下半期迄ノ純益ヲ標準トシテ概算假想セントスルニ命令書規定ノ算出法ハ解釋區々ニ涉リ左ノ如キ種々ノ異レル結果ヲ生シ尙此等ノ算式ヲ折衷シ來レハ其盡ル所ヲ知ラザラントス

A 電車營業開始ヨリ合併ニ至ル舊三會社ノ各半期一日一哩平均純益額ヲ平均シ之ヲ更ニ東京鐵道會社ノ一日一哩平均純益額ト平均シ之ニ一箇年ノ日數及現在營業哩數ヲ乘シタルモノヲ純益平均年額トス

此算出補償金額 參千四百四拾九萬八千六百四拾五圓

B 各會社各營業期ノ純益額ヲ累計シ其總延哩數(營業哩數ニ其營業日數ヲ乘)ニテ除シタルモノヲ以テ一日一哩ノ平均純益トシ之ニ一箇年ノ日數及現在營業哩數ヲ乘シテ純益平均年額ヲ定ムルコト前案ノ如シ

此算出補償金額 參千八百八拾四萬貳千貳百六圓

C 一年度毎ニ各會社ノ純益額ヲ通計シ之ヲ其年度ノ總延哩數ニテ除シ之ニ其年度ノ日數ヲ乘シ更ニ現在營業哩數ニ引延ハシタルモノヲ其年度ノ純益年額トシ各年度ヲ平均シ純益平均年額ヲ定ム

此算出補償金額 參千六百六拾壹萬七千七百七拾六圓

D 一年度ノ年度末營業哩數ニ其年ノ一哩平均純益ヲ乘シ之ニ後年度ノ増加哩數ニ後年度ノ一哩平均純益ヲ乘シタル額ヲ加ヘテ其年度ノ純益年額トシ各年度分ヲ平均シテ純益平均年額ヲ定ム

此算出補償金額 參千參百貳拾四萬九百四拾八圓

E 一年度ノ年度末營業哩數ニ其年ノ一哩平均純益ヲ乘シ之ニ後年度ノ増加哩數ニ其一年哩增純益ヲ乘シタル額ヲ加ヘテ其年度純益年額トシ各年度分ヲ平均シテ純益平均年額ヲ定ム

此算出補償金額 參千四百四拾四萬八千八百六拾九圓

F 三會社併營ノ時ヨリ三十九年下半期(明治三十九年十月一日迄)迄ノ各社純益額ヲ通計シ之ヲ其經過日數ニテ除シ一日ノ平均純益額ヲ算出シ之ニ一箇年ノ日數ヲ乘シテ純益平均年額ヲ定ム

此算出補償金額 貳千六百四拾六萬貳千七百七拾壹圓

G 東京鐵道會社ノ純益總額ヲ總延哩數ヲ以テ除シ之ヲ一日一哩ノ平均純益トシ之ニ一箇年日數及現在營業哩數ヲ乘シタルモノヲ純益平均年額トス

此算出補償金額 參千七百貳拾五萬五千七百拾五圓

H 大體ニ於テA案ト同一ナリ唯一哩平均純益額ヲ算出ニ付キ新線開通ノ爲メ一日一哩平均純益カ低下シタルトキハ其期ノ純益額中ヨリ前期ノ割合ヲ以テ舊線路ノ純益ヲ控除シ其殘額ニ依リ新線路ノ一日一哩平均純益額ヲ算出シ而シテ新舊線路ノ一哩純益額ヲ平均シテ其期ノ一日一哩平均純益額ヲ定

此算出補償金額 參千五百萬七千貳百五拾七圓
以上敘列シタルカ如ク命令書ノ所謂既往營業年々ノ純益平均額ヲ得ルニ八箇ノ異レル金額アリ果シ
テ何レヲ取リテテ支算ノ基礎トスヘキヤ其適斷スル所ヲ知ラス
右ノ如ク補償金額出ニハ確定シタル標準ヲ得難ク之ヲ得ルモ算定區々ニシテ一致セス加フルニ會社
ハ相當ノ補償ヲ求ムル權利アリテ必ズ本市決定ノ金額ニ同意スルモノト見ルヲ得ス隨テ今日本市單
獨ノ意思ヲ以テ補償金額ヲ定ムルハ不可能ナリ

第二 經營ニ關スル事項
電車經營ハ土木衛生教育ノ行政ト異リ市區改正水道ノ如キ事務ノ狀態ニアラス日々刻々複雑頻繁
ナル處理ヲ要ス然ルニ本市ハ制度ノ定ムル機關ニヨリ制度ニ遵フテ處セサルヘカラス市長又ハ市參
事會ヲ以テ會社ノ重役ノ如キ專決執行權ヲ有セシメントスルモ法律ニ違背スル能ハス然ラハ果シテ
如何ナル方法ニ依リテ敏捷ナル處置ヲナスヘキカハ大ニ講究ヲ要スヘキ問題ナリトス

第三 收支ニ關スル事項
補償金額既定ラズ公債募集額亦定ラズ收支ノ計算ヲ立シントスルモ能ハス然レトモ總ニ市會ニ於テ
調査シ之ヲ以テシテ尙本市ニ利益ナリト報告セラレタル參千五百萬餘圓ノ補償額ヲ以テ會社ヲ承服
セシムルモノト假定シ之ニ依リテ其收支狀態ヲ調査審究スルニ別表ノ如ク第五十一年目(明治四十
年二月九日)ニテラズシハ償還ヲ了セス然ルニ若シ本市ニシテ之ヲ買収セシムルハ明治八十五年(十
六年二月九日)ニ無償ニテ引渡ヲ受クヘキ時機アリ故ニ其間危險ト損失ヲ負フテ之ヲ買収スルノ必要ナ
シ左ニ逐次別表ノ内容ヲ說明セシ

一 公債額
市會調査ノ補償額ハ參千五百萬七千餘圓ナルモ募債ノ費用其他雜支出ニ備フルト公債額ノ端數ヲ
去ランカ爲之ヲ參千五百貳拾萬圓トシ其利率ヲ現今ニ於テ最モ低キ五厘五厘トシ額面百圓ニ對シ
手取百圓ヲ得ルモノト假定シタリ故ニ若シ實際ニ於テ此利率以上ナルガ又ハ手取金百圓ニ滿スシ
ハ此計算ニ依ル收支ハ更ニ損失ヲ増スモノトナレ

二 乘車賃ノ收入
賃率低廉ハ公益ノ事由ナリ公益ノ爲ニ買収セントセハ之ヲ參納均一時代ニ復舊セシムルヲ至當
トス
而シテ參納均一時代ニ於ケル最近即三十九年度ハ其下半期ノ中途ニ合併四錢トナリテ標準ヲ得難
シ故ニ試ニ其上半期三社分立時代ノ收入ニ合併以後四錢均一ノ收入ヲ參錢ニ換算シタル額ヲ加算
スルニ參千九拾參萬七千七百貳拾圓餘トナレリ然レトモ市會ノ調査ハ當時之ヲ四百萬圓ト推計シ更
ニ交通發達、人口増加等ノ理由ヲ以テ初年度ニ貳萬圓ノ增收アルモノトセリ三十九年度實際ノ狀
況ハ斯ノ如キ金額ニ上ラサルモ暫ク市會調査ノ額ヲ取リテ初年度ヲ四百貳萬圓ノ收入トシタリ
交通ノ發達ニ伴フテ乘客ノ増加ハ豫想シ得ルモ電車開通以來各其延長區域ヲ異ニシ其増率ヲ推測
スヘキ根據ナシ然レトモ舊馬車鐵道力二十七年目迄八十年々五萬圓ノ遞増スト推算セリ固ヨリ斯ノ如
キ遞増アルヤ知ルヘカラスト雖此ノ推算ニ依リテ大過ナカルヘシトシ第二以後ハ此遞増ヲ加算
シタリ

三 雜收入
市會トナラハ株券書換手續料、建設資金預入利子等ナク不用品賣却代亦多カラサルヘシト豫想セ
ラルモ會社ノ收入セル實況ニ依リ年々九萬圓ヲ計上シタリ

四 營業費
營業費ヲ算スルニ收入ニ對スル割合ノミニ依ルハ増減不定ノ額ヲ標準トシテ變動少ナキ費用ヲ推

官報號外 明治四十一年三月十一日 衆議院議事速記錄第十三號 電車市營許可ニ關スル質問ノ參考書

定スルノ據アリ故ニ實際幾許ノ金額ヲ要セシヤニ重キヲ置キテ調査スルニ左ノ如キ資料ヲ得タリ
(イ) 合併後東京鐵道會社ノ營業費ハ平均一日一哩ニ付六拾壹圓四拾錢參厘ニシテ此ノ一日一哩
ノ乘車賃ヲ參錢ニ換算シタル收入額ニ對スレハ五割二分三厘ニ當ル
(ロ) 參錢均一(三社分立時代最終ノ營業費ハ平均一日一哩七拾參圓四拾八錢五厘ニシテ一日一
哩ノ收入額ニ對シ五割九分八厘ニ當ル
(ハ) 合併四錢均一許可當時內務省ノ調査シタル所ニ依レハ平均一日一哩約六拾七圓五拾錢ニ
シテ之ヲ同省調査ノ收入額ヲ參錢ノ換算ニ換算シタル額ニ比スルニ約五割三分八厘ニ當ル
而シテ右東京鐵道會社ノ營業費(イ)ハ三十九年下半期二箇月餘(八月)ノ決算ニシテ一年ヲ通
シタル平均額ニアラサルト投石懸瓠ノ爲車輦運轉ヲ休止シ營業費中ノ多額ヲ占ムル運轉動力費ヲ
減シタルトノ事由ニヨリ取テ以テ標準トナスヘカラスルノミナラス當時ノ收入ヲ以テ三社分立時
代ノ收入ニ比スルモ一日一割三分ノ減收ニシテ收入ノ増加ニ伴フ營業費ヲ要セリシヲ證セリ次
ノ三社分立時代最終ノ營業費(ロ)ハ分立ニ伴フテ事務費ノ多カリシモノアルヘキヲ以テ直ニ取リ
テ之ヲ標準トナスヘカラス最後ノ內務省調査額(ハ)ハ行政監督廳ノ調査トシテ最モ標準スヘキ所
ナルモ其調査ノ資料ヲ得ル能ハサルヲ以テ暫ク之ニ依ルヲ附屬ス然レトモ此等ノ資料ニヨリテ考
合ハ五割二分三厘ヨリ五割九分八厘ノ間ヲ上下スル事明ナリ依テ本會ハ主テ實際ヲ參酌シ之ヲ合
併後ノ六拾壹圓四拾錢餘ト合併前ノ七拾參圓四拾八錢トノ中間ヲ取ラハ充分ナラサルノ懸念ナキ
ニアラサルモ甚シキ大差ナカルヘシト信シ一日一哩ノ額ヲ六拾七圓五拾錢トシタリ之ヲ上ニ述
入額ニ對セハ其割合五割二分三厘四毛ニシテ恰モ內務省調査ノ額ト一致シ其割合ニ於テハ反テ一
分四厘六毛ヲ減シタリ

然ルニ營業費ハ收入ノ増加ニ伴フテ多キヲ要スルモノナリ一方ニ五萬圓ノ增收アルニ依然ト
シテ六拾七圓五拾錢ノ額ニ止ルヘキ理由ナシ依テ增收ニ伴フ營業費ノ増率ヲ舊東京電車鐵道會社
ノ一定ノ哩數ニ於ケル狀況ヲ參酌シ增加率ヲ減シ五萬圓ノ增收ニ對シテ六拾七圓五拾錢ノ割合ノ
四分ノ三ヲ遞加スルモノトシタリ斯ノ如クニシテ營業費ヲ算スルモ收入ニ對スル割合ハ年々低下
シ第二十一年度目以降ハ四割九分餘ニ過キサルニ至ル

五 公納金ノ代償
公納金ハ市普通經濟ノ財源ニシテ之ヲ失フハ市稅ノ負擔ヲ増ス原由ナリ故ニ市ハ公益ノ爲電車市
營ヲ行ハントセハ此種ノ收入ヲ増加セサルヘカラスハ勿論ナルモ今ハ假ニ最近會社ノ納メタル
額ヲ參酌シテ一箇年拾六萬圓トシ收入ノ増加ニ拘ラス之ヲ増ササルモノトシテ計算シタリ或ハ本
項ノ納金ヲ以テ同シク市經濟ナリ特ニ之ヲ普通經濟ニ組入ルヲ要セスト云フ者アルモ市力今日
拾六萬圓ノ收入ヲ失ハハ歲計ニ多大ノ影響ヲ蒙リ増稅ニ依ルモ容易ニ填補スル能ハス況ンヤ市稅
ヲ以テ電車經營ニ補フハ公益ノ事實ヲ沒却スルオヤ

六 準備積立金
四五十年間ニ天災地變ナシト安心スル能ハス故ニ速ニ充實セル積立金ヲ要スルノミナラス今後年
月ヲ經テ軌道車輛ノ修繕ヲ要スルコト多ク且勞銀物價ノ騰貴ヲ來セハ普通營業費ヲ以テ支エ難カ
ルヘキモ暫ク市會ノ調査ト同シク收益ノ二十分ノ一ヲ積立ル事トシタリ

七 收支計算ノ結果
以上ノ根據ニヨリテ計算スルニ其結果第一年度目ヨリ第八年度目迄八年年々損失ヲ重ネ其額百九萬四千
九百五拾六圓ニ上リ而シテ公債ノ償還ハ第五十一年度目即明治九十年ニアラスハ完了セス本市ハ
幾多ノ危險ヲ負ヒ負債ヲ起シ而シテ無償引渡ヲ受クヘキ年ヨリ五年ノ後ニ漸ク公債ヲ完済シ尙百
九萬餘圓ノ損失ヲ重ヌルニ至ル

第四 結論
以上調査シタル結果本會ハ市會建議ノ趣意ニヨリ今日買収案ヲ提出スルハ不得策ナリト決定シタリ
明治三十九年十二月二十三日

電車市營許可ニ關スル質問ノ參考書

一五九

電車市營收支表

年數	公債額	收入			支出					償還	殘額	不足
		乘車賃	雜收入	計	營業費	公債利子	公債還本	積立金	計			
1	35,200,000	4,020,000	90,000	4,110,000	2,151,469	1,986,000	160,000	97,927	4,345,396			235,396
2	"	4,070,000	"	4,160,000	2,171,539	"	"	99,423	4,366,962			206,962
3	"	4,120,000	"	4,210,000	2,191,609	"	"	100,920	4,388,529			178,529
4	"	4,170,000	"	4,260,000	2,211,679	"	"	102,416	4,410,095			150,095
5	"	4,220,000	"	4,310,000	2,231,749	"	"	103,913	4,431,662			121,662
6	"	4,270,000	"	4,360,000	2,251,819	"	"	105,409	4,453,228			93,228
7	"	4,320,000	"	4,410,000	2,271,889	"	"	106,906	4,474,795			64,795
8	"	4,370,000	"	4,460,000	2,291,959	"	"	108,402	4,496,361			86,361
9	"	4,420,000	"	4,510,000	2,312,029	"	"	109,899	4,517,928			7,928
10	"	4,470,000	"	4,560,000	2,332,099	"	"	111,395	4,539,494		20,506	
11	"	4,520,000	"	4,610,000	2,352,169	"	"	112,892	4,561,061	60,000	9,445	
12	35,140,000	4,570,000	"	4,660,000	2,372,239	1,932,700	"	114,388	4,579,327	90,000	118	
13	35,050,000	4,620,000	"	4,710,000	2,392,309	1,927,750	"	115,885	4,595,944	110,000	4,174	
14	34,940,000	4,670,000	"	4,760,000	2,412,379	1,921,700	"	117,381	4,611,460	150,000	2,714	
15	34,790,000	4,720,000	"	4,810,000	2,432,449	1,913,450	"	118,878	4,624,777	180,000	7,937	
16	34,610,000	4,770,000	"	4,860,000	2,452,519	1,903,550	"	120,374	4,636,442	230,000	1,494	
17	34,380,000	4,820,000	"	4,910,000	2,472,589	1,890,000	"	121,871	4,645,860	260,000	6,134	
18	34,120,000	4,870,000	"	4,960,000	2,492,659	1,876,600	"	123,367	4,652,626	310,000	3,508	
19	33,810,000	4,920,000	"	5,010,000	2,512,729	1,859,550	"	124,864	4,657,143	350,000	6,365	
20	33,460,000	4,970,000	"	5,060,000	2,532,799	1,840,300	"	126,360	4,659,459	400,000	6,906	
21	33,060,000	5,020,000	"	5,110,000	2,552,869	1,818,300	"	127,857	4,659,026	450,000	7,880	
22	32,610,000	"	"	"	"	1,793,550	"	"	4,634,276	480,000	3,604	
23	32,120,000	"	"	"	"	1,767,150	"	"	4,607,876	500,000	5,728	
24	31,620,000	"	"	"	"	1,739,650	"	"	4,580,376	520,000	5,352	
25	31,100,000	"	"	"	"	1,710,500	"	"	4,551,226	560,000	4,126	
26	30,540,000	"	"	"	"	1,679,700	"	"	4,520,426	590,000	3,700	
27	29,950,000	"	"	"	"	1,647,250	"	"	4,487,976	620,000	5,724	
28	29,330,000	"	"	"	"	1,613,150	"	"	4,453,876	660,000	1,848	
29	28,670,000	"	"	"	"	1,576,850	"	"	4,417,576	690,000	4,272	
30	27,980,000	"	"	"	"	1,538,900	"	"	4,379,626	730,000	4,646	
31	27,250,000	"	"	"	"	1,498,750	"	"	4,339,476	770,000	5,170	
32	26,480,000	"	"	"	"	1,456,400	"	"	4,297,126	810,000	3,044	
33	25,670,000	"	"	"	"	1,411,850	"	"	4,252,576	860,000	5,468	
34	24,810,000	"	"	"	"	1,364,550	"	"	4,205,276	910,000	192	
35	23,900,000	"	"	"	"	1,304,500	"	"	4,145,226	960,000	4,966	
36	22,940,000	"	"	"	"	1,231,700	"	"	4,102,426	1,010,000	2,540	
37	21,930,000	"	"	"	"	1,203,150	"	"	4,040,876	1,060,000	5,664	
38	20,870,000	"	"	"	"	1,147,850	"	"	3,988,576	1,120,000	7,088	
39	19,750,000	"	"	"	"	1,086,250	"	"	3,926,976	1,190,000	112	
40	18,560,000	"	"	"	"	1,020,800	"	"	3,861,526	1,240,000	8,586	
41	17,220,000	"	"	"	"	952,600	"	"	3,793,326	1,320,000	5,260	
42	16,000,000	"	"	"	"	880,000	"	"	3,720,726	1,390,000	4,534	
43	14,610,000	"	"	"	"	803,550	"	"	3,644,276	1,470,000	258	
44	13,140,000	"	"	"	"	722,700	"	"	3,563,426	1,540,000	6,832	
45	11,600,000	"	"	"	"	638,000	"	"	3,478,726	1,630,000	8,106	
46	9,970,000	"	"	"	"	548,350	"	"	3,389,076	1,720,000	9,030	
47	8,250,000	"	"	"	"	453,750	"	"	3,294,476	1,820,000	4,554	
48	6,450,000	"	"	"	"	353,650	"	"	3,194,376	1,920,000	178	
49	4,510,000	"	"	"	"	248,050	"	"	3,088,776	2,020,000	1,402	
50	2,490,000	"	"	"	"	136,950	"	"	2,977,676	2,180,000	3,726	
51	360,000	"	"	"	"	19,800	"	"	2,860,526	360,000	1,898,200	
計		215,520,000	4,590,000	220,110,000	125,981,619	73,783,700	8,160,000	6,296,487	214,111,756	35,200,000		1,094,966

乙(四十年十二月十五日)

第二百五十九號

東京鐵道買取ノ件

本市ハ左記假契約ノ約款ニ依リ東京鐵道株式會社ニ屬スル營業及資產ノ全部ヲ買取スルモノトス

假契約書

東京市參事會東京市長(以下單ニ市ト稱ス)ト東京鐵道株式會社取締役(以下單ニ會社ト稱ス)トハ會社ノ營業ヲ擧ゲテ東京市ノ經營ニ移スヲ以テ市ノ公益ト認メ熟議交讓ノ結果假契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條 市ハ以下各條ニ依リ明治四十一年三月三十一日ヲ限リ會社カ其定款ニ從ヒ營業所ノ營業及

第二條 市ハ買取スルモノトス

第三條 會社ハ第一條ノ期日ニ於テ其現ニ有スル金銀、物件、設備ノ全部及一切ノ權利義務ヲ市ニ引

第四條 會社ハ第一條ノ期日ニ於テ市ニ引繼クヘキ金銀、物件、設備及權利義務ニ付此假契約締結ノ

第五條 此假契約締結後會社カ他ト重要ナル契約ヲ爲ストキハ豫メ市ノ同意ヲ受クルヲ要ス但第三

第六條 市ハ買取代價ノ支拂ニ代ヘテ此假契約ノ有效トナリタル日ヨリ六箇月内ニ券面金額六千七

第七條 前項公債證書ヲ交付スル迄ノ間ハ會社發行ノ株券ヲ以テ之ニ代用セシムヘシ

第八條 第六條ニ依リテ發行スル市公債ハ發行ノ年ヨリ第二十七年目迄ノ間ニ抽籤又ハ其他ノ方法

第九條 第一條ノ期日後市公債證書ヲ交付ニ至ル迄市ハ未交付公債證書ノ券面金額ニ對シ年率六分

第十條 市ハ第一條ノ期日ニ現在セル事務員、技師、雇員其他一切ノ會社ノ使用人ノ爲ニ特別任用

此假契約締結後前項ノ人員ヲ増減シ又ハ之ニ對スル俸給其他ノ給與額ヲ増加セントスルトキハ豫

第十一條 會社ハ此假契約締結ノ日ヨリ二週間内ニ此假契約締結ノ日ニ於ケル財産明細表、貸借對

第十二條 市ト會社トハ此假契約ヲ有效ナラシムル爲メ互ニ連帶ナク法定ノ手續ヲ爲スヘシ本條手

第十三條 此假契約ハ市カ市會ノ議決ヲ得ル能ハス會社カ株主總會ノ承認ヲ得ル能ハス又ハ政府ノ

以上契約ノ證トシテ本書ニ通シ市ト會社ト各一通ヲ保有ス

明治四十一年十二月十五日

會社印

東京市參事會

東京市長 尾崎行雄

東京鐵道株式會社

取締役社長 幸田口元學印

東京市參事會

東京市長 尾崎行雄

東京鐵道株式會社

取締役社長 幸田口元學印

明治四十一年十二月十五日提出

有報號外

明治四十一年三月十一日

衆議院議事速記錄第十三號

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

電車市營計否ニ關スル質問ノ參考書

說明

本市ノ財源ヲ増殖シ運輸點火等公共事業ノ改善ヲ圖ランカ爲東京鐵道株式會社所屬ノ電氣鐵道及

附屬事業ヲ買取經營スルヲ適當ト認メ本案ヲ提出ス

參考書

(甲)東京鐵道株式會社ニ關スル調書

第一、會社ノ目的

會社ハ鐵道運輸及電氣供給ノ營業其他之ニ關聯シテ必要又ハ有益ナル業務ヲ營ムヲ以テ目的ト

ス(定款第二條)

第二、會社ノ資本

會社ノ總資本金ハ六千萬圓ニシテ其内詳左ノ如シ

種別	株數	拂込済株金	未拂込株金	摘要
舊株	五十四萬株	貳千七百萬圓	—	一株五拾圓 全額拂込済
新株	六十六萬株	八百貳拾五萬圓	貳千四百七拾五萬圓	一株五拾圓 四分ノ一拂込済
總株數	百二十萬株	參千貳拾五萬圓	貳千四百七拾五萬圓	株主總數七千八百七十七名

第三、會社ノ職員

(一)役員

取締役社長一名、常務取締役三名、取締役七名、監查役四名、合計十五名

(二)社員以下使用人總數六千七百四十九名

第四、會社ノ特許軌道線路

種別	軌道延長
既成市内營業線	九〇哩 六三八
未成(市內線)	一一五 八七一
合計	二二八 一三三

第五、會社ノ貸借對照表、財産目錄

○貸借對照表

貸方 資產ニ屬スル分

未拂込株金 二四七五〇、〇〇〇

建設費 二八、一二七、九三八

貯藏物品 二二四三、五三九

銀行預金 六〇二一、五六三

有價証券 七三、五八九

假拂金 一二九、四三三

未收入金 一九三、五九二

建設費假拂金 五八八、六六〇

電力事業假拂金 七三、一四五

現金 二四、五六三

合計 六二、八四六、〇二七

借方 負債ニ屬スル分

準備積立金 六〇、〇〇〇、〇〇〇

別途積立金 五、六三、一一四

未拂込當金 二二九、〇八七

仕拂未済金 二一、八五五

身元保證金 九七、七二六

貸方 負債ニ屬スル分	合計
準備積立金 六〇、〇〇〇、〇〇〇	六二、八四六、〇二七
別途積立金 五、六三、一一四	一、七四七、五四一
未拂込當金 二二九、〇八七	一、七四七、五四一
仕拂未済金 二一、八五五	一、七四七、五四一
身元保證金 九七、七二六	一、七四七、五四一
當季利益金 一、七四七、五四一	一、七四七、五四一
合計 六二、八四六、〇二七	一、七四七、五四一

(三三)

○財産目録 貸借對照表貸方ニ同シ

第六、會社ノ收支

期別	種目	營業日數	期末現在	收	入	支	出	利	益	配當率
第一回	八一日	八七哩七〇五	一〇九四八五七六〇七	五七六六三二一八五	五七七一九四四二二七	五五七	一九四四二二七	五五七	一九四四二二七	五五七
第二回	一八二日	八八哩四九八	二八二三、五二二	一、二二〇、七〇七	四九四	一、六〇二、三八二	一、二五七	九	九	九
第三回	一八三日	九〇哩六三八	三、〇六七、五〇二	一、三二五、二〇九	〇六七	一、七四七、五四一	〇五六	八	八	八

(備考) 第三回決算及利益分配案ハ未タ株主總會ノ決議ヲ經サルモ參考ノ爲メ茲ニ掲載ス
(乙)鐵道國有法ノ算定法ニ準シ計算シタル東京鐵道買收代價概要

(明治四十年十一月末日現在)

會社	株式會社	總額	建設費	金歩合	金ノ十倍
東京鐵道株式會社	三、五二五、〇〇〇	二八、一二七、九八四、七三四	一、〇七七、二一〇	六〇、一五〇、〇四四	二、四三三、五三九
金概算	四、〇七二、二八二	六四一、八〇五	建設費及電力事業ニ關スル假拂金	金概算	六四一、八〇五
合	六、七二二、二八二	六、七二二、二八二	金概算	六、七二二、二八二	六、七二二、二八二

右ノ外尙ホ未成線及電力事業ニ關スル特許權ノ代價ヲ計上スルヲ要スヘシ

(備考) 一、本計算ハ總テ會社カ公表シタル計數ニ基ケリ
二、益金ヲ計算スルニハ公納金及役員賞與金ヲ控除セリ

(丙)特許命令ニ依ル補償金額調

(明治四十年十一月末日現在)

金	額	摘要
四七、〇九二、五二〇	補償金額	
二、二四三、五三九	貯藏物品價格	
六四一、八〇五	建設費及電力事業ニ關スル假拂金	
四、一〇七、二八二	現金在高及未收入金概算	
五四、〇八五、一四六	計	

右ノ外尙ホ未成線及電力事業ニ關スル特許權ノ代價ヲ計上スルヲ要スヘシ
備考

一、補償金額ノ計算ハ東京鐵道株式會社第一期ヨリ第三期ニ至ル三回ノ決算ニ基キタルモノニシテ其總純益額ヲ總營業延哩數ヲ以テ除シ之ヲ一日一哩ノ平均純益トシ更ニ此額ニ現在營業哩數及一年ノ日數ヲ乘シ總益年額ト爲セリ
二、此計算ハ總テ會社カ公表シタル計數ニ基ケリ

東京市軌道公債發行及償還法參考表

年 數	收 入				支 出				出 入				前 年 殘 高	建 設 費 借 入	償 還
	乘 車 賃	運 賃	雜 收 入	計	營 業 費	差 引 益	積 立 金	公 債 利 子	債 額	公 債 取 還	計				
1	6,594,647	438,000	150,000	7,182,647	2,643,064	109,500	4,430,083	20,000	300,000	4,050,000	67,500,000	60,083	7,182,647		
2	7,138,132	821,000	157,500	8,116,632	2,873,312	205,250	5,028,070	350,000	350,000	4,206,300	71,605,000	38,654	8,113,516 (建設費) (三元常)	4,105,000	
3	7,925,985	1,150,000	165,000	9,240,985	3,218,819	287,500	5,734,666	390,000	400,000	4,824,680	77,078,000	21,883	8,942,882 (同上)	5,473,000	
4	8,939,965	1,424,000	172,500	10,536,455	3,682,158	856,000	6,408,327	324,916	450,000	5,016,360	83,606,000	24,581	9,853,985 (同上)	6,528,000	
5	10,162,705	1,643,000	180,000	11,985,705	4,165,889	410,750	7,309,066	365,453	500,000	5,400,160	90,003,000	24,894	10,967,146 (同上)	6,397,000	
6	11,386,915	1,807,000	187,500	13,381,415	4,874,240	451,750	8,055,425	402,771	550,000	5,537,940	92,299,000	18,398	11,835,059 (同上)	2,286,000	1,400,000
7	12,092,387	1,916,000	195,000	14,203,387	5,202,257	479,000	8,522,150	426,108	600,000	5,448,000	90,800,000	12,172	12,167,517	47,316	2,000,000
8	"	2,025,000	"	14,313,387	5,243,317	506,500	8,563,570	428,179	"	5,328,000	88,800,000	12,192	12,118,188	83,186	2,200,000
9	"	2,135,000	"	14,422,387	5,273,813	533,750	8,614,824	430,741	"	5,196,000	86,600,000	12,191	12,046,498	78,385	2,400,000
10	"	2,245,000	"	14,532,387	5,291,077	561,250	8,680,060	434,003	"	5,052,000	84,300,000	12,178	11,930,508	54,274	2,600,000
11	"	2,254,000	"	14,611,387	5,294,581	588,500	8,758,306	437,915	"	4,806,000	81,600,000	12,144	11,829,140	36,153	2,800,000
12	"	2,404,000	"	14,751,387	"	616,000	8,840,806	442,040	"	4,728,000	78,800,000	12,192	11,682,812	48,400	3,100,000
13	"	2,573,000	"	14,860,387	"	640,500	8,922,556	446,158	"	4,542,000	75,700,000	12,113	11,538,072	6,974	3,300,000
14	"	2,682,000	"	14,970,387	"	670,750	9,005,056	450,253	"	4,344,000	72,400,000	12,116	11,371,700	20,289	3,600,000
15	"	2,738,000	"	15,025,387	"	684,500	9,046,306	452,315	"	4,128,000	68,800,000	11,992	11,171,388	57,976	3,800,000
16	"	"	"	"	"	"	"	"	"	3,900,000	65,000,000	11,950	10,943,346	81,975	4,100,000
17	"	"	"	"	"	"	"	"	"	3,674,000	60,900,000	11,781	10,697,177	64,016	4,300,000
18	"	"	"	"	"	"	"	"	"	3,396,000	56,600,000	11,694	10,439,000	92,226	4,600,000
19	"	"	"	"	"	"	"	"	"	3,120,000	52,000,000	11,589	10,162,970	78,523	4,900,000
20	"	"	"	"	"	"	"	"	"	2,826,000	47,100,000	11,339	9,868,755	40,934	5,100,000
21	"	"	"	"	"	"	"	"	"	2,520,000	42,000,000	11,280	9,562,676	97,526	5,500,000
22	"	"	"	"	"	"	"	"	"	2,190,000	36,500,000	11,086	9,292,481	60,297	5,800,000
23	"	"	"	"	"	"	"	"	"	1,842,000	30,700,000	10,863	8,834,259	53,203	6,100,000
24	"	"	"	"	"	"	"	"	"	1,476,000	24,600,000	10,814	8,518,210	94,331	6,600,000
25	"	"	"	"	"	"	"	"	"	1,080,000	18,000,000	10,520	8,121,916	1,509	6,900,000
26	"	"	"	"	"	"	"	"	"	666,000	11,100,000	10,259	7,707,695	4,979	7,300,000
27	"	"	"	"	"	"	"	"	"	228,000	3,600,000	6,142	7,565,538	22,671	7,800,000
計	306,088,466	61,273,000	6,107,500	372,468,966	132,575,773	15,318,250		11,228,002	15,150,000	99,485,440		427,133	274,185,198	3,982,520	92,299,000

(備考)

一、乗車賃ハ現在營業額(九〇哩六三八)收入ヲ一日一哩金百六拾五圓四拾錢トシ新線收入ハ初年開通ノ分ヲ現營業額ノ七分減、第二年以後開通ノ分ハ更ニ毎年三分宛遞減スルモノトシ左ノ如ク計算セリ

(イ)初年	二十哩開通運輸	一日一哩乗車賃金百五拾參圓八拾錢
(ロ)二年	十哩同	同
(ハ)三年	十五哩同	同
(ニ)四年	二十哩同	同
(ホ)五年	二十五哩同	同
(ヘ)六年	二十六哩同	同
(ト)七年	郡部線三十二哩同上	同

二、乗車賃遞増ノ歩合ハ初年ニ於テ現營業額收入ニ對スル八分ノ増加アルモノトシ、第二年以後其率ヲ遞減シ第十五年ニ五割ノ増收ニ至リテ止マル計算ト爲セリ

三、雜收入ハ第二年ヨリ第七年(新線全部開通ノ年)迄毎年五分宛遞増スルモノト爲セリ

四、營業費ハ現營業額ニ付テハ一日一哩金六拾六圓ヲ基本トシ之ニ遞増スル乗車賃ニ伴フ支出トシテ初年ヨリ遞増乗車賃收入ノ四分ノ一ヲ加算(六拾九圓九拾錢)シ新線ニ付テハ開通ノ年ヲ一日一哩六拾圓貳拾錢トシ、次年以後遞次増加シ五年目ニ至リ金六拾六圓ト爲セリ

郡部線ノ營業費ハ開通ノ年ヲ一日一哩金貳拾四圓貳拾錢トシ、次年以後遞増シテ五年目ヲ金貳拾五圓四拾錢ト爲セリ

營業費ニハ右ノ外年額金貳萬圓ノ豫備費ヲ計上セリ

五、公債取扱費ハ利子拂手數料ヲ千分ノ一、元金拂手數料ヲ千分ノ一、新線建設費借入公債募集手數料ヲ千分ノ二、公債調製費ヲ第一年ニ金五萬圓、第二年ニ金貳萬圓トシ、其外事務費トシテ募集中毎年金四千圓償還中毎年金貳千圓ヲ計上セリ

六、新線ノ建設費ハ初年及第二年開通ノ分三十哩ハ現ニ會社ノ所有スル貯藏物品及現金ヲ以テ支辨シ、其餘ノ分ハ收益餘金ヲ以テ一部ヲ支辨シ、其不足ハ券面百圓ニ付手取九十五圓ノ市公債ヲ募集シ、市內線一哩約二拾六萬圓、郡部線同拾萬圓ヲ要スル計算ト爲セリ

